

履修要項

現代経済学科
国際経済学科

Faculty of Economics
経済学部

2021 入学生用

Ryukoku University

Course Guide

2021年度 入学生用

履修要項

経済学部

『履修要項』は卒業まで使用しますので、大切に保管し、活用してください。
また、『履修要項』配付後に発生した変更、学年暦、各種日程、各学部 窓口事務及び学部共通の各教育プログラム・諸課程については、履修要項WEBサイトを通じてお知らせします。

<履修要項WEBサイト>

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です
(お気に入り登録しておくとう便利です)。



龍谷大学

2021年度 入学生用 龍谷大学経済学部 履修要項 目次

はじめに

学生のみなさんへ	5
経済学部での学び	5
学年暦	6
龍谷大学の「建学の精神」	7
龍谷大学の教育理念・目的	7
経済学部の教育理念・目的	8
経済学部の卒業認定・学位授与の方針[学士(経済学)]	8
経済学部の教育課程編成・実施の方針	11
学生支援の方針	14
ガイダンス	15
大学からの連絡・通知	15
休講・補講・教室変更情報	16

第1部 履修の心得

I 履修をはじめるとにあたって

1. 長期的な履修計画を立てること	19
2. 系統的に科目を履修すること	19
3. 自主的に学修をすること	19
4. オフィスアワー	19

II シラバス

1. シラバスとは何か	20
2. シラバスに記載されている情報	20
3. シラバスの利用方法	20

III 単位制度と単位の認定

1. 単位制度	21
2. 履修登録制度	22
3. 授業科目の履修	22
4. 授業時間	23
5. 卒業要件単位および学士号	23
6. 入学前に修得した単位の認定	25

IV 授業科目の開設方法

1. セメスター制	26
2. 授業科目の開講方式	26
3. 週2回授業科目の開講方法	27
4. 授業科目と授業テーマ	28
5. 先修制	28
6. グレイドナンバー制	31

V 履修登録

1. 履修登録手続のスケジュール	32
2. 履修登録制限単位数	32
3. 予備・事前登録	33
4. 履修登録要件	33
5. 履修辞退制度	34
6. 配当セメスターの考え方	36

VI 成績評価

1. 成績評価の方法	37
2. 成績評価の基準	37
3. GPA制度	37
4. 成績疑義	38
5. 筆答試験の時期	38
6. 受験資格	38
7. 受験の注意事項	39
8. 答案の無効	39
9. 筆答試験における不正行為	39
10. レポート試験における不正行為	40
11. 追試験	40
12. 筆答試験時間	41

VII 卒業研究提出要領 42

第2部 教育課程

I 経済学部のカリキュラム体系 49

II 教育課程の編成方法

1. 授業科目の区分	50
2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目	50
3. クラスの編成	50
4. 学科制	51

III 教養教育科目の教育目的および履修方法

1. 教養教育とは	53
(1) 教養教育の理念・目的	53
(2) 教養教育科目とは	53
(3) カリキュラムマップ	54
2. 「仏教の思想」科目	55
(1) 目的と意義	55
(2) 履修方法	55
3. 言語科目	56
(1) 目的と意義	56
(2) 必修外国語科目の履修	56
(3) 選択外国語科目の履修	59
4. 教養科目	62
(1) 単位認定の方法	62
(2) 開講方式および履修方法	62
5. 教養科目、選択外国語科目の予備登録	63
(1) 予備登録の方法	63
(2) 予備登録できる上限科目数	63
(3) 予備登録結果発表	63
(4) 予備登録にあたっての注意事項	63
(5) 予備登録が不要な科目	64
6. 留学生の必修外国語科目（日本語科目等）	64
7. 教養教育科目開設科目	65
(1) 「仏教の思想」科目	65
(2) 言語科目	65
(3) 教養科目	68

IV 学部専攻科目の教育目的および履修方法

1. 学部専攻科目の目的・履修方法	72
(1) 学科別学修の趣旨と目的	72
(2) 学部専攻科目の分類	72
2. 学部専攻科目開設科目	74
(1) 現代経済学科	74
(2) 国際経済学科	78

3. 演習	82
(1) 演習とは	82
(2) 演習の履修	82
(3) 留学・休学中の演習受講について	83
4. プログラム	84
5. フィールドワーク科目の履修	85
6. 他学部科目受講	86
7. 留学生対象科目	86

V 学部共通コース

1. コースの理念・目的	87
2. 募集日程	87
3. コース離脱（変更）	88
4. 学部共通コースと所属学科	88
5. 各コース	89
(1) 国際関係コース	89
(2) 英語コミュニケーションコース	95
(3) スポーツサイエンスコース	99
(4) 環境サイエンスコース	104

VI その他の教育課程・教育プログラム

1. 留学/国際交流プログラム・単位互換制度・各種インターンシッププログラム	110
2. 単位認定について	112

第3部 諸課程

I 諸課程

1. 諸課程	115
2. 特別研修講座・各種講座・試験	116

第4部 学修生活の手引き

I

窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室 119

1. 窓口事務	119
2. 保健管理センター	119
3. 障がい学生支援室	119

II

授業等の休講措置に関する取扱基準 (自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について) 120

III

学籍の取り扱い

1. 学籍とは	121
2. 学籍簿	121
3. 学生証	122
4. 学籍の喪失	122
5. 休学と復学	123
6. 再入学	124
7. 編入学・転入学	124
8. 9月卒業	124

IV

大学院経済学研究科入学ガイド 125

第5部 付 録

I

学舎見取図 129

II

緊急時の対応 132

学生のみなさんへ

この履修要項は、龍谷大学経済学部において開設されているすべての授業科目を紹介し、みなさんが卒業するまでに履修しなければならない単位数、履修方法、その他有意義な学修のために必要な事項を説明しています。この要項を熟読し、明確な学修目的をもって系統的に履修してください。学期の始めには、履修に関する詳細なガイダンスが行われますのであわせて利用してください。それでもなお、不明な点があれば経済学部教務課窓口でたずねるようにしましょう。

2021年4月

経済学部での学び

●大学の学びは何が違うか～4年後をイメージして学び方を自分で決める

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。私たち龍谷大学経済学部の教職員一同、皆さんを心より歓迎いたします。そして4年間、皆さんの学びを支え、お互いに切磋琢磨していきたいと願っています。

大学の学びは、自主性や主体性をもって「学び方」を決めるところから始まります。是非、「4年後のなりたい自分」を常にイメージし、「今の自分は何を学ぶべきか、何をすべきか」を考えながら、4年間の学び方を決めてください（manaba courseによって4年間の目標設定や到達度を自己管理できます）。

伝統的に経済学は、消費や生産、所得や雇用といった日々の経済活動を対象として、それらの現象の背後にあるメカニズムを明らかにし、その上でより良い経済社会を実現するための処方箋を考える学問です。近年ではその対象は大きく広がり、地球温暖化のような環境問題、待機児童のような社会福祉問題、さらには円滑な臓器移植を実現する方法にまで、経済学の知見が応用されるようになっていきます。現在の社会における多くの問題を理解したり、解決したりするために、経済学の考え方は必要不可欠なものと言えます。経済学部には経済学の様々な分野の第一線の専門家がそろっています。我々は、皆さんが経済学の考え方を4年間でしっかりと身に付けられるよう、全力でサポートします。

講義科目は教養教育科目と学部専攻科目に分かれます。教養教育科目は、人文・社会・自然科学等の幅広い見識を身につけるための様々な科目から構成されます。学部専攻科目は、経済学の基礎から応用まで効果的に学ぶことができるように、複数の科目群から体系的に構成されています。多くの選択肢から自分の学習目標と履修計画に即して科目を選びましょう。

●履修要項やシラバスをよく読もう

入学後の（あるいは各学期の）最優先事項は、時間割を決め、単位を修得することです。そのためこの「履修要項」と「シラバス」(web)を熟読しなければいけません。必修科目・全員履修科目などを含め、卒業要件を完全に分かった上で、あとは自分の興味に応じて自由に科目を選びます。

なお、各科目は互いに関連していることに注意しましょう。例えば、ある科目の講義は、別の科目で学んだことが前提となっている場合もありますし、前提とまではいなくても、ある科目の講義は、別の科目を履修していると、比較的理解しやすいという場合もあります。上回生になるにしたがって、少し長いスパンで自分がどのようなことを学びたいのかを意識し、履修要項やシラバスをよく読んで履修計画を立てましょう。特に、1年次に配当されている「マイクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」・「マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」は必修科目であり、その後履修する多くの講義の前提になります。なるべく早い時期にこれらの科目を修得してください。

●ゼミナール（少人数授業）

龍谷大学では大人数の講義だけではなく、少人数で担当教員や他の学生と対話しながら学習を進める演習（ゼミナール）制度の充実に力を入れています。入門演習・基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅱと順番に履修していく中で、「聴く・読む・調べる・書く・伝える」という5つの技法を習いながら、大学における「知のたのしみ・たしなみ」を体験します。

2年生後期から「演習Ⅰ」（ゼミナール）が始まります。選択した演習の専攻分野によって、「現代経済学科」と「国際経済学科」に分かれます。この「2年生での学科選択」という制度デザインには、「経済学の基礎をしっかりと理解した上で、自分に合った専門分野と学科を決めてほしい」という私たちの願いが込められています。

3年生後期には、各ゼミの学生たちで運営する「経済学部ゼミナール連合会」の主催による「ゼミ対抗の研究発表会」が開催されます。毎年、多くの学生が参加し、2年生後期から3年生後期までの研究成果を競います。自分の研究や調査の結果を大勢の人たちに説明する力は、社会に出てからも大いに役立つ能力です。

4年生では卒業論文を執筆します。あるテーマについていくつもの文献を読み、自分自身で調べ、論点や問題を整理して長文を書きまとめる経験を通じて鍛えられる力は、実社会で仕事をしていく上で必要な力（発想力、計画力、実行力、発信力など）となるものであり、将来必ずみなさんの役に立ちます（第1部：履修の心得、卒業研究提出要領、参照）。

●キャンパスの外へ飛び出そう～地域社会へ、企業へ、そして世界へ

最後に、実は学内の講義や演習だけが、大学生活での学びのすべてではありません。日頃の講義室の外にも自分を大きく成長させてくれる機会が多く存在します。国内外のフィールドワーク、海外留学、企業へのインターンシップ、公開講座・講演会・研究会への参加、そしてクラブやサークル活動など、龍谷大学では数多くの課外での学修機会も積極的に提供しています。

これらに共通する特徴は「外部とのつながり」をもつところにあります。龍谷大学経済学部を「学びの拠点」としつつ、いろいろな機会を見つけては外に飛び出しましょう。そして龍谷大学にその成果を持ち帰って、仲間に伝えてください。そうした交流と挑戦が皆さんの4年間の学びに、「経験というかけがいのない価値」を付け加えてくれます。「創造的破壊」（シュンペーター）こそが、みなさんに本当の自信を与えてくれるでしょう。

こうして知的経験と実体験をしっかりと積んで、学びの喜びと驚きに満ちた4年間を過ごした後、みなさんが自信を持って龍谷大学経済学部を巣立って行ってくださることを心より願っています。

経済学部 教務主任 渡邊 正英

学 年 暦

大学行事、授業日、休日の授業実施日、定期試験期間、休業期間などの日程が、学年暦として毎年度定められています。毎年度変更されますので、履修要項WEBサイトで必ず確認してください。

<履修要項WEBサイト>

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です

（お気に入り登録しておくくと便利です）。



龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみを作り出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

龍谷大学の教育理念・目的

建学の精神に基づき「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成する。

〔学部・研究科の「教育理念・目的」と3つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針〕

龍谷大学の教育理念・目的を実現するために設置された学部・研究科は、広く社会に貢献できる教養教育・専門教育及びより高度な専門教育・研究を体系的かつ組織的に行うにあたり、各学問分野の独自性を活かしつつ、社会の要請等を踏まえた教育理念・目的を掲げ、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を一体的に策定する。

経済学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、経済学が培ってきた基礎的理論や社会の経済的諸現象を論理的に分析する能力を修得し、さらに国際的・地域的な多様性を理解して、課題の発見と解決に努める人間を育成することを目的とする。

経済学部の卒業認定・学位授与の方針〔学士(経済学)〕

経済学部の「教育理念・目的」を達成するために、すべての学生一人ひとりに必要と考えられる培うべき基本的な資質・能力は、次の通りである。

- ：教養教育科目により保証する資質・能力
- ：専攻科目により保証する資質・能力

<経済学部の学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解している
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●経済学（およびその周辺科学）の理論を理解し、言語や情報機器を含めて、質的・量的な分析スキルを身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）の発展・向上	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。 ●経済学の論理的な分析に基づいて、具体的な政策を立案し、様々な方法で表現・発表できる。 ●国際的・地域的な多様性を理解する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●周囲と協力しながらも、常に主体的に課題の発見と解決に努める。 ●社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

また、学部共通コースの学生に保証する基本的な資質・能力は以下のとおりである。

<国際関係コースの学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●世界の国・地域に関する幅広い知識と外国語による一定のコミュニケーション能力を身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するための能力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけている。

<英語コミュニケーションコースの学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●英語圏での日常生活に支障のない英語の技能を身につけている。 ●英語圏の言語や文化を理解し、国際的視野を備えている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	●異なる文化や価値観を理解した上で、英語で他者と意見交換できる柔軟な思考力・表現力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●自らもしくはチームで目標を定め、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる。

<スポーツサイエンスコースの学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●現代のスポーツ関連領域で提起される諸問題について、的確に評価・分析するために、経済・経営・法・政策の社会科学とスポーツ科学の知識や方法論とを合わせた複合的な視点を身につけている。 ●客観的な評価・分析を行える基礎的スキルを身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	●現代社会におけるスポーツ諸事象について学際的・多面的視点から理解・探求する思考力や判断力を身につけている。 ●導き出した見解を文章等にまとめ、発表し、議論することができる。 ●健康づくりや競技力向上のための指導といったスポーツの現場に必要なコミュニケーション能力やマネジメント能力の基礎的知識と応用力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●スポーツ諸事象を人間・社会への洞察にもとづいて理解し、スポーツを社会の発展のために役立てようとする意欲や態度を身につけている。

<環境サイエンスコースの学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●環境問題発生メカニズムを文献と現場から理解し、人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会を構築するための知識を身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	●自然、社会、人文に関する幅広い知識・技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するための能力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけている。

<学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法>

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
3. 学部共通コース所属学生は、所属コースの修了要件を満たすこと。

<国際関係コース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定の方法>

1. 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、国際関係コース運営委員会が修了を認定する。
2. 修了認定を受けるためには、所定の44単位以上の単位数を必要とする。

<英語コミュニケーションコース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定の方法>

1. 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、英語コミュニケーションコース運営委員会が修了を認定する。
2. 修了認定を受けるためには、所定の48単位以上の単位数を必要とする。

<スポーツサイエンスコース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定の方法>

1. 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、スポーツサイエンスコース運営委員会が修了を認定する。
2. 修了認定を受けるためには、所定の40単位以上の単位数を必要とする。

<環境サイエンスコース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定の方法>

1. 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、環境サイエンスコース運営委員会が修了を認定する。
2. 修了認定を受けるためには、所定の48単位以上の単位数を必要とする。

教育課程編成・実施の方針

経済学部の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

○：教養教育科目に係る教育内容

●：専攻科目に係る教育内容

<経済学部の教育内容>

①：建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。 ●「経済学の基礎Ⅰ/Ⅱ」をはじめとする基礎科目を1年次および2年次前期に開講することで、経済学（およびその周辺科学）の基礎的な知識・技能を学生生活の早い段階で身につけ、2年次後期以降のより進んだ学習に備える。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）の発展・向上	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。 ●全員履修科目「入門演習」「基礎演習Ⅰ/Ⅱ」などで、表現力や思考力の向上に努める。 ●両学科に7のプログラム科目群を開講することで、系統的により深く経済学を学び、理論の応用や政策の立案に必要な思考力・判断力を身につけるとともに、国際的・地域的な多様性について理解する。 ●コミュニケーション能力育成科目を開講し、英語による表現力の向上に努める。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	●1年次から4年次にいたるまで、少人数・双方向教育による演習系科目を開講し、主体性と協働性を身につける。 ●現場参画型・実習型の科目を開講することで、国際的・地域的な多様性について理解を深め、その上で主体的に課題を発見し解決に努める資質を養う。 ●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開講する。

また、専攻科目として、学部共通コース科目を置き、コース所属学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、体系的な教育課程を編成・展開する。

<国際関係コースの教育内容>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を身につけるために、第4セメスターに必修科目(国際関係論Ⅰ、地域研究入門)と選択必修科目(コース指定外国語)を開講する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するために、選択科目B群(経済・経営・法・政策学部からの提供科目)を開講する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけるために、地域研究科目(主として選択科目A群)を開講する。

<英語コミュニケーションコースの教育内容>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●日常生活に支障のない英語の技能を身につけるために、「Oral Communication I A・I B・II A・II B」「Writing I・II」を必修科目として、また、「Communicative Grammar I・II」等を選択科目として配置する。 ●英語圏の言語や文化を、幅広い視野から理解し考えるために、文化的背景を学修できる科目・異文化理解を促す科目を配置する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	●柔軟な思考力・表現力を身につけるために、「Process Writing」「Critical Essay」「Seminar I・II」等の科目を配置する。それらの科目担当者はネイティブスピーカーを中心に構成する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●自らもしくはチームで目標を定め、主体的に行動するために、「Public Speaking」「Intercultural Discussion」「海外研修」「Seminar I・II」「卒業研究」を配置する。

<スポーツサイエンスコースの教育内容>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●人文・社会科学系および自然科学系に大別されるスポーツ科学を学ぶ上での基礎となる科目を開講する。 ●特定のテーマに基づき学ぶ少人数科目を開講する。 ●スポーツにおける諸事象を客観的に分析・評価するための科目を開講する。

③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ科学の個別領域での課題や、その解決策を探る思考力・判断力を育成する科目を開講する。 ●課題の解決や解明に取り組む姿勢や態度、方法論を学ぶために実習を含む科目を開講する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●主体性と協働性を身につけるために、演習とインターンシップ実習(キャリア形成科目)を開講する。

<環境サイエンスコースの教育内容>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ●環境問題の現状および解決方法に関する知識を身につけるため、第四セメスターから、必修科目の「環境学A」および人文・社会科学系と自然科学系科目からなる座学の選択必修科目を開講する。 ●環境問題を解決する技能を身につけるため、「シミュレーション技法」および「環境実践研究」などの実習科目を開講する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	●自然、社会、人文に関する幅広い知識・技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するため「環境学B」「環境管理論Ⅰ・Ⅱ」などの科目を開講する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけるため「生態学A・B」「環境フィールドワーク」などの科目を開講する。

<教育方法>

<ul style="list-style-type: none"> ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期(配当セメスター)を考慮しながら系統的に履修できるよう科目(講義・演習・講読・実技・実験・実習等)を開設する。 ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

<学修成果の評価>

<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を合わせて評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①筆答試験による評価 ②レポート試験による評価 ③実技試験による評価 ④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
--

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援の3つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- ・修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- ・留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- ・障がいのある学生に対して実効性ある支援体制を整備し、それぞれの学生に適した学修環境を実現する。
- ・本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生の人権尊重を基本とし、学生一人ひとりが心身ともに健康で、かつ安全で安定した学生生活を送るために必要な基盤を整備するとともに、豊かな人間性を育み、自らが主体的に活動できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な取り組みを行う。

「生活支援」は、保健管理、事件・事故防止、相談等の学生生活に係わる環境を整備する。

「経済支援」は、学生の家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、貸付金等の経済的な支援を行う。

「課外活動支援」は、学生の人間の成長に寄与するため、学生が自主的に課外活動・社会活動に参加できるための環境を整備する。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、学生の社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むとともに、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現を目的として、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学のおよび体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部と各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力が身につくように取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to faceの面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行う。

ガイダンス

学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

このガイダンスは、みなさんが学修の計画を立て、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。



その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、諸資格取得のためのガイダンス等も開催されます。

これらの連絡は、以下「大学からの連絡・通知」のとおり行われるので十分注意しなければなりません。

大学からの連絡・通知

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべてポータルサイトまたは掲示で行います。ポータルサイトや掲示を見落としのために後で支障をきたさないよう、日頃からポータルサイトを確認するとともに、大学に来たらまず掲示板を見る習慣をつけましょう。また、個人への重要な連絡や通知等は大学が付与するメールアドレスに対しても行うことがあります。大学のメールアドレスも定期的に確認してください。

〈ポータルサイト〉

手段	アクセス方法
Web版	龍谷大学ポータルサイト ruis (https://portal.ryukoku.ac.jp/login) からアクセスしてください。ポータルサイトの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。 
アプリ版	龍谷大学ポータルサイトアプリサポートWeb (https://ru.portal.ac/support/) からアプリをダウンロードしてください。初回利用時には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。 

〈各種掲示内容別の掲示板とその位置〉

掲示板の名称	掲 示 の 内 容	設 置 場 所
経済学部掲示板	履修方法、定期試験、レポート作成など、教育課程に関すること（休講・補講情報を含む） 学部共通コースに関すること	6号館（紫英館）東側 （短期大学部は、21号館1階）
学生部掲示板	奨学金やアルバイトなど、学生生活に関すること	樹林
教学部掲示板	履修方法など教育課程に関すること	6号館（紫英館）東側
学部共通コース 掲示板	学部共通コースに関すること	
グローバル教育推進 センター掲示板	留学生別科・JEP Kyoto・国際交流に関すること	6号館（紫英館）東側、 樹林
教職センター掲示板	教職課程に関すること	6号館（紫英館）東側
キャリアセンター 掲示板	就職、資格講座などに関すること	5号館（紫明館）1階 キャリアセンター、樹林

(注)大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示場の設置場所が変更になる場合があります。

休講・補講・教室変更情報

本学開講科目にかかる休講・補講・教室変更情報については、ポータルサイト上で公開しています。

〈公開期間〉

- ・休講：30日後までの情報を公開しています。
- ・補講：予定している全ての情報を公開しています。
- ・教室変更（臨時）：30日後までの情報を公開しています。
- ・教室変更（恒常）：前後30日分の情報を公開しています。

〈注意事項・補足〉

- ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。
- ・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。
- ・本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供するポータルサイトの情報を確認してください。
- ・休講、補講、教室変更の公開については、メールでの配信サービスも行っています。
Web版ポータルサイトの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。
- ・休講、補講、教室変更情報については、本学のポータルサイト以外に一部掲示板でも公開しています。

第1部 履修の心得

I	履修をはじめるにあたって	19
II	シラバス	20
III	単位制度と単位の認定	21
IV	授業科目の開設方法	26
V	履修登録	32
VI	成績評価	37
VII	卒業研究提出要領	42

I 履修をはじめるとあって

大学では高校までと異なり、履修や学生生活に関するすべてのことが自分の責任に委ねられています。それだけに、各自が履修制度について十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

授業科目は、「教養教育科目」と学部専門の教育に関する科目群である「専攻科目」からなります。みなさんは、これら2つの「授業科目の区分」から、卒業するために必要な一定の単位数を満たすように履修しなければなりません。

1学年間あるいは1学期間に履修できる単位数には上限が設けられており、また、各学期（セメスター）に、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が教育方針に基づいて配当されています。なお、年度によって開講される科目が異なりますので、履修計画を立てるときには、同時に次学期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

2. 系統的に科目を履修すること

大学における学業は、学部毎に定められた所定の要件を満たすことで完了しますが、その一環として一定の単位数を修得する必要があります（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたには多くの組み合わせがあります）。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修では、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて、各科目の性格やその科目の配当セメスターを考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において、学問研究に触れる中心的な場は「演習」（ゼミナール）です。この「演習」では、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取り組み、専門的な視点に立って研究することが肝要となります。「演習」をはじめめる前に、「演習」における自身のテーマの研究にとって土台となる知識や思考力、さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に授業を受けるだけでなく、授業そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、授業以外に自主的な学修が必要です。そのため、シラバス（講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したもの）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、授業を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問をしたり、先生や友人・先輩とディスカッションをしたりすることで理解を深めることも大切です。

4. オフィスアワー

学生のみなさんに対する学修上の指導や助言のために、正課の授業のほかに、学修上の相談時間として「オフィスアワー」を設けています。その実施方法は各教員により異なります。学生のみなさんが積極的に活用し、学修上大きな成果をあげることを期待します。

「オフィスアワー」は、経済学部ホームページ、シラバス上で公開しています。

Ⅱ シラバス

1. シラバスとは何か

シラバス (Syllabus) とは、各科目の講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したものです。本学で開講されている全ての科目は、あらかじめWeb上に公開されたそれぞれのシラバスに沿って実施されます。

シラバスには、科目名だけでは分からない、詳細な情報が記載されています。学生の皆さんはシラバスを熟読し学修計画を立て、系統的な履修を行ってください。

2. シラバスに記載されている情報

シラバスには、主に次のような情報が掲載されています。

- ① 科目名とサブタイトル
- ② 講義概要
- ③ 到達目標 (目的・ねらい)
- ④ 講義方法
- ⑤ 授業時間外における予・復習等の指示
- ⑥ 系統的履修
- ⑦ 成績評価の方法
- ⑧ テキスト・参考文献
- ⑨ 履修上の注意・担当者からの一言
- ⑩ オフィスアワー・教員との連絡方法
- ⑪ 講義計画 (回数・担当者・学修内容)

※授業時間外における予・復習の指示、参考文献、履修上の注意・担当者からの一言、オフィスアワー・教員との連絡方法、参考URL、資料、講義計画については、授業期間中に変更されることがあります。最新の情報を参照してください。

3. シラバスの利用方法

シラバスはすべてWeb上で公開されています。ポータルサイトからリンクをたどって参照してください。

Ⅲ 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修は単位制で行われています。単位制とは、すべての科目に一定の単位数が定められており、その科目を履修して単位を修得し、定められた卒業要件単位数を満たすことで卒業が認定される制度です。

〈単位とは〉

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1	30時間	15時間	45時間	15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

〈単位の計算方法〉

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では、単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では、1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では、 Semester型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、通年型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
Semester型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位
通年型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき） ＝4単位

○外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
Semester型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×15週＝45時間	45時間÷45時間（1単位につき） ＝1単位
通年型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×30週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位

〈単位の認定〉

1つの授業科目に定められた単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- ① 単位の認定を受けようとする科目について、履修登録をすること。
- ② その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- ③ その科目の試験を受け、その成績評価で合格（60点以上）をすること（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆答試験とは限りません。詳細は、シラバスの成績評価の方法で確認してください）。

2. 履修登録制度

履修登録とは、科目を履修するための手続きです。この手続きをしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるようすべて自己の責任において取り組まなければなりません。

〈履修登録の方法〉

後に説明する Semester 制により履修登録は、第1学期（前期）、第2学期（後期）の年2回行われます（ただし、4年次生以上は、第1学期（前期）に第2学期（後期）開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。

第1学期（前期）履修登録は、第1学期（前期）開講科目と通年科目および8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。

第2学期（後期）履修登録は、第2学期（後期）開講科目を登録します。なお、第2学期（後期）登録時に通年科目の履修を放棄して別の第2学期（後期）開講科目を登録することはできません。

3. 授業科目の履修

履修登録をした科目を履修するということは、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容には、授業形態に応じて、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修（予・復習）とを含んでいます。

このうち、教室での学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、学修授業時間外における予・復習は、「シラバス」の中で「授業時間外における予・復習等の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行う学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修にかかっていると言えます。

4. 授業時間

本学における1回の授業時間は、後に説明する授業科目の開設方法に関係なく、いずれの場合でも90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通して、各講時の時間帯は次のとおりです。

	1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時	6 講時	7 講時
開始時刻	9 : 15	11 : 00	13 : 30	15 : 15	16 : 55	18 : 35	20 : 10
終了時刻	10 : 45	12 : 30	15 : 00	16 : 45	18 : 25	20 : 05	21 : 40

5. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「学士」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。卒業するためには、教育課程（カリキュラム）にしたがって学修し、学部毎に定められた所定の要件を満たすことが必要で、その一環として、124単位以上を修得しなければなりません。

〈卒業の要件〉

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

(1) 所定在学年数

本学の教育課程（カリキュラム）を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間は所定在学年数に加えません。

(2) 所定単位の修得

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目の別を指定しています（詳細は「第2部. 教育課程」の「Ⅱ 教育課程の編成方法」を参照）。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

卒業要件単位数 (2015年度以降入学生に適用)

区 分	科 目 区 分		卒業要件 単位数
教養教育科目 (注1)	「仏教の思想」 科目	必修科目 (「仏教の思想A」「仏教の思想B」)	4
	言語科目	必修外国語科目 (英語総合・初修外国語)	12
	教養科目	人文科学系・基幹科目	2
		社会科学系・基幹科目	2
		自然科学系・基幹科目	2
選択科目(注2)		14 ※	
学部専攻科目 (注4)	基礎科目	経済学の基礎Ⅰ	10
		経済学の基礎Ⅱ	16
	所属学科科目		20 ※
	選択科目		22 ※
フリーゾーン	(教養教育科目・学部専攻科目を問わない自由な 科目選択の単位数)		20 ※
単 位 数 総 計			124

(注1) 教養教育科目の詳細は、「第2部 教育課程」の「Ⅲ-7. 教養教育科目開設科目」を参照してください。

(注2) 教養教育科目「選択科目」には、次の科目の単位数が集計されます。

- ・「仏教の思想」科目の選択科目(歎異抄の思想Ⅰ、歎異抄の思想Ⅱ)
- ・言語科目の選択外国語科目
- ・教養科目の選択科目(基幹科目以外) ※スポーツ科学系科目はすべて選択科目

(注3) 教養科目の基幹科目の修得単位数が卒業要件単位数を超過した場合、超過した単位数は教養教育科目「選択科目」に集計されます。

(注4) 学部専攻科目の詳細は、「第2部 教育課程」の「Ⅳ-2. 学部専攻科目開設科目」を参照してください。

(注5) 経済学の基礎Ⅰ、経済学の基礎Ⅱ及び所属学科科目の各区分における修得単位数が卒業要件単位数を超過した場合、超過した単位数は学部専攻科目「選択科目」に集計されます。

(注6) 教養教育科目及び学部専攻科目の各区分における修得単位数が卒業要件単位数を超過した場合、超過した単位数はフリーゾーンに集計されます。このフリーゾーンについては、教養養育科目と学部専攻科目の中から、それぞれの履修要件にしたがって選択し、修得してください。

※学部共通コース(国際関係コース、英語コミュニケーションコース、スポーツサイエンスコース、環境サイエンスコース)に所属した場合、卒業要件単位数は変更となります。一覧表(学部共通コース生の卒業要件単位数)にて確認してください。

〈学部共通コース生の卒業要件単位数〉

区 分	科 目 区 分		卒業要件単位数			
			国際関係 コース	英語 コミュニケーション コース	スポーツ サイエンス コース	環境 サイエンス コース
教養教育科目 (注1)	「仏教の思想」 科目	必修科目 (「仏教の思想A」「仏教の思想B」)	4	4	4	4
	言語科目	必修外国語科目 (英語総合・初修外国語)	12	12	12	12
	教養科目	人文科学系・基幹科目	2	2	2	2
		社会科学系・基幹科目	2	2	2	2
		自然科学系・基幹科目	2	2	2	2
選択科目(注2)(注3)		10	10	18	10	
学部専攻科目 (注4)	基礎科目	経済学の基礎Ⅰ	10	10	10	10
		経済学の基礎Ⅱ	16	16	16	16
	所属学科科目		0	0	0	0
	選択科目(注5)		6	6	6	6
学部共通コース科目		44	48	40	48	
フリーゾーン (注6)	(教養教育科目・学部専攻科目を問わない自由な 科目選択の単位枠)		16	12	12	12
単 位 数 総 計			124	124	124	124

〈卒業の時期〉

(1) 卒業認定は、毎年学年末（2月下旬～3月）に卒業要件を充たした学生に対して行います。

(2) 9月卒業の取り扱いについて

在学期間が4年以上で、かつ本人が9月卒業の希望を申し出た場合、第1学期（前期）終了直後の9月に、卒業要件を充足すれば、卒業の認定を受けることができます。

本人の申し出がなければ、9月卒業の対象にはならない（自動的に卒業認定はしない）ので注意してください。

詳細については、ポータルサイトで確認するか、経済学部教務課窓口で相談してください。

6. 入学前に修得した単位の認定

他の大学（短期大学）を卒業または退学し、本学経済学部1年次へ入学した場合、教育上有益であると判断されたときは、前大学（短期大学）で修得した単位を本学経済学部の卒業要件単位（上限あり）として認定される場合があります。

この単位認定を希望する方は、入学後直ちに「成績証明書」を持参の上、経済学部教務課窓口まで申し出てください。

Ⅳ 授業科目の開設方法

1. セメスター制

経済学部の授業は、セメスター制で開設されています。セメスター制とは、半年を1学期とするもので、1学年を、原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。学年、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

学年	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
学期	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

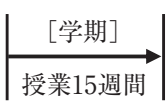

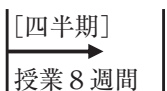
各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目（詳細は「第2部. 教育課程」の「Ⅱ教育課程の編成方法」を参照）が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目は、それを履修し単位を修得しないと卒業することができない科目です。また、選択必修科目も同じ性格を有する科目です。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

※ 実際に授業を開講する上での第1学期（前期）、第2学期（後期）の区分・日程は、毎年度、学年暦によって決定されます。

2. 授業科目の開講方式

各授業科目は、原則として各セメスターを単位として開設されていますが、実際には科目の性格等により次の3つの開講方式をとっています（開講方式、授業回数、単位数等の組み合わせは主なものを挙げています）。

① 【セメスター型】	(週1回) (週2回)
	講義・演習・講義科目 2単位 4単位
	外国語・スポーツ・実験・実習科目 1単位 2単位
② 【通年型】	(週1回)
	講義・演習・講義科目 4単位
	外国語・スポーツ・実験・実習科目 2単位
③ 【クォーター型】	(週1回) (週2回)
	講義・演習・講義科目 1単位 2単位

※クォーター型とは、1学年を4つに区分して授業を実施するものです。各クォーターの区分・日程は、毎年度、学年暦によって決定されます。

[留意点]

- (1) セメスター型として開講される4単位の講義科目および2単位の初修外国語科目は、1週間に2回（例えば月曜日1講時と木曜日1講時）の授業を行い、1つの学期で完結するものです。このため、一方の授業に出席するだけではその科目を履修したことにはならないので、注意する必要があります。
- (2) 通年型として開講される科目は、原則として同一の授業担当者が1週間に1回の授業を行い、2つの学期（1年間）で完結するものです。
- (3) クォーター型として開講される1単位の講義科目は、1週間に1回の授業を行い、四半期で完結するものです。2単位の講義科目は、1週間に2回の授業を行い、四半期で完結するものです。
- (4) 同一科目の授業が第1学期（前期）・第2学期（後期）ともに開講される場合があります。この場合は、特に指定のある場合を除き、いずれの学期で履修しても構いません。
 (注1) それぞれの科目には配当セメスターが設定されています。設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示していますが、諸事情により不開講となる場合や配当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。
 (注2) すでに修得した科目（=既修得科目）の再履修はできません。
- (5) サマーセッションを利用して開講される科目については、下記の取扱となります。

区 分	取扱学期	期間・留意事項
サマーセッション	第2学期(後期)科目	<ul style="list-style-type: none"> ・開講期間については、ポータルサイトまたは掲示等で確認してください。 ・第1学期（前期）開講科目の履修登録と同時に登録が必要です。

- (注) 履修登録できる科目数は2科目までとなります。
 授業日程が他の科目と重複する場合は、1科目しか履修登録できない場合がありますので、各科目の開講日程に注意してください。
 サマーセッションの開講期間・開講場所などについては、別途ポータルサイトまたは掲示等にてお知らせします。

3. 週2回授業科目の開講方法

週に2回開講する授業科目は、時間割上、原則として一定の規則（組合せ）にしたがって配置されています。

週2回授業科目の開講組合せ（原則）

月1 — 木1	火1 — 金1	水1 — 土1
月2 — 木2	火2 — 金2	水2 — 土2
月3 — 木3	火3 — 金3	
月4 — 木4	火4 — 金4	

- (注1) 見方：「月1」は「月曜日1講時」を示しています。
 (注2) 1日に2講時連続で開講される科目もあります。

この科目は、週2回の授業を所定の期間（セメスター型であれば1学期間）継続して受講し、合格することではじめて定められた単位を修得したことになります。

週2回のうち一方の授業時間に、誤って他の科目を履修登録した場合は、それらに関する登録は無効となりますので注意してください。

4. 授業科目と授業テーマ

「授業科目」は単位を認定する区分を示すものです。講義科目はこの授業科目名のみではどのような内容の授業であるか判断ができないことから、原則として「授業テーマ」が示されています。

同じ授業科目名で複数クラスが開講されている場合は、特に指定の無い限りどの授業テーマのクラスを履修しても構いません。ただし、単位の認定を受けることができるのは1つの科目に対して1回だけです(授業テーマが異なっていたとしても、同じ授業科目を複数クラス履修することはできません)。

また、「授業科目」を選ぶにあたっては、「シラバス」で講義の進め方、系統的履修の方法等を確認してください。

5. 先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、履修の要件として指定された科目及び単位数の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、先修制が設定されている科目とその履修の要件として指定された科目を同一学期に履修することはできません。先修制が設定されている科目は次のとおりです。

<教養教育科目>

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
ドイツ語Ⅱ, ⅢA～ⅢD	「ドイツ語Ⅰ」(2単位)
フランス語Ⅱ, ⅢA～ⅢD	「フランス語Ⅰ」(2単位)
中国語Ⅱ, ⅢA～ⅢD	「中国語Ⅰ」(2単位)
スペイン語Ⅱ, ⅢA～ⅢD	「スペイン語Ⅰ」(2単位)
コリア語Ⅱ, ⅢA～ⅢD	「コリア語Ⅰ」(2単位)
ドイツ語セミナーⅠA～ⅠD	「ドイツ語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
フランス語セミナーⅠA～ⅠD	「フランス語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
中国語セミナーⅠA～ⅠD	「中国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
スペイン語セミナーⅠA～ⅠD	「スペイン語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
コリア語セミナーⅠA～ⅠD	「コリア語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
ドイツ語セミナーⅡA～ⅡD	「ドイツ語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「ドイツ語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
フランス語セミナーⅡA～ⅡD	「フランス語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「フランス語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
中国語セミナーⅡA～ⅡD	「中国語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「中国語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
スペイン語セミナーⅡA～ⅡD	「スペイン語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「スペイン語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
コリア語セミナーⅡA～ⅡD	「コリア語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「コリア語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
ドイツ語コミュニケーションⅡ	「ドイツ語Ⅰ」(2単位) または 「ドイツ語コミュニケーションⅠ」(2単位)
フランス語コミュニケーションⅡ	「フランス語Ⅰ」(2単位) または 「フランス語コミュニケーションⅠ」(2単位)

中国語コミュニケーションⅡ	「中国語Ⅰ」(2単位)または 「中国語コミュニケーションⅠ」(2単位)
スペイン語コミュニケーションⅡ	「スペイン語Ⅰ」(2単位)または 「スペイン語コミュニケーションⅠ」(2単位)
韓国語コミュニケーションⅡ	「韓国語Ⅰ」(2単位)または 「韓国語コミュニケーションⅠ」(2単位)
英語ⅡR1,ⅡR2,ⅡS1,ⅡS2	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B)」(計4単位)
英語ⅢR1,ⅢR2,ⅢS1,ⅢS2,ⅢG1, ⅢG2,ⅢW1,ⅢW2	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B), 3(A), 3(B), 4(A), 4(B)」(各1単位)より4科目(計4単位)
海外中国語研修講座	「中国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
ポルトガル語Ⅱ,ⅢA,ⅢB	「ポルトガル語Ⅰ」(2単位)
ロシア語Ⅱ,ⅢA,ⅢB	「ロシア語Ⅰ」(2単位)
ペルシア語ⅡA,ⅡB	「ペルシア語ⅠA」(2単位)または「ペルシア語ⅠB」(2単位)

<経済学部専攻科目>

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
演習Ⅱ, 卒業研究	「演習Ⅰ」(4単位)70点以上要(注1)
簿記論Ⅱ	「簿記論Ⅰ」(2単位)

(注1) 詳細は「第2部-Ⅳ-3演習」(P.82~83)にて確認してください。

先修制科目の他、セット科目があります。

第1学期(前期)開講科目	+	第2学期(後期)開講科目
▽ 地域産業活性化プロジェクトⅠ	+	地域産業活性化プロジェクトⅡ
▽ キャリア形成論Ⅰ	+	キャリア形成論Ⅱ

これらの科目は各々セットで、Ⅰ、Ⅱの順に連続で履修しなければなりません。

例えば、「地域産業活性化プロジェクトⅠ」を履修する場合は、「地域産業活性化プロジェクトⅡ」を必ず履修しなければならず、また「地域産業活性化プロジェクトⅡ」の履修を希望する場合は、半年前から(前の学期に)「地域産業活性化プロジェクトⅠ」を履修した上で履修しなければなりません。

<学部共通コース科目>

1) コースに進むための要件(修得が必要な授業科目および単位数)

学部共通コース	コースに進むための要件となる授業科目および単位数
国際関係コース	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B), 3(A), 3(B)」および「初修外国語Ⅰ,Ⅱ」の内、4単位以上修得していること。
英語コミュニケーションコース	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B), 3(A), 3(B)」の内、4単位以上修得していること。
スポーツサイエンスコース	
環境サイエンスコース	

(注) 学部共通コースに進むための要件については、「第2部-V 学部共通コース」にて詳細を確認してください。

2) 演習にかかる先修制

学部共通コース	演習科目	履修の要件となる授業科目および単位数
国際関係コース	特別演習Ⅱ、特別演習Ⅲ	「特別演習Ⅰ」(4単位) 70点以上要(注1)
英語コミュニケーションコース	(注2)	
スポーツサイエンスコース	特別演習Ⅱ、特別演習Ⅲ	「特別演習Ⅰ」(4単位)
環境サイエンスコース	演習Ⅱ、卒業研究	「演習Ⅰ」(4単位)

(注1) 詳細は「第2部-V-5-(1) 国際関係コース」にて確認してください。

(注2) 「卒業研究」を履修するには原則として「SeminarⅡ」の登録が必須です。

3) その他授業科目にかかる先修制

学部共通コース	授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
国際関係コース	中国語セミナーⅠA～ⅠD	「中国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位) または「中国語コミュニケーションⅠ,Ⅱ」(計4単位)
	ドイツ語セミナーⅠA～ⅠD	「ドイツ語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位) または「ドイツ語コミュニケーションⅠ,Ⅱ」(計4単位)
	フランス語セミナーⅠA～ⅠD	「フランス語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位) または「フランス語コミュニケーションⅠ,Ⅱ」(計4単位)
	スペイン語セミナーⅠA～ⅠD	「スペイン語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位) または「スペイン語コミュニケーションⅠ,Ⅱ」(計4単位)
	韓国語セミナーⅠA～ⅠD	「韓国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位) または「韓国語コミュニケーションⅠ,Ⅱ」(計4単位)
	中国語セミナーⅡA～ⅡD	「中国語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または「中国語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位)より2科目(計4単位)
	ドイツ語セミナーⅡA～ⅡD	「ドイツ語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または「ドイツ語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位)より2科目(計4単位)
	フランス語セミナーⅡA～ⅡD	「フランス語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または「フランス語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位)より2科目(計4単位)
	スペイン語セミナーⅡA～ⅡD	「スペイン語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または「スペイン語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位)より2科目(計4単位)
	韓国語セミナーⅡA～ⅡD	「韓国語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または「韓国語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位)より2科目(計4単位)
	ポルトガル語Ⅱ,ⅢA,ⅢB	「ポルトガル語Ⅰ」(2単位)
	ロシア語Ⅱ,ⅢA,ⅢB	「ロシア語Ⅰ」(2単位)
	英語ⅢR1,ⅢR2,ⅢW1,ⅢW2 ⅢS1,ⅢS2,ⅢG1,ⅢG2	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B), 3(A), 3(B), 4(A), 4(B)」(各1単位)より4科目(計4単位)
	英語コミュニケーションⅡ	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B)」の内、2科目2単位 または「英語コミュニケーションⅠ」(2単位)
	中国語コミュニケーションⅡ	「中国語Ⅰ」(2単位) または「中国語コミュニケーションⅠ」(2単位)
	ドイツ語コミュニケーションⅡ	「ドイツ語Ⅰ」(2単位) または「ドイツ語コミュニケーションⅠ」(2単位)

フランス語コミュニケーションⅡ	「フランス語Ⅰ」(2単位) または「フランス語コミュニケーションⅠ」(2単位)
スペイン語コミュニケーションⅡ	「スペイン語Ⅰ」(2単位) または「スペイン語コミュニケーションⅠ」(2単位)
韓国語コミュニケーションⅡ	「韓国語Ⅰ」(2単位) または「韓国語コミュニケーションⅠ」(2単位)

6. グレイドナンバー制

経済学部で開設される授業科目には、グレイドナンバーが付されています。これは、科目のレベルを簡明に表示したものです。学修計画の設計にあたって、これを参考にしてください。

	基礎				→	応用
グレイド	100	200	300	400	500	

V 履修登録

1. 履修登録手続スケジュール

履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項WEBサイト (<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) で確認してください。



2. 履修登録制限単位数

大学での学修においては、単位制度の趣旨、教育効果（自主的な学修時間の確保）および健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。

このため、経済学部では次のとおり履修登録制限を行っています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。よく考えて卒業までの履修計画を立てる必要があります。

所属セメスター	単位数
第1セメスター	22
第2セメスター	22
第3セメスター	22
第4セメスター	22
第5セメスター	22
第6セメスター	22
第7セメスター	48
第8セメスター	
計	180

(注1) 編転入学した者のカリキュラムは、編入学または転入学した年度ではなく、入学を認められた学年の在學生と同様のカリキュラムを適用します。再入学した者については、原則離籍前と同年度のカリキュラムを、復学した者については、休学前と同年度のカリキュラムをそれぞれ適用します。

(注2) 通年科目の単位数は、第1学期（前期）と第2学期（後期）で2分割して計算します。

(注3) この履修登録制限には、次の科目は含まれないことから、制限単位を超えて履修登録することができます。ただし、単位制度の趣旨および教育効果（自主的な学修時間の確保）や健康管理の点からすれば、制限単位を大幅に超える登録は好ましくありません。

- ① 随意科目（教職課程、本願寺派教師資格課程、博物館学芸員課程などの科目）
- ② サマーセッションに開講される科目
- ③ 英語コミュニケーションコースに所属する学生が履修する「海外研修」
- ④ 環境サイエンスコースに所属する学生が履修する「環境実践研究」
- ⑤ 「海外英語研修」
- ⑥ 「海外中国語研修講座」
- ⑦ 大学コンソーシアム京都科目（単位互換科目、インターンシップ）
- ⑧ 放送大学科目
- ⑨ 経済学部専攻科目「海外フィールド実習」
- ⑩ 経済学部専攻科目「選択特別講義 海外フィールド研修」

(注4) 入学から直近の学期末までの累積GPAが3.5以上の場合、次学期の履修登録の際に履修登録制限単位数を2単位付加します。履修登録制限単位数を超えて履修を希望する場合は、予備・事前登録期間に経済学部教務課までご相談ください。累積GPAは成績表に掲載されています。

3. 予備・事前登録

予備・事前登録とは、受講者数を調整するため、通常の履修登録（本登録）に先だって行われるものです。予備・事前登録手続きの必要な科目は、この手続きをしなければ受講できません。

履修登録—1) 予備登録 (広義)	……………受講可否を抽選（無作為抽出）により決めます。 教養科目や言語科目（選択外国語科目）においてこの手続きが必要 です。
2) 事前登録	……………受講可否を申請書の内容や過去の成績などにより決めます。 必修外国語の再履修や一部の専攻科目等においてこの手続きが 必要です。
3) 履修登録（本登録） (狭義)	……………履修する科目（予備・事前登録にて受講可となった科目を含む） が確定します。

4. 履修登録要件

(1) 履修登録要件

有効な履修登録を行うためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。履修登録はすべて自己の責任において行ってください。

- ① 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- ② 所属年次に配当されている授業科目以外に下級年次配当の授業科目を登録することができます。ただし、諸事情により不開講となる場合や開講セメスターが変更される場合がありますので注意してください。
- ③ 履修登録は授業時間割表に従って登録してください（特に、同一授業科目について複数の担当者がいる場合や、週2回授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください）。
- ④ 重複登録（同一講時に2科目以上の登録をすること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑤ 二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑥ 各学期（各セメスター）および各年次において、定められている履修登録制限単位を超えて登録することはできません。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割に変更が生じた場合は、ポータルサイトにてお知らせします。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、経済学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期間内に必ず登録してください。

履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項WEBサイト
(<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) で確認してください。

- ④ 履修登録は確実に行うため、パソコンで行ってください。
- ⑤ 受講登録確認表の出力による登録確認

登録した授業科目は、登録完了後、各自がその場で「受講登録確認表」を出力し、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、経済学部教務課窓口へ申し出てください。また、出力した受講登録確認表は、必ず保管してください。



5. 履修辞退制度 ※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、「授業内容が学修したいものと著しく違っていった場合」や「受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合」など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正」や「取消」するものであり、以前の履修は一切残りませんが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履修が記録として残ります。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、『履修要項』および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履修および履修辞退履修として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・課程・専攻・コース）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

◆履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	選択必修科目については、学部（学科・課程・専攻・コース）によって取り扱いが異なる場合があります。
事前登録が必要となる科目（注）	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」および「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習、介護等体験に関する科目	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
サマーセッション科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他各学部が設定する科目	各学部（学科・課程・専攻・コース）において設定する科目別表「学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり。

（注）教養教育科目の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

◆学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧

学部等		履修辞退の対象外とする科目
経済学部		現代と経済、統計学入門、経済学の技法Ⅰ、経済学の技法Ⅱ、入門演習、基礎演習Ⅰ、基礎演習Ⅱ
学部 共通 コース	国際関係コース	(注1)
	英語コミュニケーションコース	(注2)
	スポーツサイエンスコース	特別演習Ⅰ
	環境サイエンスコース	演習Ⅰ、演習Ⅱ(注3)、卒業研究、環境フィールドワーク

(注1) 学部提供演習(卒論・演習論文等を含む)、学部提供科目(選択B群)については、提供学部の設定に準拠します。

(注2) SeminarⅡと卒業研究は同時に履修登録しなければなりません。辞退の場合は、SeminarⅡを辞退しても卒業研究を辞退したことにはなりません。卒業研究も辞退する場合は別途手続きしなければなりません。

(注3) 第6セメスター履修辞退期間のみ辞退可(第7セメスターは辞退不可)。

(4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は各学期において1週間程度設けられます。学期はじめの履修説明、ポータルサイト、学生手帳等で確認してください。

(5) 履修辞退の申出方法

履修辞退の申出期間にポータルサイトの「Web履修辞退申請」から申請してください。

受付期間中にポータルサイトを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に経済学部教務課に相談してください。

また、演習Ⅰ、演習Ⅱまたは卒業研究の履修を辞退する場合は、手続きが異なりますのでご注意ください。

〈演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究を辞退する場合〉

- ・経済学部教務課で所定の手続きが必要です(ポータルサイトの「Web履修辞退申請」では手続きできません)。
- ・授業担当者(指導教員)の許可が必要です。
- ・履修辞退期間に加え、履修登録の時期(成績開示日～履修登録期間最終日)にも手続きを行うことができます(2017年度以降入学生対象)。

(6) 留意事項

- ① 通年科目について、5月頃の履修辞退期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目の単位数は履修登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時にセメスター型の後期開講科目を履修登録することができます。なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
5月頃	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
	第1クォーター科目	カウントします
6月頃	第2クォーター科目	カウントします
10月頃	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします
	第3クォーター科目	カウントします
11月頃	第4クォーター科目	カウントします

- ② 履修辞退申し出による授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。なお、単位制学費の対象学生（留年生および社会人）が、通年科目の辞退を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の授業料は徴収しません。また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の履修料は理由の如何にかかわらず返還しません。

6. 配当セメスターの考え方

それぞれの科目には配当セメスターが設定されており、設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示しています。

- 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- 配当セメスターにかかわらず、開講期（開講セメスター）は年度により変更することがあります。
- 一部の科目については、配当セメスター以外での履修を行うことができないなどの特性があります。詳細は、経済学部教務課窓口にて確認してください。
- 9月入学・半期休学等の理由により、科目配当に極端な不利益があると判断されるときは、配当セメスターより前の履修を認めることがあります。ただし、履修登録にあたっては予め経済学部教務課窓口で相談してください。

VI 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価には、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- (1) 筆答試験による評価
- (2) レポート試験による評価
- (3) 実技試験による評価
- (4) 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- (1) 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- (2) 一度合格点を得た科目（=既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修して成績評価を受けることはできません。
- (3) 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- (4) 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S (90~100点)	A (80~89点)	B (70~79点)	C (60~69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

- (5) 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- (6) 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月中旬、第2学期（後期）分を3月下旬にポータルサイトよりダウンロードできます。日程の詳細は、別途ポータルサイトまたは掲示等でお知らせします。

3. GPA制度

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことであり、従来の修得単位数による学修到達度判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表すものとして考えられたものです。

GPAは、各教科の評価点（100点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出します。

評価点	グレードポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

$$\text{GPA} = \frac{\Sigma (\text{登録科目のグレードポイント} \times \text{単位数})}{\Sigma (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語総合I（A）」（1単位）80点、「心の科学A」（2単位）40点、「生物科学のすすめ」（4単位）76点を登録科目の結果とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = \frac{(2 \times 4) + (1 \times 3) + (2 \times 0) + (4 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 4} = \frac{19}{9} = 2.11$$

※随意科目、履修辞退した科目については、ここでいう登録科目には含みません。

※成績を評価点（100点満点）で評価しない科目は算入しません。

4. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、経済学部教務課窓口へ提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間および申出方法については、別途ポータルサイトまたは掲示等で確認してください。

5. 筆答試験の時期

定期試験	個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験
追試験	定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験（追試験の項を参照のこと）

6. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- (1) その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- (2) 定められた学費を納入していること。
- (3) 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- (4) 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

7. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- (1) 指定された試験場で受験すること。
- (2) 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- (3) 学生証を携帯すること。
- (4) 学生証は写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。
万一、学生証を忘れた場合には、経済学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。
- (5) 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- (6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと。
[担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない。]
[持ち込み条件が「全て可」であっても、携帯電話、スマートフォン、情報端末等の使用は一切認めない。]
- (7) 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- (8) 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。
- (9) 経済学部専攻科目で、座席指定により試験を行う場合、試験時間中の途中退席は許されない。

8. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- (1) 無記名の場合
- (2) 指定された場所に提出しない場合
- (3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合
- (4) 受験態度の不良な場合

9. 筆答試験における不正行為

- (1) 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- (2) 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合
 - ② 監督者の指示に従わない場合
 - ③ 身代わり受験を行ったとき、または行かせた場合
 - ④ カンニングペーパー等を所持していた場合
 - ⑤ 携帯電話、スマートフォン、情報端末等をかばん等にしまっていない場合
 - ⑥ 許可された以外のものを参照した場合
 - ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合
 - ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合
 - ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合
 - ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合

10. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定を行わない場合があります。

11. 追試験

(1) 追試験の受験資格

追試験は次の各号のいずれかの理由により定期試験を欠席し、所属学部が認めると受験することができます。

- ① 病気、怪我又は試験時における体調不良等
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀への参列
- ③ 公認サークルの公式戦への選手としての参加
- ④ 交通機関の遅延等
- ⑤ 交通事故、災害等
- ⑥ 就職活動（選考に関わる説明会、筆記試験、面接等）
- ⑦ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）の受験
- ⑧ 単位互換科目の試験受験
- ⑨ インターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）又は博物館実習への参加
- ⑩ 裁判員（候補者）への選任
- ⑪ 短期大学部における実習等への参加により本学学部の定期試験を受験できなかった場合
- ⑫ その他所属学部が特に必要と認める理由

追試験受験希望者は、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に経済学部教務課窓口へ提出しなければなりません。

交通遅延証明書のうち、Web発行によるものは本人が乗車したことを証明するものではありませんので、欠席理由の証明書として、本学では取り扱いできません。

交通遅延証明書は、従来通り「本人が乗降した際に各駅にて受け取ることができるもの」のみを証明書として取り扱います。

なお、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に経済学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

- (2) 追試験の受験料は、1科目1,000円です。
- (3) 実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

詳細については、定期試験前にポータルサイトまたは掲示等にて確認してください。

12. 筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示およびポータルサイトにより発表します。
試験時間は、次のとおりです。

講時	開始時刻	終了時刻	
		教養教育科目 文・経済・経営・政策・国際学部専攻科目 短期大学部共通科目・専攻科目 学部共通コース科目 諸課程科目 (60分)	法学部専攻科目 (70分)
1 講時	9 : 15	10 : 15	10 : 25
2 - A 講時	10 : 45	11 : 45	11 : 55
2 - B 講時	12 : 15	13 : 15	13 : 25
3 - A 講時	13 : 45	14 : 45	14 : 55
3 - B 講時	15 : 15	16 : 15	16 : 25
4 講時	16 : 45	17 : 45	17 : 55
5 講時	18 : 15	19 : 15	19 : 25
6 講時	19 : 30	20 : 30	—
7 講時	20 : 45	21 : 45	—

(注1) 教養教育科目および学部共通コース科目のうち、学部提供科目については、当該学部が定める試験時間となります。

(注2) 科目の特性によって、試験時間を変更することがあります。

Ⅶ 卒業研究提出要領

(1) 卒業研究提出受付について

卒業研究の提出は12月です。提出日及び提出受付時間はポータルサイトで発表します。

ただし、第2学期入学生（秋期入学生）の卒業研究提出は7月となります。

提出受付時に経済学部教務課で確認する事項は以下のとおりです。

論文提出時に以下の内訳が揃っていること

- ① 題目
- ② 論文要旨（400字以内 ※どの言語で作成する場合も日本語で400字以内）
- ③ 目次（ページ番号付番）
- ④ 本文（ページ番号付番）
- ⑤ 参考文献（ページ番号付番）

提出方法は別途指示します。

(2) 卒業研究作成要領

- ① 同じ対象について共同的に調査・考察した場合でも、成果は共同執筆ではなく各自が研究成果をまとめて提出すること。
- ② 卒業論文は日本語で執筆するものとします。ただし、指導教員が認めた場合は英語で執筆することも可とします。
- ③ 英語で執筆する場合は、英文校閲を含め、内容と形式について指導教員から十分な指導を受けてください。
- ④ 論文作成はMicrosoft Wordにて行い、ファイルにて下記1～4のとおり提出してください。
 - 1) 目次・本文・参考文献を記載するページは次の指定に従ってください。
 - 〈日本語の場合〉
 - A4サイズ、フォントの色は黒
 - 1行40字×30行、横書
 - 上および左右の余白20mm、下余白25mm
 - ページ番号は下中央（底より10mm程度の位置）
 - 〈英語の場合〉
 - A4サイズ、フォントの色は黒
 - 5,000words以上
 - 上および左右の余白20mm、下余白25mm
 - ページ番号は下中央（底より10mm程度の位置）
 - 2) 目次・本文・参考文献の文字数は、12,000字以上、英語の場合は5,000words以上です。
 - 3) ページ番号は、目次より参考文献までつけてください。
 - 4) 各自の控えとして、執筆した論文のWordファイルを保存しておいてください。
- ⑤ 指示に従わない場合は無効とします。
- ⑥ 提出期限を厳守してください。（期限を経過したもの、定められた書式の整っていないものは一切受理いたしません。）

(3) 卒業研究の書き方

これは、「卒業研究」を作成する一般的な注意事項をしるしたものです。したがって、研究テーマなどとの関連で生じる特殊な問題については、別途に演習担当者等と相談する必要があります。

〈卒業研究とは〉

「卒業研究」は、「レポート」とは違って、文字どおりひとつの「論文」でなければなりません。それは、2年間の演習の成果であるばかりでなく、4年間の大学生活のしめくりという意味をもつべきものです。一般に、研究論文は、ある対象についての執筆者自身のまとまった考えを論理的に記述したものであり、そこには何らかの独創性がなければなりません。したがって、「卒業研究」を書く場合にも、そのつもりで取り組む必要があります。「卒業研究」においては、これまでの研究者の業績を自分自身の考えにそって整理することや、結論にいたるまでの論理をできるだけいねいに組み立てることが大切です。

〈卒業研究のつくり方〉

卒業研究を作成する手順としては、必ずしも決まったものがあるとはいえませんが、次の順序で進めていくのが一般的です。

① テーマ（題目）の選定

卒業研究のテーマを選ぶ際の注意点は、演習のテーマと関連したものであること、自分が本当に興味、関心を抱いているものであること、大きすぎたり、曖昧であったりしないこと、の3点です。

テーマを決めるきっかけはさまざまですが、適当なテマが思い浮かばない場合には、まず、演習に関連した領域の文献を、一冊でも、二冊でも、たんねんに読むことです。その中から、「この点はどうか」「この結論はおかしくないか」「自分ならこう考えるが」といった個所が出てくるはずです。そして、既存の文献の中にある記述では満足できない点を見つけだし、それを手がかりにしてテマを決めることは、創意性、主体性のある論文をつくるうえできわめて大切なものとなります。

もちろん、はじめから最終的題目を確定できる場合は比較的少なく、かなり大きな、漠然とした対象領域の設定からはじまる場合のほうがむしろ多いものです。しかし、その場合にも、次の②③④の作業を進めていく間にテーマを絞り、論文の実質的内容を的確に表現する具体的なものにしなければなりません。

テーマの選定については演習担当教員とよく相談する必要があります。ただし、そのテーマのもとで取りあげようとする問題点について、ある程度考えをまとめたうえで相談することが望まれます。

② テーマに関連した文献、資料の目録づくり

論文の出来、不出来を決める重要な基準の一つは、その論文中に、既存の研究成果がどれだけ広く利用されているかという点にあります。視野の広さ、問題に対する接近の丹念さ、説得力の強さといった点ですぐれた論文は、豊富な文献や資料をもとにして書かれたものであり、逆に、一・二冊の書物だけをもとにして書かれた論文は、およそ「論文」の名に値しないものであることが多いものです。したがって論文の執筆に先だって、テーマに関連した文献、資料の充実した目録をつくることはきわめて重要です。

目録をつくるうえでは、テーマと関連した分野の研究書や教科書につけられている文献目録を利用するのが簡便な方法です。それに加えて『経済学文献季報』、joint月間雑誌記事索引、『(国立国会図書館)雑誌記事索引(人文科学編)』、『国立国会図書館蔵書目録(第2編・社会科学)』、龍大社研経済産業情報ガイド等を利用することが望まれます。これらは、深草図書館に備えられており、自由に閲覧できます。(不明な場合には、係員にたずねてください)

③ 文献、資料の収集と通読

文献、資料の目録がある程度できれば、文献や資料そのものを入手し、通読しなければなりません。その際、自分の論文にとってとりわけ重要と思われるものを重点的に（たとえば、数点だけ）選び出す必要があります。その際には、演習担当教員のアドバイスが貴重な手助けとなるはずで

文献、資料の通読にあたっては、論文作成全体のスケジュールを念頭において、その速度や、方法について、工夫する必要があります。

自分の論文にとって特に関係があると思われる箇所については、当該箇所のページ数を記したメモや抜書きを作成しておくようにすることがあとの執筆作業にとって、重要なこととなるでしょう。また、そうしたメモや抜書きに簡単な見出しを付けておくと、後でそうして書きとめられた多くのメモや抜書きの中から必要なものを選出するうえで便利です。

④ 論文骨子の作成

文献、資料の通読、研究を通じて自分の論文の主な内容についてのイメージがつかめれば、論文全体のおよそのあらすじを組立ててみるのがよいでしょう。その際に、どの問題や、論点に重点をおくかははっきりさせ、その主要内容をわかり易く展開できるようにするためには、全体の流れをどのように構成するのか、検討する必要があります。いわゆる「起承転結」といった配列や、「序論、本論、結論」といった構成は、たんに論文に体裁を与えるために使われるのではなく、論文の趣旨をもっとも効果的に読者に伝えるのに必要とされます。

論文の構成をさらに具体化するためには、論文全体をいくつかの節や小節にわけ、そのそれぞれの名称と内容、分量をどのようにするかを決めねばなりません。この構想（節編成）は、まとまった分量の論文を執筆する際には、事前にたてておくことが必要です。構想が緻密、詳細にたてられていればいるほど論文を実際に執筆する作業が容易になることはいまでもありません。また、早い時期にこの構想を仕上げようと努めることは、予定したテーマ（題目）で実際に論文を書けるという見通しを、確認するためにも重要です。

⑤ 下書きと推敲

以上の準備作業が終われば、下書きになります。下書きの段階でもっとも大事なことは、構想全体を念頭において、デッサン風にも本論部分全体を書きあげることです。そのうえで、不足している個所、強調したい個所、詳しく説明したい個所を書き加えていけばよいわけです。

下書きの場合には、「前書き」や「序論」は、「むすび」や「あとがき」同様、本論部分を書きおえてから書いたほうがよいといえます。そのほか、論文の最初と最後には、目次と参考文献をつけておくことが望まれます。

どれほど文筆になれた人の場合でも、いきなり最終原稿が出来上がることはまれで、幾度となく表現を改め、順序を入れかえ最終稿に到達するものです。そうした推敲の過程で、より正確に、よりわかり易く、しかも少しでも簡潔に記述するための工夫を凝らさねばなりません。友人や演習担当教員に見せて、助言を乞うことや、繰り返し音読してみることも文章上の欠点を改めるのに役立ちます。

大学生活の記念となる論文を「自分自身の作品」として生み出すためには、苦勞を惜しんではなりません。以上のような推敲が十分終わってもいない段階で清書に移ることは、論文の仕上がりが不十分となるだけでなく、かえってより多くの時間を費すものです。

⑥ 「論文要旨」の作成

卒業研究の場合、論文とは別に、「論文要旨」（400字）を書くことが求められます。これは、論文の主要な内容、論点を要約したものであり、字数が限られているため表現の仕方に工夫が必要です。

〈卒業研究の仕上げ方〉

卒業研究を清書して仕上げる際に留意すべき事項として、次のようなものがあります。

- ① 文体は「である」体を用いて、「です、ます」体は用いない。
- ② 主題と述語、修飾語と被修飾語とを明確にし、正確な文章にするよう心がける。文章は、あまり長くないようにすると読み易い。
- ③ 誤字・脱字に気をつけ、略字・当て字は使わない。
- ④ 原稿（目次、本文、参考文献）の各ページには、通し番号を入れる。
- ⑤ 引用箇所は必ずわかるように表記すること。短い場合には「……」でくくり、資料等長い文章を引用する場合は、各行のアタマを1字分さげて書くこと。
- ⑥ 引用箇所については出典を明示しなければなりません。引用文の最後のところの行間右肩に*印をつけて、同じページの欄外下に出典を書くこと。引用分が同じページに二つ以上ある場合には、順次、**、***等を用いる。
- ⑦ 出典（引用文献）の表示の仕方
 - 1) 著書の場合は、著者名、書名、出版社（欧文の場合は発行地）、発行年、引用ページの順に記し、邦文の場合は書名を『……』でくくり、欧文の場合には書名にアンダーラインしてください。

例 Adam Smith. An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations, ed. Edwin Cannan, 6th ed. , vol.1, London 1950, p.5.

毛利健三『自由貿易帝国主義』東京大学出版会、1987年、4ページ。
 - 2) 雑誌論文の場合は、著者名、論文名、雑誌名、巻号、発行年、引用ページの順に記入し、邦文の場合には、論文名に「……」を、雑誌名には『……』をつけ、欧文の場合には論文名に“……”等をつけ、雑誌名にアンダーラインしてください。

例 J.Gallagher and R.Robinson, "The Imperialism of Free Trade" The Economic History Review, 2nd ser. , vol.6, 1953, p.9.

宮崎犀一「自由帝国主義一問題の開拓一」『思想』515号、1967年、53ページ。
- ⑧ 引きつづいて同じ文献から引用する場合には、出典の記入を、同上、前掲、Ibid. , op. cit. のように略して構いません。
- ⑨ 著者名の五十音順に並べた引用文献目録を、論文の末尾につけてください。
- ⑩ 出典を示す場合以外の注は、行間右肩上に(1), (2), (3), ……の通し番号をつけ、各章末か論文全体の末尾に記します。注の記述も本文と同じく1マス1字としてください。
- ⑪ 図および表は、所定の用紙からはみ出さないようにしてください。1ページで書けない場合には2ページ以上に分けて書きます。他の文献から複写したものを切りぬいてはりつけるのは原則として認められません。（複写貼布が必要となる場合は、事前に演習担当教員の許可が必要です。）
- ⑫ 図および表にはそれぞれ、図1、表1のように通し番号と表題とをつけ、出所を図または表の下に明示してください。

第2部 教育課程

I	経済学部のカリキュラム体系	49
II	教育課程の編成方法	50
III	教養教育科目の教育目的および履修方法	53
IV	学部専攻科目の教育目的および履修方法	72
V	学部共通コース	87
VI	その他の教育課程・教育プログラム	110

I 経済学部のカリキュラム体系

(2020年度以降入学生に適用)

学年	1年		2年		3年		4年	
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
履修登録制限単位	22単位		22単位		22単位		48単位	
教養教育科目	「仏教の思想」科目							
	「仏教の思想A」(必修)		「仏教の思想B」(必修)					
	必修外国語科目				選択外国語科目			
	教養科目 人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目・スポーツ科学系科目							
学部専攻科目	基礎科目				現代経済学科科目			
	経済学の基礎I				経済理論プログラム			
	「ミクロ経済学入門I」「ミクロ経済学入門II」 「マクロ経済学入門I」「マクロ経済学入門II」 「現代と経済」「統計学入門」 「社会経済学入門」				より高度な現代の経済理論を学びます 「ゲーム理論」「経済成長と循環」「不確実性と情報の経済学」「行動経済学」 「産業組織論」「ファイナンス理論」「企業金融論」等			
	・現代と経済(全員履修科目) 日本や世界の経済について現在話題になっている様々なトピックを解説します。				企業・産業・地域経済など、現場に密着したところから経済を考えます 「労働経済学」「ホスピタリティ・ビジネス論」「地域産業論」「観光経済論」「サービス経済論」 「中小企業論」「地域産業活性化PJI」「地域産業活性化PJII」等			
	・ミクロ経済学入門I・II(必修科目) ・マクロ経済学入門I・II(必修科目) すべての経済学の基本になる、ミクロ経済学とマクロ経済学の考え方を学びます。				産業経済プログラム 様々な経済・社会問題を学び、それらを改善するための政策を提案します 「環境経済学」「総合政策論」「公共経済学」「社会政策」「租税論」「都市経済学」 「NPO論」「医療経済学」「生活福祉論」「地方財政論」等			
	・統計学入門(全員履修科目) データ分析の基本になる統計学の初歩を学びます。				応用政策プログラム 様々な経済・社会問題を学び、それらを改善するための政策を提案します 「環境経済学」「総合政策論」「公共経済学」「社会政策」「租税論」「都市経済学」 「NPO論」「医療経済学」「生活福祉論」「地方財政論」等			
	経済学の基礎II 「経済数学」「日本経済論」「経済史」 「ミクロ経済学」「マクロ経済学」 「統計学」「社会経済学」 「財政学」「金融論」 「経済政策」「国際経済学」 「経済学史」				経済データサイエンスプログラム ビッグデータ時代の新しいデータ分析の手法を学びます 「経済統計学」「計量経済学」「応用計量経済学」「データサイエンス入門」 「データサイエンス」「データ分析と問題解決」「情報システム論」等			
	様々な問題を分析する際の、経済学の基本的な考え方を学びます。特にミクロ経済学・マクロ経済学・統計学・経済史で学ぶ内容は、多くの学科科目の前提になります。				国際経済学科科目 国際経済プログラム 貿易や為替の仕組みとその影響などを学び、世界経済の行方を考えます 「国際政治経済学」「国際貿易政策」「比較経済論」「国際金融論」 「国際ビジネス論」「中国経済論」「ヨーロッパ経済論」「アメリカ経済論」等			
	データを読む能力の育成科目(全員履修) 「経済学の技法I」「経済学の技法II」 基本的な情報処理を学びます。				開発経済プログラム 開発という視点から、先進国と開発途上国の経済関係を見つめ直します 「開発経済学」「地域経済論」「国際協力論」「農業・資源経済学」 「アジア経済論」「海外フィールド実習」等			
	入門演習 基礎演習I 基礎演習II				国際経済史プログラム 長期にわたる日本と世界の経済発展の歴史を体系的に学びます 「日本経済史」「経済地理学」「ヨーロッパ経済史」 「アメリカ経済史」「経済思想史」等			
	学部専攻科目 経済学の基礎I・IIでは経済学の基本的な考え方を学び、より高度な学科学科科目や演習での学習に備えます。				学部共通コース 国際関係コース 英語コミュニケーションコース スポーツサイエンスコース 環境サイエンスコース			
	基礎力育成科目(コミュニケーション能力育成科目・データを読む能力の育成科目・会計・法律プログラム)				演習I 演習II 卒業研究			
	キャリア形成科目							

※卒業要件単位は「第1部 履修の心得」の「Ⅲ-5. 卒業要件単位および学士号」(P.23~25)を参照してください。

はじめに
履修一般
教育課程
教養教育科目
学部専攻科目
学部共通コース
留学・単位互換等
就職課程その他
学修生活
大学院経済学研究科
付録

Ⅱ 教育課程の編成方法

1. 授業科目の区分

本学の教育課程（カリキュラム）の編成は、4年間（8 Semester）にわたっており、その内容は次のとおり構成されています。これらの分類のことを「授業科目の区分」といいます。

- ・教養教育科目（「仏教の思想」科目・言語科目・教養科目）
- ・専攻科目

2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに指定されています。

必修科目	卒業要件を満たすために必ず履修し、単位を修得しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。
選択必修科目	指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して単位を修得しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。
選択科目	どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件上、一定の単位数を修得することが義務づけられており、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。
随意科目	主として各種の資格取得にかかわる科目であって、卒業要件とは無関係です。そのため、随意科目は教養教育科目、学部専攻科目の区分の外に置かれます。

3. クラスの編成

(1) クラスとは

クラスとは教育上の効果を考慮して、受講者を適切な規模に分割したものです。

(2) クラスの種類

クラスには次の種類があります。

- ① 必修外国語クラス
- ② 学部専攻科目クラス（基礎演習等）

(3) アドバイザークラス

アドバイザークラスとは1年次、2年次においてみなさんの大学における学修生活の相談相手となる担い手がおかれている学部専攻科目クラス（基礎演習等）のことです。

ポータルサイトや経済学部掲示板、時間割表での伝達や指示の際に使用されるクラス名はすべてこのアドバイザークラスのことを指します。

4. 学科制

(1) 学科制とは

学科とは、教育の方向性についてひとつ柱を立て、それを達成するために科目・スタッフを配置して、系統的な学修をすすめるための仕組みです。

その柱として、「現代経済学科」では、現代社会が抱える大きな問題（たとえば環境問題）から、具体的な課題（たとえば排出権取引）を引き出して解決にむかう道筋をつけることが期待されています。また、「国際経済学科」では、国という枠を超えた問題（たとえば国際資本の動き）を知って、それを十分に理解したうえで次の行動（たとえば援助のあり方）を考える事が期待されています。

学科の教育内容については、それぞれと関連した科目群（プログラム）を配置していますので、より具体的なイメージを持つことができます。

(2) 「演習」と学科選択

1年次生は、まだ所属する学科が確定していません。学科の決定は、第3セメスター（2年次生第1学期）に行う「演習Ⅰ」の選択と同時に決まります。経済学部では演習（ゼミ）が第1セメスターから継続的に配置されており、第4セメスターから始まる「演習Ⅰ」（「演習Ⅱ」に継続される）が、最終的に所属する演習となります。この「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」は、その扱う内容によって「現代経済学科」に属する演習と「国際経済学科」に属する演習とに分けられています。

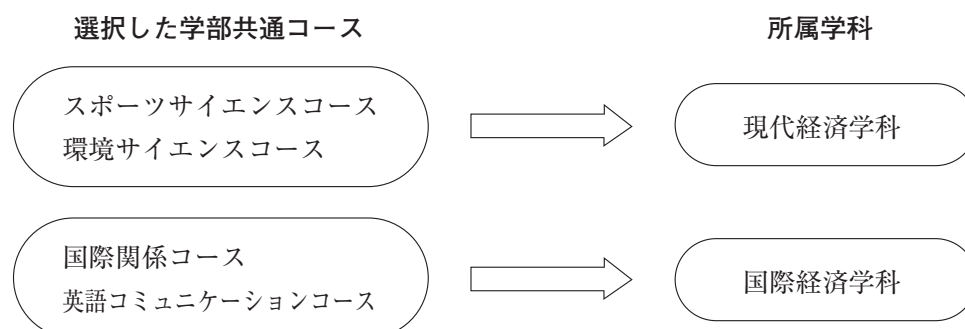
つまり、みなさんが2学科のどちらに所属するかは、選択する「演習Ⅰ」によって決定します。

一度選択し、決定した演習・学科は原則として変更できません。演習を選択する際は、みなさんの学修目標に照らし合せ、慎重に選択してください。ただし、経済学部で開講されている講義科目は、いずれの学科に所属していても受講することができます。

具体的に所属学科が決定するまでのスケジュールは、次のページのとおりです。

(3) 学部共通コースと所属学科

経済学部では学部専攻演習とは別に学部共通コースを選択し、演習を受講することも可能です。学部共通コースとは、学部の枠を超えて「国際関係」「英語コミュニケーション」「スポーツサイエンス」「環境サイエンス」の各テーマに基づいた学修を行うために、経済学部・経営学部・法学部・政策学部所属学生が選択できるコースです。ただし、学部共通コースに所属する場合は、経済学部専攻演習（「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業研究」）を重複して受講することはできません。また、学部共通コースを選択した場合の所属学科は、次のとおりとなります。



Ⅲ 教養教育科目の教育目的および履修方法

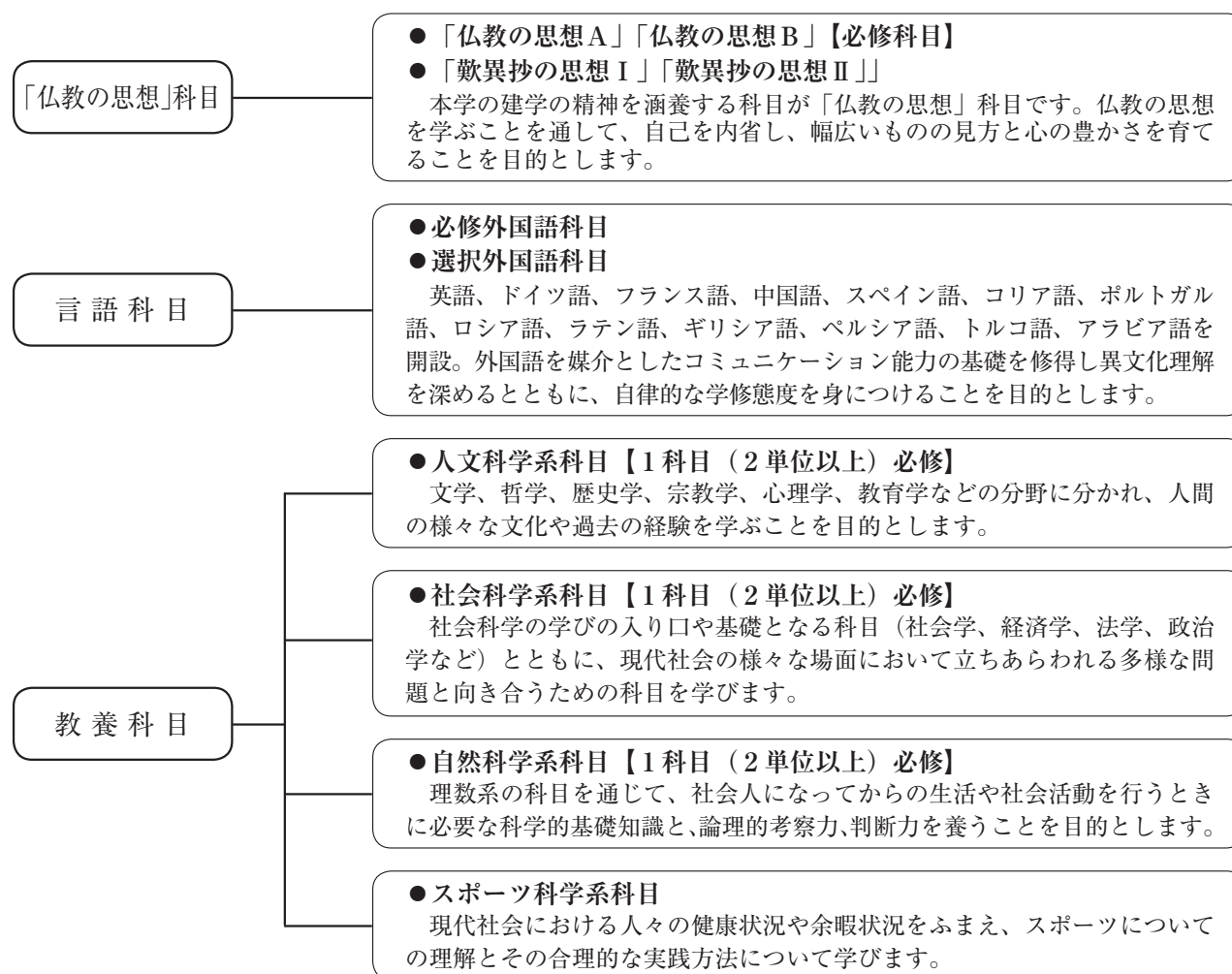
1. 教養教育とは

(1) 教養教育の理念・目的

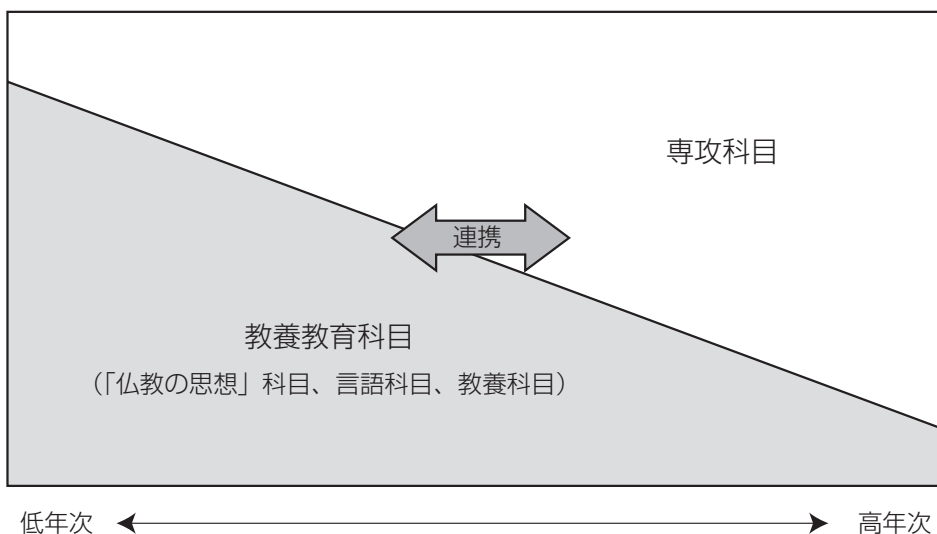
龍谷大学の教養教育は、人間の根源的な問いからその内面を見つめる思考の幅を広げ、人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成を目指して開講されています。このため、建学の精神に基づく高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ね備え、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成、つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力や判断力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する力と、国際的なコミュニケーション能力をもった「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としています。

(2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、「仏教の思想」科目、言語科目、教養科目の3つの科目区分で構成されており、これら全体を教養教育科目とよびます。



(3) カリキュラムマップ



		配当セメスター							
		1	2	3	4	5	6	7	8
「仏教の思想」科目	仏教の思想 等								
言語科目	英語科目								
	初修外国語科目								
教養科目	人文科学系科目								
	社会科学系科目								
	自然科学系科目								
	スポーツ科学系科目								

2. 「仏教の思想」科目

「仏教の思想」科目では、1年次の必修科目「仏教の思想A」「仏教の思想B」と、2年次以降の選択科目「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」が開設されています。ここでは「仏教の思想」を中心に説明します。

(1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的としています。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で1年次に開講されています。また、入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、次のような教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

(2) 履修方法

① 必修科目

「仏教の思想A」「仏教の思想B」は必修科目です。配当されたセメスターにおいて必ず履修してください。

② 選択科目

「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」は選択科目で、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

③ クラス指定

授業内容の系統性を確保するため、「仏教の思想A」「仏教の思想B」は同一の授業担当者になります。学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。なお、9月入学生については、所属学部教務課の指示に従って履修してください。

④ 「仏教の思想A」「仏教の思想B」の再履修

配当されたセメスターで不合格となった場合は、2年次以降に次のとおり再度履修してください。なお、この場合は、上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。各自、履修登録を行ってください。

年次	セメスター	科目名
2年次	3	「仏教の思想A」(正規クラスを再履修として履修)
	4	「仏教の思想B」(正規クラスを再履修として履修)
3年次～ (注)	5	「仏教の思想A」(正規クラスを再履修として履修) 「仏教の思想B」(再履修クラス)
	6	「仏教の思想A」(再履修クラス) 「仏教の思想B」(正規クラスを再履修として履修)

(注) 3年次以上は、同一セメスターで、A・Bを同時履修することが可能です。

3. 言語科目

言語科目には、必修外国語科目と選択外国語科目があります。必修外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語が、選択外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語・ポルトガル語・ロシア語・ラテン語・ギリシア語・ペルシア語・トルコ語・アラビア語が開設されています。必修外国語科目12単位は必ず修得してください。

(1) 目的と意義

外国語教育では、母語とはまったく異なる言語に接することで、母語に基づいた思考様式とはまったく異なった思考様式に対する認識・理解を深めることができます。また、これにより、外国の文化、芸術、社会におけるさまざまな伝統や価値観をより深く理解する能力も養われます。さらにそれは、日本語を客観的にながめ、自らの日本語能力を見直すよい機会ともなるでしょう。このような意味で、外国語教育は大学生活に必須の学問的基礎訓練の一環となっています。こうした目標を達成するには、地道な努力の継続が欠かせないこと、また、授業時間外における自主的な学修も必要であることを心に留めておいてください。

[英語]

●必修外国語科目・英語（英語総合）2年間の到達目標

標準的な語彙を用いた、文字または音声による英語の内容を的確に捉えられるようにします。また、正確な情報を把握するために基本的な文法構造と語彙を修得します。さらに、英語の自律的な学修態度を身につけます。

●選択外国語科目・英語（積み上げ英語）の到達目標

積み上げ英語とは、選択外国語科目中の発展科目として開設される英語を指します。必修科目で養った基礎的な英語運用能力のレベルアップをはかるとともに、個々のニーズに合わせた英語運用能力の向上を目指します。例えば専門分野での学習や留学に対応できるように、知的情報の受信発信能力のさらなる向上を目標とします。

[初修外国語]

本学では、英語以外の外国語で、歴史的・社会的・文化的に見て重要な言語の中から、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語の5言語を「初修外国語」として必修科目に組み入れています。

英語以外の外国語を学ぶことによって、その運用能力を身につけるとともに、言語一般の普遍的構造や機能に対する理解を深め、世界を複眼的に考察する視点を養います。

(2) 必修外国語科目の履修

「読む・書く・聴く・話す」といった技能のレベルアップを図るとともに、国際社会において確固とした判断・主張・行動ができるための素地の育成をめざします。

計12単位を必修とし、1年次には英語と初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語のうち1つを選択）を学び、2年次には英語（英語重視型の場合）もしくは初修外国語（初修外国語重視型の場合）のいずれかを学びます。

① 開設科目・配当セメスター（履修パターン別）

1年次		2年次		
第1セメスター 〈4単位〉	第2セメスター 〈4単位〉	履修パターン	第3セメスター 〈2単位〉	第4セメスター 〈2単位〉
<英語 4単位> 英語総合1(A) (週1回：1単位) 英語総合1(B) (週1回：1単位)		英語重視型	<英語 4単位> 英語総合3(A) (週1回：1単位) 英語総合3(B) (週1回：1単位)	
英語総合2(A) (週1回：1単位) 英語総合2(B) (週1回：1単位)			英語総合4(A) (週1回：1単位) 英語総合4(B) (週1回：1単位)	
<初修外国語 4単位> I (週2回：2単位)		初修外国語重視型	<初修外国語 4単位> III A (週1回：1単位) III C (週1回：1単位)	
II (週2回：2単位)			III B (週1回：1単位) III D (週1回：1単位)	

② 初修外国語の言語及び履修パターンの選択スケジュール

<入学前>
Web入学手続き

初修外国語の言語選択希望調査
「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「スペイン語」「ロシア語」のうち、履修を希望する言語をいずれか1つ選択します。

<1年次生>
4月

初修外国語の言語発表
言語選択希望調査をふまえ、第1学期（前期）の履修登録時に、Web履修登録画面にて履修する言語を発表します。

<1年次生>
10月（予定）

履修パターン選択調査
「英語重視型」「初修外国語重視型」のいずれかを選択します。本選択調査の詳細については、別途指示します。

<1年次生>
12月（予定）

履修パターンの発表
一旦決定した履修パターンの変更は認められません。

<2年次生>
4月～

「英語重視型」

「初修外国語重視型」

③ 習熟度別クラス編成

英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。

1年次クラスは入学時に実施する英語クラス編成テスト（プレイメントテスト）、2年次クラスは1年次の11月頃に実施する英語クラス編成テスト（英語確認テスト）の得点結果によって編成します。

④ 先修制

必修外国語科目には下記のとおり先修制が定められています。

授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位数
ドイツ語Ⅱ, ⅢA～ⅢD	「ドイツ語Ⅰ」(2単位)
フランス語Ⅱ, ⅢA～ⅢD	「フランス語Ⅰ」(2単位)
中国語Ⅱ, ⅢA～ⅢD	「中国語Ⅰ」(2単位)
スペイン語Ⅱ, ⅢA～ⅢD	「スペイン語Ⅰ」(2単位)
コリア語Ⅱ, ⅢA～ⅢD	「コリア語Ⅰ」(2単位)

⑤ 再履修

必修外国語科目が不合格になった場合は、定められた方法により、再履修しなければなりません。

再履修するには、受講予定者自身が履修登録(本登録)の前に「事前登録」をする必要があります。希望の曜講時を選択し登録してください。

※受講者数が均等になるよう調整するため、担当者やクラスを選択できない場合があります。

※履修方法等については、科目ごとに異なりますので注意してください。

○英語の再履修について

英語総合の再履修	再履修用科目「英語総合(再)」を、必要単位数(不合格となった科目数)履修してください。評価の最高点は79点となります。 なお、単位を修得した「英語総合(再)」と同じ開講期・曜講時に開講する「英語総合(再)」は、再度履修することはできません。
----------	---

例：2021年度後期に月曜日5講時に開講する「英語総合(再)」の単位を修得した場合、次年度(2022年度)以降、後期月曜日5講時に開講する「英語総合(再)」は履修できない。

	月	火	水	木	金
第1学期(前期)5講時	英語総合(再)	英語総合(再)		英語総合(再)	英語総合(再)
第2学期(後期)5講時	英語総合(再)	英語総合(再)		英語総合(再)	英語総合(再)

○初修外国語の再履修について

初修外国語Ⅰ・Ⅱの再履修	不合格となった科目の再履修クラスあるいは正規クラスを選択して履修してください。 ※クラス名は、時間割表やWeb履修登録画面にて確認のこと。
初修外国語ⅢA～ⅢDの再履修	不合格となった科目あるいは再履修用科目(○○○語Ⅲ(再))を履修してください。 例)「ドイツ語ⅢC」を不合格となった場合、「ドイツ語ⅢC」あるいは「ドイツ語Ⅲ(再)」を履修。

⑥ 選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修したい場合（2年次生以降）

各自が選択した履修パターンにある科目以外で、先修条件を満たしている必修外国語科目は履修することができます。履修を希望する場合は、経済学部教務課窓口にある「希望届」を経済学部教務課窓口に提出してください。ただし、「希望届」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などの条件により、許可されない場合があります。

修得した単位数はフリーゾーンとして卒業要件に含むことができます。

- 例：1. フランス語を選択している英語重視型の学生が、「フランス語ⅢA」を履修し修得した単位
 2. 初修外国語重視型の学生が「英語総合3(A)」を履修し修得した単位
 3. 中国語を選択している英語重視型または初修外国語重視型の学生が、「スペイン語Ⅰ」を履修し修得した単位

⑦ 初修外国語の言語を変更したい場合（2年次生以降）

一旦選択した初修外国語の履修を放棄し、他の言語への変更を特に希望する場合は、経済学部教務課窓口にある「変更理由書」を、経済学部教務課窓口に提出してください。ただし、「変更理由書」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などの条件により、許可されない場合があります。変更が認められた場合は、新たに「Ⅰ」から履修してください。

変更前に修得した言語の単位はフリーゾーンとして卒業要件に含むことができます。

- 例：「ドイツ語Ⅰ」の単位修得後、フランス語に言語変更した場合、先に修得した「ドイツ語Ⅰ」は「フランス語Ⅰ」として読み替えられませんので注意が必要です。

(3) 選択外国語科目の履修

選択外国語科目には、新しい言語にチャレンジするための入門科目と発展科目が開設されています。より高度な運用能力（読む・聴く・話す・書く）の向上を図るとともに、そのことばが用いられている国・地域の文化的、社会的事情についての理解を深めることをめざします。なお、選択外国語科目は教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

【入門科目】開設言語	【発展科目】開設言語
ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語

また、これらの科目の他に、ポルトガル語、ロシア語、ラテン語、ギリシア語、ペルシア語、トルコ語、アラビア語が開設されており、みなさんの多様な興味・関心に応えることができます。

① 開設科目・配当セメスター

	1年次		2年次		3年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター
【入門科目】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 韓国語				コミュニケーションⅠ (2単位)	コミュニケーションⅡ (2単位)	
【発展科目(英語)】			英語ⅡR1 (2単位)	英語ⅡR2 (2単位)	英語ⅢR1 (2単位)	英語ⅢR2 (2単位)
			英語ⅡS1 (2単位)	英語ⅡS2 (2単位)	英語ⅢS1 (2単位)	英語ⅢS2 (2単位)
		英語資格試験セミナー(注1) (2単位/サマーセッション)			英語ⅢG1 (2単位)	英語ⅢG2 (2単位)
		海外英語研修 (2単位/後期集中)			英語ⅢW1 (2単位)	英語ⅢW2 (2単位)
【発展科目(初修外国語)】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 韓国語			セミナーⅠA (2単位)	セミナーⅠB (2単位)	セミナーⅡA (2単位)	セミナーⅡB (2単位)
			セミナーⅠC (2単位)	セミナーⅠD (2単位)	セミナーⅡC (2単位)	セミナーⅡD (2単位)
			海外中国語研修講座(注2) (2単位/通年集中)			
ポルトガル語 ロシア語			Ⅰ (2単位)	Ⅱ (2単位)	ⅢA (2単位)	ⅢB (2単位)
ラテン語 ギリシア語			Ⅰ (1単位)	Ⅱ (1単位)		
ペルシア語			ⅠA (2単位)	ⅡA (2単位)		
			ⅠB (2単位)	ⅡB (2単位)		
トルコ語 アラビア語			Ⅰ (2単位)	Ⅱ (2単位)		

(注1)「海外英語研修」(2単位)は1年次生と2年次生のみ履修が可能です。グローバル教育推進センターにおいて申込み手続きを行ってください(Web履修登録不要)。

(注2)「海外中国語研修講座」(2単位)は、現地研修に先立ち、グローバル教育推進センターにおいて申込み手続きを行い(Web履修登録不要)、第1学期(前期)には事前指導が行われるので必ず出席してください。

なお、「海外中国語研修講座」(2単位)は、原則、所属する学部教務課へ申し出ることにより、初修外国語重視型「中国語ⅢA～ⅢD(計4単位)」のなかで、2単位まで充当されます。

② 先修制

選択外国語科目のうち以下の科目には先修制が定められています。

授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位数
ドイツ語セミナーⅠA～ⅠD	「ドイツ語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
フランス語セミナーⅠA～ⅠD	「フランス語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
中国語セミナーⅠA～ⅠD	「中国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
スペイン語セミナーⅠA～ⅠD	「スペイン語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
韓国語セミナーⅠA～ⅠD	「韓国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
ドイツ語セミナーⅡA～ⅡD	「ドイツ語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「ドイツ語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位)より2科目(計4単位)
フランス語セミナーⅡA～ⅡD	「フランス語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「フランス語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位)より2科目(計4単位)
中国語セミナーⅡA～ⅡD	「中国語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「中国語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位)より2科目(計4単位)
スペイン語セミナーⅡA～ⅡD	「スペイン語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「スペイン語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位)より2科目(計4単位)
韓国語セミナーⅡA～ⅡD	「韓国語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「韓国語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位)より2科目(計4単位)
ドイツ語コミュニケーションⅡ	「ドイツ語Ⅰ」(2単位) または 「ドイツ語コミュニケーションⅠ」(2単位)
フランス語コミュニケーションⅡ	「フランス語Ⅰ」(2単位) または 「フランス語コミュニケーションⅠ」(2単位)
中国語コミュニケーションⅡ	「中国語Ⅰ」(2単位) または 「中国語コミュニケーションⅠ」(2単位)
スペイン語コミュニケーションⅡ	「スペイン語Ⅰ」(2単位) または 「スペイン語コミュニケーションⅠ」(2単位)
韓国語コミュニケーションⅡ	「韓国語Ⅰ」(2単位) または 「韓国語コミュニケーションⅠ」(2単位)
英語ⅡR1, ⅡR2, ⅡS1, ⅡS2	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B)」(計4単位)
英語ⅢR1, ⅢR2, ⅢS1, ⅢS2, ⅢG1, ⅢG2, ⅢW1, ⅢW2	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B), 3(A), 3(B), 4(A), 4(B)」(各1単位)より4科目(計4単位)
海外中国語研修講座	「中国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
ポルトガル語Ⅱ、ⅢA,ⅢB	「ポルトガル語Ⅰ」(2単位)
ロシア語Ⅱ、ⅢA,ⅢB	「ロシア語Ⅰ」(2単位)
ペルシア語ⅡA, ⅡB	「ペルシア語ⅠA」(2単位) または 「ペルシア語ⅠB」(2単位)

4. 教養科目

教養科目は、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ科学系科目」の4つの系列に分類されており、各系列から偏りなく履修することを通じ、幅広い教養を身につけることを可能にしています。全ての教養科目は自由に選択できますが、選択必修として「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている基幹科目（学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目）の中から各1科目（2単位）以上修得する必要があります。なお、「スポーツ科学系科目」及び2単位を超えて修得した基幹科目の単位については、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

人文科学系科目

人文科学は、人間の様々な文化や過去の経験を研究する学問領域で、大きくは文学、哲学、歴史学、宗教学、心理学、教育学などに分かれます。人文科学系科目では、先入観や偏見から自由になってものごとを考える力、芸術作品を鑑賞する能力、感情や意見の表現の仕方、人間の心理を理解する方法などを身につけることを目的にしています。

社会科学系科目

社会科学（社会学、経済学、法学、政治学など）は、絶えず変動し複雑さを増す現代社会を広く見渡すとともに、現代社会の諸問題を多角的に捉え、思考・判断する力を養います。そのために、様々な学問分野が培ってきた「ものの見方」や「考え方」、さらには幅広い知識や知的な諸技法を学びます。

自然科学系科目

自然科学は社会生活を送るうえで重要な分野の一つをなしています。社会人になってからの生活や社会活動の際に必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養います。数学、情報科学、物理学、天文学、科学史、地球科学、生物学、環境学、化学などの主要分野をカバーする科目を開設します。

スポーツ科学系科目

生涯にわたり健康で文化的な生活の基礎を築くとともに、文化としてのスポーツに対する理解を促し、現代社会におけるスポーツの役割や人間の身体がもつ可能性について考える機会とするための科目を設定しています。具体的には実際にスポーツや身体活動を行う実習科目や行動変容を促す講義科目を開設します。

(1) 単位認定の方法

単位は、それぞれの科目ごとに認定されます。

(2) 開講方式および履修方法

- ① すべての科目には配当セメスターが設定されており、配当セメスターより前のセメスターにおいては履修できません。
- ② 同一科目名の授業の中にも、セメスター型、通年型の開講方式があり、いずれの方式の授業でも履修できます（ただし、1科目のみ）。
- ③ 同一科目名で授業担当者が異なる場合でも同一科目として取り扱います。
よって、同じセメスターにおいて、二つ以上同時に履修することや一度単位認定された科目を再度履修することはできません。
- ④ 同一の科目名でありながら、「〇〇A」「〇〇B」「〇〇C」とある科目や「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」とある科目は、それぞれ独立した科目であり、いずれも卒業要件として認定されます。「〇〇A」という科目を修得していなくても、「〇〇B」の履修は可能です。なお、「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」の「I」「II」「III」は科目内容のグレードを表していますので、できるだけ順序だてて履修してください。

※「スポーツ技術学演習」

- ① 「スポーツ技術学演習」を履修するためには、本学で行う健康診断を受けておかなければなりません。健康診断の日程については履修説明会や本学ホームページにて確認してください。
- ② 各演習ともに、第1回目の授業は「体育館メインフロア（2階）」に集合してください。

5. 教養科目、選択外国語科目の予備登録

教養科目、選択外国語科目では、各授業科目の受講者数を適正規模に調整するために「予備登録制」がとられています。

したがって、教養科目、選択外国語科目の受講に際しては、年次にかかわらず、予備登録を行う必要があります。

予備登録を行う際は、予備登録できる上限科目数及び学期ごとに定められている履修登録制限単位数に基づき、履修計画をたてた上で、予備登録を行ってください（一部予備登録が不要な科目もありますので、下記「(5) 予備登録が不要な科目」を参照してください）。

予備登録の結果、受講が許可された科目は、Web履修登録画面にあらかじめ確定した状態で表示されます。その場合、登録の取消はできませんので注意してください。

なお、予備登録で希望した科目の受講が許可されなかった場合や、予備登録を行わなかった場合でも、本登録時にWeb履修登録画面に表示されている科目を選択し履修登録（本登録）することができます。

(1) 予備登録の方法

本学ホームページの「ポータルサイト」から、Web予備・事前登録画面にアクセスの上、希望科目を選択します。

予備登録期間については、履修説明会およびポータルサイト、経済学部掲示板で確認してください。

(2) 予備登録できる上限科目数

第1学期（前期）（通年科目含む）：7科目

第2学期（後期）：5科目

なお、4年次生には予備登録科目数の制限はありません。

(3) 予備登録結果発表

予備登録結果はWeb履修登録画面で確認してください。

なお、発表日時（履修登録期間）については、履修説明会ポータルサイト、および経済学部掲示板で確認してください。

(4) 予備登録にあたっての注意事項

- ① 第1学期（前期）履修登録は、第1学期（前期）および通年科目ならびに8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。第2学期（後期）履修登録は第2学期（後期）開講科目を登録します。（ただし、4年次生以上は通年登録（年1回登録）のため、第2学期（後期）開講科目についても第1学期（前期）に履修登録を行ってください）。
- ② 各年次について定められている履修登録制限単位の範囲で履修登録をしてください。

- ③ 重複登録（同一曜講時に2科目以上の履修登録をすること）、二重登録（すでに所定単位を修得した授業科目を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目はすべて無効となります。

(5) 予備登録が不要な科目

以下の科目は予備登録が不要です。受講を希望する場合は、直接、履修登録（本登録）をしてください。

「人権論A・B」（1年次配当科目）

「海外英語研修」（1年次配当科目。1年次生と2年次生のみ履修可）※

「海外中国語研修講座」（2年次配当科目）※

※「海外英語研修」「海外中国語研修講座」の履修を希望する学生は、グローバル教育推進センターが開催する説明会に参加してください（開催日等はポータルサイトまたはグローバル教育推進センターの掲示板にて確認してください）。その上で申込み手続きを行ってください。なお、「海外中国語研修講座」は「中国語Ⅰ・Ⅱ」の計4単位を修得した学生だけが履修できますので注意してください。

6. 留学生の必修外国語科目（日本語科目等）

留学生は「日本語」および「留学生のための英語入門A」・「留学生のための英語入門B」を必修外国語として12単位履修し修得することを原則とします。

ただし、登録にあたっては必ず経済学部教務課窓口で相談してください。

科目名	単位	配当年次	開講形態
日本語	1	1年次以上	Semester型
留学生のための英語入門A（注1）	1	1年次以上	Semester型
留学生のための英語入門B（注2）	1	1年次以上	Semester型

（注1）学則上の科目名は「英語総合1(B)」です。

（注2）学則上の科目名は「英語総合2(B)」です。

学部専攻科目にも留学生を対象とした科目があります。詳しくは「Ⅳ-6 留学生対象科目」を参照してください。

7. 教養教育科目開設科目

(1) 「仏教の思想」科目

◎は必修科目 ○は選択科目

授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
		1	2	3	4	5	6	
仏教の思想A	2	◎						2科目（4単位）必修
仏教の思想B	2		◎					
歎異抄の思想I	2			○				
歎異抄の思想II	2				○			

(2) 言語科目

◎は必修外国語科目 ○は選択外国語科目

授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
		1	2	3	4	5	6	
英語総合1 (A)	1	◎						
英語総合1 (B)	1	◎						
英語総合2 (A)	1		◎					
英語総合2 (B)	1		◎					
英語総合3 (A)	1			◎				
英語総合3 (B)	1			◎				
英語総合4 (A)	1				◎			
英語総合4 (B)	1				◎			
ドイツ語I	2	◎						
ドイツ語II	2		◎					
ドイツ語ⅢA	1			◎				
ドイツ語ⅢB	1				◎			
ドイツ語ⅢC	1			◎				
ドイツ語ⅢD	1				◎			
フランス語I	2	◎						
フランス語II	2		◎					
フランス語ⅢA	1			◎				
フランス語ⅢB	1				◎			
フランス語ⅢC	1			◎				
フランス語ⅢD	1				◎			
中国語I	2	◎						
中国語II	2		◎					
中国語ⅢA	1			◎				
中国語ⅢB	1				◎			
中国語ⅢC	1			◎				
中国語ⅢD	1				◎			
スペイン語I	2	◎						
スペイン語II	2		◎					

授業科目名	単位	配当 Semester						備 考
		1	2	3	4	5	6	
スペイン語Ⅲ A	1			○				1年次生と2年次生のみ履修可
スペイン語Ⅲ B	1				○			
スペイン語Ⅲ C	1			○				
スペイン語Ⅲ D	1				○			
コリア語Ⅰ	2	○						
コリア語Ⅱ	2		○					
コリア語Ⅲ A	1			○				
コリア語Ⅲ B	1				○			
コリア語Ⅲ C	1			○				
コリア語Ⅲ D	1				○			
英語Ⅱ R 1	2			○				
英語Ⅱ R 2	2				○			
英語Ⅱ S 1	2			○				
英語Ⅱ S 2	2				○			
英語Ⅲ R 1	2					○		
英語Ⅲ R 2	2						○	
英語Ⅲ S 1	2					○		
英語Ⅲ S 2	2						○	
英語Ⅲ G 1	2					○		
英語Ⅲ G 2	2						○	
英語Ⅲ W 1	2					○		
英語Ⅲ W 2	2						○	
英語資格試験セミナー	2		○					
海外英語研修	2		○					
ドイツ語セミナーⅠ A	2			○				
ドイツ語セミナーⅠ B	2				○			
ドイツ語セミナーⅠ C	2			○				
ドイツ語セミナーⅠ D	2				○			
ドイツ語セミナーⅡ A	2					○		
ドイツ語セミナーⅡ B	2						○	
ドイツ語セミナーⅡ C	2					○		
ドイツ語セミナーⅡ D	2						○	
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2				○		国際関係コース提供科目	
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2					○	国際関係コース提供科目	
フランス語セミナーⅠ A	2			○				
フランス語セミナーⅠ B	2				○			
フランス語セミナーⅠ C	2			○				
フランス語セミナーⅠ D	2				○			
フランス語セミナーⅡ A	2					○		
フランス語セミナーⅡ B	2						○	

授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
		1	2	3	4	5	6	
フランス語セミナーⅡC	2					○		国際関係コース提供科目 国際関係コース提供科目
フランス語セミナーⅡD	2						○	
フランス語コミュニケーションⅠ	2				○			
フランス語コミュニケーションⅡ	2					○		
中国語セミナーⅠA	2			○				国際関係コース提供科目 国際関係コース提供科目
中国語セミナーⅠB	2				○			
中国語セミナーⅠC	2			○				
中国語セミナーⅠD	2				○			
中国語セミナーⅡA	2					○		国際関係コース提供科目 国際関係コース提供科目
中国語セミナーⅡB	2						○	
中国語セミナーⅡC	2					○		
中国語セミナーⅡD	2						○	
中国語コミュニケーションⅠ	2				○			国際関係コース提供科目 国際関係コース提供科目
中国語コミュニケーションⅡ	2					○		
スペイン語セミナーⅠA	2			○				
スペイン語セミナーⅠB	2				○			
スペイン語セミナーⅠC	2			○				国際関係コース提供科目 国際関係コース提供科目
スペイン語セミナーⅠD	2				○			
スペイン語セミナーⅡA	2					○		
スペイン語セミナーⅡB	2						○	
スペイン語セミナーⅡC	2					○		国際関係コース提供科目 国際関係コース提供科目
スペイン語セミナーⅡD	2						○	
スペイン語コミュニケーションⅠ	2				○			
スペイン語コミュニケーションⅡ	2					○		
コリア語セミナーⅠA	2			○				国際関係コース提供科目 国際関係コース提供科目
コリア語セミナーⅠB	2				○			
コリア語セミナーⅠC	2			○				
コリア語セミナーⅠD	2				○			
コリア語セミナーⅡA	2					○		国際関係コース提供科目 国際関係コース提供科目
コリア語セミナーⅡB	2						○	
コリア語セミナーⅡC	2					○		
コリア語セミナーⅡD	2						○	
コリア語コミュニケーションⅠ	2				○			国際関係コース提供科目 国際関係コース提供科目
コリア語コミュニケーションⅡ	2					○		
海外中国語研修講座	2			○				
ポルトガル語Ⅰ	2			○				
ポルトガル語Ⅱ	2				○			
ポルトガル語ⅢA	2					○		
ポルトガル語ⅢB	2						○	

授業科目名	単位	配当セメスター						備考
		1	2	3	4	5	6	
ロシア語Ⅰ	2			○				
ロシア語Ⅱ	2				○			
ロシア語ⅢA	2					○		
ロシア語ⅢB	2						○	
ラテン語Ⅰ	1			○				
ラテン語Ⅱ	1				○			
ギリシア語Ⅰ	1			○				
ギリシア語Ⅱ	1				○			
ペルシア語ⅠA	2			○				
ペルシア語ⅠB	2			○				
ペルシア語ⅡA	2				○			
ペルシア語ⅡB	2				○			
トルコ語Ⅰ	2			○				
トルコ語Ⅱ	2				○			
アラビア語Ⅰ	2			○				
アラビア語Ⅱ	2				○			

※下記の科目は留学生のみ履修可能です。

授業科目名	単位	配当セメスター						備考
		1	2	3	4	5	6	
日本語	1	◎	◎					
留学生のための英語入門A	1	◎	◎					学則上の科目名（英語総合1(B)）
留学生のための英語入門B	1	◎	◎					学則上の科目名（英語総合2(B)）

(3) 教養科目

●は選択必修科目として開講する基幹科目 ○は選択科目

科目区分	授業科目名	単位	配当セメスター						備考
			1	2	3	4	5	6	
人文科学系科目	哲学入門	2	●						} 1科目（2単位以上）必修
	哲学A	2	●						
	倫理学入門	2	●						
	倫理学A	2	●						
	クリティカル・シンキング	2	●						
	宗教学入門	4	●						
	宗教の世界A	2	●						
	宗教の世界B	2		●					
	中国の思想A	2	●						
	中国の思想B	2		●					
	日本の文学A	4	●						

科目 区分	授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
			1	2	3	4	5	6	
人文科学系科目	日本の文学B	4		●					
	アジアの文学A	2	●						
	アジアの文学B	2	●						
	西洋の文学A	2	●						
	西洋の文学B	2		●					
	文章表現法A	2	●						
	文章表現法B	2		●					
	言語と文化	2	●						
	日本の歴史A	4	●						
	日本の歴史B	4		●					
	アジアの歴史A	4	●						
	アジアの歴史B	4		●					
	西洋の歴史A	4	●						
	現代世界の歴史A	2	●						
	現代世界の歴史B	2		●					
	心理学	4	●						
	心の科学A	2	●						
	心の科学B	2		●					
	教育学のすすめA	2	●						
	教育学のすすめB	2		●					
	哲学B	2				○			
	倫理学B	2				○			
	論理学	2				○			
	芸術の世界A	2				○			
	芸術の世界B	2					○		
	日本の文学C	2				○			
	歴史学入門	2				○			
	日本の歴史C	4				○			
	日本の文化	4					○		
	アジアの文化	2				○			
	西洋の歴史B	2				○			
	西洋の歴史C	2					○		
	応用心理学A	2				○			
	応用心理学B	2					○		
	現代社会と教育A	2				○			
	現代社会と教育B	2					○		
教育原論A	2				○				
教育原論B	2					○			
学習・発達論A	2				○				
学習・発達論B	2					○			
人文科学セミナー	4				○				
大学論	2				○				

科目区分	授業科目名	単位	配当 Semester						備考
			1	2	3	4	5	6	
社会科学系科目	日本国憲法	2	●						1科目(2単位以上)必修 「経済学のすすめ」: 経済学部生は履修不可
	法学のすすめ	2	●						
	政治学のすすめ	2	●						
	社会学のすすめ	2	●						
	地理学のすすめ	2	●						
	経済学のすすめ	2	●						
	経営学のすすめ	2	●						
	国際学のすすめ	2	●						
	文化人類学のすすめ	2	●						
	社会調査のすすめ	2	●						
	社会統計学のすすめ	2	●						
	人権論A	2	○						
	人権論B	2		○					
	現代社会とメディア	2			○				
	現代社会と福祉	2			○				
	現代社会と法	2			○				
	環境と社会	2			○				
	平和学A	2			○				
	ジェンダー論	2			○				
	国際社会論	2			○				
	現代社会の諸問題	2			○				
	地域論	2			○				
	企業と会計	2			○				
現代社会と労働	2			○					
社会思想史	2			○					
英語で学ぶ日本の社会A	2	○							
英語で学ぶ日本の社会B	2	○							
自然科学系科目	数学入門	2	●					1科目(2単位以上)必修	
	数学への旅	2	●						
	確率・統計入門	2	●						
	宇宙の科学I	4	●						
	地球科学のすすめ	2	●						
	物理学の世界	4	●						
	時間と空間の科学	2	●						
	自然科学史I	2	●						
	生物科学のすすめ	4	●						
	生命科学のすすめ	2	●						
	生態学のすすめ	4	●						
	人類学のすすめ	4	●						
	環境学	4	●						
	情報科学入門	2			●				
	微分と積分	4	○						

科目区分	授業科目名	単位	配当セメスター						備考	
			1	2	3	4	5	6		
自然科学系科目	行列と行列式	4	○							
	数理統計学	4			○					
	数理と計算	2			○					
	数学の世界	4			○					
	数理と論証	2			○					
	宇宙の科学Ⅱ	2			○					
	地球科学	2		○						
	エネルギー入門	2			○					
	自然科学史Ⅱ	2			○					
	科学論	2			○					
	技術論	2				○				
	平和学B	2			○					
	里山学	2	○							
	生命科学	2		○						
	日本の自然	4	○							
	生命誌	2			○					
	植物の自然誌	2			○					
	動物の自然誌	2			○					
	民族の自然誌	2			○					
	人類進化学	2			○					
	人間の生物学Ⅰ	2			○					
人間の生物学Ⅱ	2				○					
自然誌実習	4			○						
野外観察法	2			○						
情報科学Ⅰ	2				○					
情報科学Ⅱ	2					○				
情報科学実習	4		○							
スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2			○					
	現代社会とスポーツ	2		○						
	スポーツ技術学演習	2	○							
	人間とスポーツ	2	○							
	スポーツと人権・平和	2			○					
	スポーツ文化史	2			○					
スポーツ科学最前線	2	○								
	教養教育科目特別講義	2	○							4単位科目と2単位科目を複数開講するが、1科目(2単位/4単位)のみ卒業要件単位となる。
	教養教育科目特別講義	4	○							

注意事項

(注1) 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。(一部例外あり)

(例：1年次配当科目であれば、2年次以降も受講可能)

(注2) 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

開講方法(開講期・曜講時など)は時間割表やWeb履修登録画面で確認してください。

Ⅳ 学部専攻科目の教育目的および履修方法

1. 学部専攻科目の目的・履修方法

(1) 学科別学修の趣旨と目的

近年、経済の国際化・情報化・地域経済の役割の増大など、日本と世界の経済構造には大きな変化が生じています。経済学部では、現代的な高等教育ニーズを満たすために、伝統的な経済学教育に加えて、以下の教育目標を設定しています。

- ①国際化された経済・社会にあって、「地域の時代」を担える人材の育成
- ②情報化に柔軟に対応できる人材の育成
- ③政策立案能力や起業家精神を持つ人材の育成
- ④高度職業人養成を目的とした学部と大学院の教育連携の確立

また、「現代経済学科」と「国際経済学科」の具体的な教育目標は次のとおりです。

〈現代経済学科〉

最近の経済動向を説明でき、客観的なデータの分析と計画、立案、提言の能力を備えるとともに、豊かな発想を持ち、人や環境への「やさしさ」、快適な生活への提言ができる人材育成を目指します。

〈国際経済学科〉

世界経済の最新動向を説明することができ、コミュニケーション能力に優れ、豊かな国際感覚を持ち、国際化されたビジネスシーンで活躍するとともに、世界のさまざまな地域の人々と協力しながら、迅速に問題解決できる人材の育成を目指します。

(2) 学部専攻科目の区分

学部専攻科目はつぎの科目群に区分されています。具体的な開講科目は「2. 学部専攻科目開設科目」を参照してください。

1) 基礎科目

経済学の基礎Ⅰ

経済学の基礎Ⅱ

2) 学科別科目

現代経済学科科目

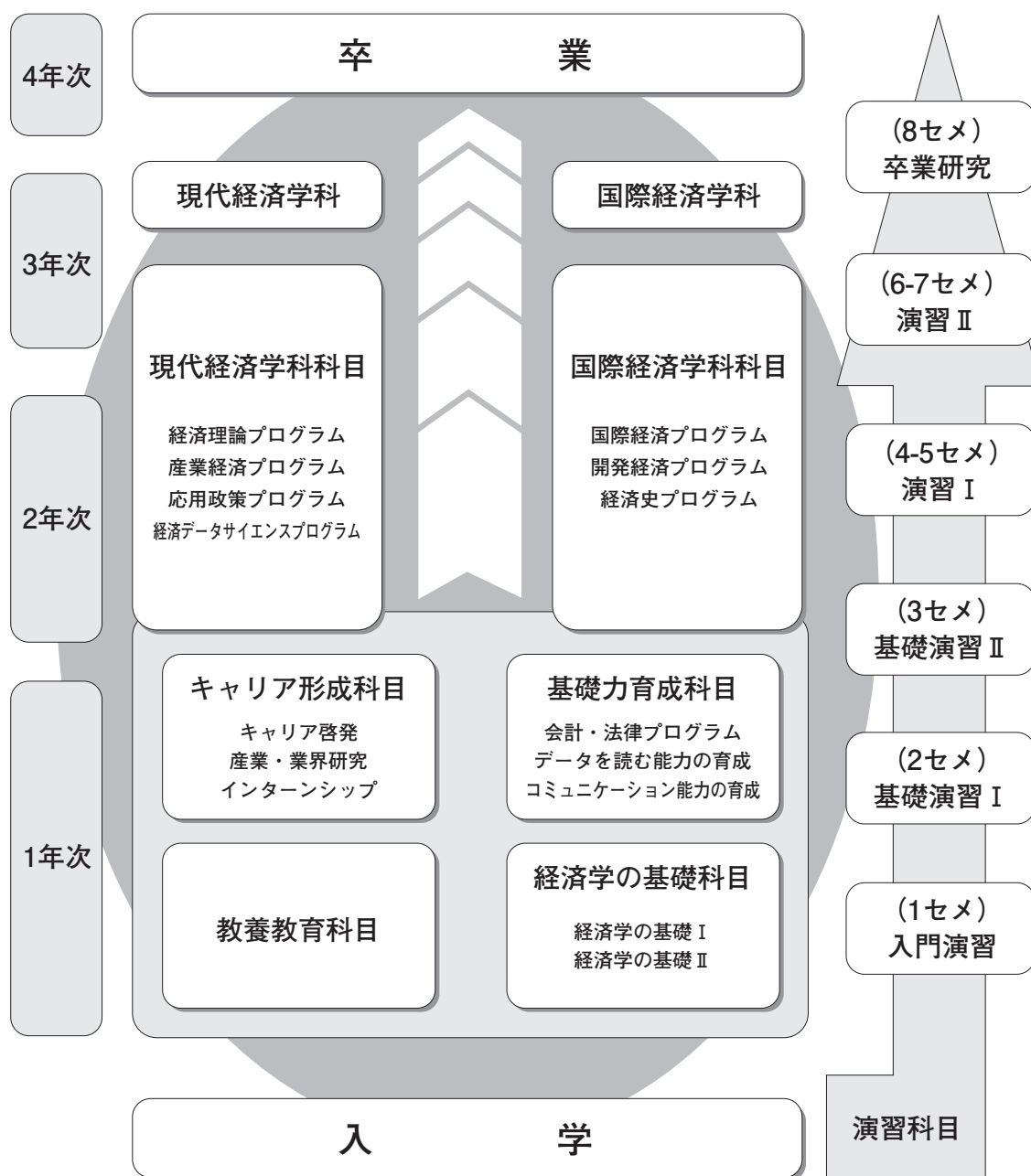
- ・経済理論プログラム
- ・産業経済プログラム
- ・応用政策プログラム
- ・経済データサイエンスプログラム
- ・演習科目
- ・特別講義

国際経済学科科目

- ・国際経済プログラム
- ・開発経済プログラム
- ・経済史プログラム
- ・演習科目
- ・特別講義

- 3) 基礎演習科目
- 4) 基礎力育成科目
 - ・コミュニケーション能力育成科目
 - ・データを読む能力の育成科目
 - ・会計・法律プログラム
- 5) キャリア形成科目

〔科目区分とプログラム配置〕



はじめに

履修一般

教育課程

教養教育科目

学部専攻科目

学部共通コース

留学・単位互換等

教職課程その他

学修生活

大学院経済学研究科

付録

はじめに
履修一般
教育課程
教養教育科目
学部専攻科目
学部共通コース
留学単位互換等
就職課程その他
学修生活
大学院経済学研究科
付録

2. 学部専攻科目 開設科目

(1) 現代経済学科

現代経済学科科目一覧 (1 / 4)

◎は必修科目 ●は全員履修科目

科目区分 (卒業要件単位数)	科目種別	授業科目名	単位	グレード	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
					前	後	前	後	前	後	前	後	
					第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
経済学の基礎Ⅰ (10単位)		現代と経済	2	100	●								
		ミクロ経済学入門Ⅰ	2	200	◎								必修
		ミクロ経済学入門Ⅱ	2	200		◎							必修
		マクロ経済学入門Ⅰ	2	200	◎								必修
		マクロ経済学入門Ⅱ	2	200		◎							必修
		統計学入門	2	200		●							
		社会経済学入門	2	200		○							
		経済数学	4	200		○							
		日本経済論	4	200		○							
		経済史	4	200		○							
基礎科目 経済学の基礎Ⅱ (16単位)		統計学	4	300			○						
		ミクロ経済学	4	300			○						
		マクロ経済学	4	300			○						
		社会経済学	4	300			○						
		財政学	4	300			○						
		金融論	4	300			○						
		経済政策	4	300			○						
		国際経済学	4	300			○						
		経済学史	4	300			○						
		所屬学科学目 (20単位) 現代経済学科学目	経済理論プログラム	ゲーム理論	4	500					○		
経済成長と循環	2			500					○				
不確実性と情報の経済学	2			500					○				
行動経済学	2			500					○				
産業組織論	4			500					○				
ファイナンス理論	4			400				○					
企業金融論	4			400				○					
産業経済プログラム	労働経済学		4	300			○						
	ホスピタリティ・ビジネス論		2	400				○					
	地域産業論		4	400				○					
	観光経済論		2	400				○					
	サービス経済論		4	500					○				
	中小企業論		2	500					○				
	地域産業活性化プロジェクトⅠ		4	300				○					セット科目
地域産業活性化プロジェクトⅡ	2	400					○						

現代経済学科科目一覧 (2 / 4)

◎は必修科目 ●は全員履修科目

(卒業要件単位数) 科目区分	科目種別	授業科目名	単位	グレード	1年次		2年次		3年次		4年次		備考		
					前	後	前	後	前	後	前	後			
					第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター			
所属学科科目 (20単位)	現代経済学科科目	応用政策プログラム	環境経済学	4	300			○							
			総合政策論	4	300			○							
			公共経済学	4	400				○						
			社会政策	4	400				○						
			租税論	4	500					○					
			都市経済学	2	400				○						
			NPO論	2	500					○					
			医療経済学	2	500					○					
			生活福祉論	4	500					○					
			地方財政論	4	500					○					
	経済データサイエンスプログラム	経済統計学	4	400					○						
		計量経済学	4	400					○						
		応用計量経済学	4	500						○					
		データサイエンス入門	4	400					○						
		データサイエンス	2	500						○					
		データ分析と問題解決	2	500						○					
		情報システム論	4	500						○					
	演習科目	演習Ⅰ	4	400							●				
		演習Ⅱ	4	500								●		演習Ⅰ70点以上修得者のみ	
		卒業研究	4	500									●		
	講義 特別	現代特別講義 ※1	2	科目によってグレード・開設セメスターが異なります。											
		現代特別講義 ※1	4												
選択科目 (22単位)	国際経済学学科科目	国際経済プログラム	国際政治経済学	4	400					○					
			国際貿易政策	2	400					○					
			比較経済論	4	400					○					
			国際金融論	4	500						○				
			国際ビジネス論	2	400					○					
			中国経済論	4	400					○					
			ヨーロッパ経済論	4	400					○					
			アメリカ経済論	4	400					○					

はじめに
履修一般
教育課程
教養教育科目
学部専攻科目
学部共通コース
留学・単位互換等
教職課程その他
学修生活
大学院経済学研究科
付録

現代経済学科科目一覧 (3 / 4)

◎は必修科目 ●は全員履修科目

科目区分 (卒業要件単位数)	科目種別	授業科目名	単位	グレード	1年次		2年次		3年次		4年次		備考	
					前	後	前	後	前	後	前	後		
					第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター		
国際経済学科科目	開発経済プログラム	開発経済学	4	400				○						
		地域経済論	4	400				○						
		国際協力論	4	400				○						
		農業・資源経済学	4	400				○						
		アジア経済論	4	400				○						
		海外フィールド実習 ※2	4	400			○							履修登録制限対象外
	経済史プログラム	アジア経済史	4	300				○						
		日本経済史	4	300				○						
		経済地理学	4	300				○						
		ヨーロッパ経済史	4	400					○					
		アメリカ経済史	4	400					○					
		経済思想史	2	500						○				
	講義 特別	国際特別講義 ※1	2	科目によってグレード・開設セメスターが異なります。										
		国際特別講義 ※1	4											
	基礎演習科目	基礎演習科目	入門演習	2	100	●								
			基礎演習 I	2	200		●							
			基礎演習 II	2	300			●						
	基礎力育成科目	コミュニケーション能力育成科目	経済英語 I	2	200		○							
経済英語 II			2	300			○							
経済英語 III			2	400				○						
留学英語 I			4	300				○						
留学英語 II			2	300				○						
留学英語 III			4	400					○					
留学英語 IV			2	400					○					
Business Communication I			2	500						○				
Business Communication II			2	500							○			
データで読む能力の育成科目		経済学の技法 I	2	100	●									
		経済学の技法 II	2	200		●								
		情報と経済	2	200			○							
		社会調査の技法	2	300				○						
		フィールドワークの技法	2	400					○					

現代経済学科科目一覧 (4 / 4)

◎は必修科目 ●は全員履修科目

科目区分 (卒業要件単位数)	科目種別	授業科目名	単位	グレード	1年次		2年次		3年次		4年次		備考	
					前	後	前	後	前	後	前	後		
					第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター		
選択科目 (22単位)	基礎力育成科目 会計・法律プログラム	簿記論Ⅰ	2	100	○									
		簿記論Ⅱ ※3	2	200		○								簿記論Ⅰ修得者のみ
		経営学総論	4	300			○							
		財務会計入門	2	300			○							
		財務会計論	2	400				○						
		商学総論	4	300			○							
		中級商業簿記	2	300			○							
		上級商業簿記	2	400				○						
		工業簿記	2	300			○							
		原価計算論	2	400				○						
		政治学原理	4	300				○						
		民法	2	300				○						
		経済法	2	300				○						
		行政法	4	300				○						
		憲法	4	300				○						
		労働法	2	300				○						
	商法	2	300				○							
	キャリア形成科目		キャリア形成論Ⅰ	2	300			○						セット科目
			キャリア形成論Ⅱ	2	400				○					
			ファイナンシャル・プランニング入門Ⅰ	2	300				○					
			ファイナンシャル・プランニング入門Ⅱ	2	400				○					
	特別講義		選択特別講義 ※1	2	科目によってグレード・開設セメスターが異なります。									
選択特別講義 ※1			4											
特別講座		特別講座 ※4	2	科目によってグレード・開設セメスターが異なります。 履修登録制限対象外										
		特別講座 ※4	4											

注意事項

- 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。(一部例外あり)
(例：1年次配当科目であれば、2年次以降も受講可能)
- 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。
開講方法(開講期・曜講時など)は時間割表やWeb履修登録画面で確認してください。
- 科目ごとの注意事項
 - ※1 「特別講義」は、36単位を上限に卒業要件単位として単位認定されます。36単位を超えて修得した場合は、随意科目として単位認定されます。〈(現代)(国際)(選択)の各特別講義が含まれます。〉
 - ※2 フィールドワーク科目については、「5. フィールドワーク科目の履修」(P.85)を参照してください。「海外フィールド実習」を履修する場合、同年度のサマーセッション科目を履修することはできません。
 - ※3 「簿記論Ⅱ」は「簿記論Ⅰ」を修得した者のみ履修可。
なお、「初級商業簿記」を修得した者は、講義内容が同様のため「簿記論Ⅱ」は履修できません。「初級商業簿記」については、「6. 他学部科目受講」(P.86)を参照してください。
 - ※4 「特別講座」については、「Ⅵ-2. 単位認定について」(P.112)を参照してください。

(2) 国際経済学科

国際経済学科開設科目一覧 (1 / 4)

◎は必修科目 ●は全員履修科目

卒業要件単位数 科目区分	科目種別	授業科目名	単位	グレード	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
					前	後	前	後	前	後	前	後	
					第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
基礎科目	経済学の基礎Ⅰ (10単位)	現代と経済	2	100	●								
		ミクロ経済学入門Ⅰ	2	200	◎								必修
		ミクロ経済学入門Ⅱ	2	200		◎							必修
		マクロ経済学入門Ⅰ	2	200	◎								必修
		マクロ経済学入門Ⅱ	2	200		◎							必修
		統計学入門	2	200		●							
		社会経済学入門	2	200		○							
	経済学の基礎Ⅱ (16単位)	経済数学	4	200		○							
		日本経済論	4	200		○							
		経済史	4	200		○							
		統計学	4	300			○						
		ミクロ経済学	4	300			○						
		マクロ経済学	4	300			○						
		社会経済学	4	300			○						
		財政学	4	300			○						
		金融論	4	300			○						
		経済政策	4	300			○						
		国際経済学	4	300			○						
		経済学史	4	300			○						
所属学科科目 (20単位)	国際経済プログラム	国際政治経済学	4	400				○					
		国際貿易政策	2	400				○					
		比較経済論	4	400				○					
		国際金融論	4	500					○				
		国際ビジネス論	2	400				○					
		中国経済論	4	400				○					
		ヨーロッパ経済論	4	400				○					
		アメリカ経済論	4	400				○					
	開発経済プログラム	開発経済学	4	400				○					
		地域経済論	4	400				○					
		国際協力論	4	400				○					
		農業・資源経済学	4	400				○					
		アジア経済論	4	400				○					
		海外フィールド実習 ※2	4	400				○					履修登録制限対象外

国際経済学科開設科目一覧（2 / 4）

◎は必修科目 ●は全員履修科目

科目区分 (卒業要件単位数)	科目種別	授業科目名	単位	グレード	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
					前	後	前	後	前	後	前	後	
					第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
所属学科科目 (20単位)	国際経済学科科目	アジア経済史	4	300			○						
		日本経済史	4	300			○						
		経済地理学	4	300			○						
		ヨーロッパ経済史	4	400				○					
		アメリカ経済史	4	400				○					
		経済思想史	2	500					○				
	演習科目	演習Ⅰ	4	400					●				
		演習Ⅱ	4	500						●			演習Ⅰ70点以上修得者のみ
		卒業研究	4	500								●	
	講義特別	国際特別講義 ※1	2	科目によってグレード・開設セメスターが異なります。									
国際特別講義 ※1		4											
選択科目 (22単位)	経済理論プログラム	ゲーム理論	4	500					○				
		経済成長と循環	2	500					○				
		不確実性と情報の経済学	2	500					○				
		行動経済学	2	500					○				
		産業組織論	4	500					○				
		ファイナンス理論	4	400				○					
		企業金融論	4	400				○					
	産業経済プログラム	労働経済学	4	300			○						
		ホスピタリティ・ビジネス論	2	400				○					
		地域産業論	4	400				○					
		観光経済論	2	400				○					
		サービス経済論	4	500					○				
		中小企業論	2	500					○				
		地域産業活性化プロジェクトⅠ	4	300			○						セット科目
		地域産業活性化プロジェクトⅡ	2	400				○					
	応用政策プログラム	環境経済学	4	300			○						
		総合政策論	4	300			○						
		公共経済学	4	400				○					
		社会政策	4	400				○					
		租税論	4	500					○				
		都市経済学	2	400				○					
		NPO論	2	500					○				
		医療経済学	2	500					○				
		生活福祉論	4	500					○				
		地方財政論	4	500					○				

はじめに
履修一般
教育課程
教養教育科目
学部専攻科目
学部共通コース
留学・単位互換等
教職課程その他
学修生活
大学院経済学研究科
付録

国際経済学科開設科目一覧 (3 / 4)

◎は必修科目 ●は全員履修科目

科目区分 (卒業要件単位数)	科目種別	授業科目名	単位	グレード	1年次		2年次		3年次		4年次		備考	
					前	後	前	後	前	後	前	後		
					第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター		
選択科目 (22単位)	現代経済学科科目 経済データサイエンス プログラム	経済統計学	4	400				○						
		計量経済学	4	400				○						
		応用計量経済学	4	500					○					
		データサイエンス入門	4	400				○						
		データサイエンス	2	500					○					
		データ分析と問題解決	2	500					○					
		情報システム論	4	500					○					
	講義 特別	現代特別講義 ※1	2	科目によってグレード・開設セメスターが異なります。										
		現代特別講義 ※1	4											
	基礎演習科目	/	入門演習	2	100	●								
			基礎演習 I	2	200		●							
			基礎演習 II	2	300			●						
	基礎力育成科目	コミュニケーション能力育成科目	経済英語 I	2	200		○							
			経済英語 II	2	300			○						
			経済英語 III	2	400				○					
			留学英語 I	4	300			○						
			留学英語 II	2	300			○						
			留学英語 III	4	400				○					
			留学英語 IV	2	400				○					
			Business Communication I	2	500					○				
		Business Communication II	2	500						○				
データで読む能力の育成科目		経済学の技法 I	2	100	●									
		経済学の技法 II	2	200		●								
	情報と経済	2	200		○									
	社会調査の技法	2	300			○								
	フィールドワークの技法	2	400				○							

国際経済学科開設科目一覧（4 / 4）

◎は必修科目 ●は全員履修科目

（卒業要件単位数） 科目区分	科目種別	授業科目名	単位	グレード	1年次		2年次		3年次		4年次		備考	
					前	後	前	後	前	後	前	後		
					第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター		
選択科目（22単位）	基礎力育成科目 会計・法律プログラム	簿記論Ⅰ	2	100	○									
		簿記論Ⅱ ※3	2	200		○								簿記論Ⅰ修得者のみ
		経営学総論	4	300			○							
		財務会計入門	2	300			○							
		財務会計論	2	400				○						
		商学総論	4	300			○							
		中級商業簿記	2	300			○							
		上級商業簿記	2	400				○						
		工業簿記	2	300			○							
		原価計算論	2	400				○						
		政治学原理	4	300				○						
		民法	2	300				○						
		経済法	2	300				○						
		行政法	4	300				○						
		憲法	4	300				○						
		労働法	2	300				○						
	商法	2	300				○							
	キャリア形成科目		キャリア形成論Ⅰ	2	300			○						セット科目
			キャリア形成論Ⅱ	2	400				○					
			ファイナンシャル・プランニング入門Ⅰ	2	300				○					
			ファイナンシャル・プランニング入門Ⅱ	2	400				○					
	特別講義		選択特別講義 ※1	2	科目によってグレード・開設セメスターが異なります。									
選択特別講義 ※1			4											
特別講座		特別講座 ※4	2	科目によってグレード・開設セメスターが異なります。 履修登録制限対象外										
		特別講座 ※4	4											

注意事項

- 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。（一部例外あり）
（例：1年次配当科目であれば、2年次以降も受講可能）
- 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。
開講方法（開講期・曜講時など）は時間割表やWeb履修登録画面で確認してください。
- 科目ごとの注意事項
 - ※1 「特別講義」は、36単位を上限に卒業要件単位として単位認定されます。36単位を超えて修得した場合は、随意科目として単位認定されます。〈（現代）（国際）（選択）の各特別講義が含まれます。〉
 - ※2 フィールドワーク科目については、「5. フィールドワーク科目の履修」(P.85)を参照してください。「海外フィールド実習」を履修する場合、同年度のサマーセッション科目を履修することはできません。
 - ※3 「簿記論Ⅱ」は「簿記論Ⅰ」を修得した者のみ履修可。
なお、「初級商業簿記」を修得した者は、講義内容が同様のため「簿記論Ⅱ」は履修できません。「初級商業簿記」については、「6. 他学部科目受講」(P.86)を参照してください。
 - ※4 「特別講座」については、「Ⅵ-2. 単位認定について」(P.112)を参照してください。

3. 演習

(1) 演習とは

演習は英語でセミナー (seminar)、ドイツ語では同じつづり方でゼミナールと呼びます。学部で学ぶ中ではゼミという言葉を目にするかと思いますが、それはこのドイツ語発音の略です。演習の特徴は、通常の講義と比べて少人数で開講されることにあります。そのために担当する教員との距離も近く、一生の人間関係を築く場合もあり、経済学部では大切にあつかわれてきた授業形態です。

経済学部では、第1 Semesterから第8 Semesterまで継続的に演習・卒業研究が配置されています。継続的に履修することにより、みなさんが自分自身に合ったテーマを見つけだし、学修していくことが望まれます。

第2 Semesterに開始される「基礎演習Ⅰ」以降は、担当者によってテーマが分かれます。

みなさんの興味がある分野の演習を選択し、演習テーマ(興味や関心のある分野)に関連する科目を系統的に履修すると良いでしょう。

また、演習・卒業研究は全員履修科目です。必ず受講するようにしてください。

(2) 演習の履修

- ① 各演習は以下の方法によってクラスを決定します。第4 Semesterからの「演習」(「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業研究」)は学修する期間も長く、所属学科を決定する位置づけとなります。

科目名	選考方法	備 考
入門演習	クラス指定	大学側で指定します。
基礎演習Ⅰ	書類選考による	6月頃に申込要項を配付します。
基礎演習Ⅱ	書類選考による	12月頃に申込要項を配付します。
演習Ⅰ	書類選考・面接等による	4月頃に説明会を開催し、申込要項を配付します。
演習Ⅱ 卒業研究	「演習Ⅰ」で70点以上修得者のみ履修可能	「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業研究」は継続履修科目です。

「演習Ⅰ」を選択しなかった学生については、アンケート等に基づき、所属学科を決定します。

- ② 履修形態は次のとおりです。

科目名	配当Semester	学年	単位数	単位認定期
入門演習	第1 Semester	1年次	2	第1 Semester修了後
基礎演習Ⅰ	第2 Semester		2	第2 Semester修了後
基礎演習Ⅱ	第3 Semester	2年次	2	第3 Semester修了後
演習Ⅰ	第4 Semester		3年次	4
	第5 Semester			
演習Ⅱ	第6 Semester	4年次	8	第8 Semester修了後
	第7 Semester			
卒業研究	第8 Semester			

- 1) 演習・卒業研究は履修登録制限単位に含まれます。
- 2) 「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」および「卒業研究」は継続履修科目です(「演習Ⅰ」を履修せずに「演習Ⅱ」を履修することはできません)。第5 Semester修了時に評価が行われ、履修の可否が決まります。「演習Ⅰ」履修者全員が「演習Ⅱ」「卒業研究」を履修できるとは限りませんので、注意してください。

- ・「演習Ⅱ」を履修するためには、「演習Ⅰ」の評価が70点以上必要です。
 - ・評価60～69点は「演習Ⅰ」の単位は認定されますが、「演習Ⅱ」を継続して履修することはできません。
 - ・評価0～59点は「演習Ⅰ」が不合格となり、「演習Ⅱ」を継続して履修することはできません。
- 3) 「卒業研究」を提出し、合格しなければ、「演習Ⅱ」とあわせて8単位の認定を受けることはできません。

③ 演習・卒業研究の目的（詳細はシラバスを確認してください）

- 1) 入門演習
大学での「学びの方法」を学修します。
- 2) 基礎演習Ⅰ
大学での学修を効果的にするために必要な基本的問題発見能力等を養います。
- 3) 基礎演習Ⅱ
「演習」で研究を進めるために、専門分野についての学修を行い、専門分野への関心を深めます。
- 4) 演習Ⅰ・Ⅱ
大学における学びの中心です。
- 5) 卒業研究
大学生活の集大成として、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」で学修・研究したことを論文としてまとめます。

④ 単位認定

次のとおり単位認定されます。

科目名	単位認定種別
入門演習 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ	選択科目
演習Ⅰ 演習Ⅱ 卒業研究	所属学科科目 (選択必修科目)

※学部共通コースの演習は、それぞれコース科目として単位認定されます。

(3) 留学・休学中の演習受講について

休学や留学などで演習を継続して受講できなかった場合の成績の表記方法や評価時期については、経済学部教務課で確認してください。

4. プログラム

(1) プログラムとは

プログラムは、2年生以降に開講される専攻科目のうち、現代経済学科科目及び国際経済学科科目を、7つの分野別にまとめた科目群です。各プログラムには、その分野を体系的に学ぶために必要な学科科目が配置されています。自身の興味・関心や希望する進路に応じて、プログラムを選択し、該当科目を集中的に履修することで、効果的に学修を進めることができます。

各プログラムの種類と特徴は、次のとおりです。

プログラム名	特徴
経済理論	経済学の基礎を学んだ上で、より高度な現代の経済理論を勉強します。経済モデルを使って、複雑に入り組んだ経済現象の背後にある、本質（メカニズム）をとらえる方法を学びます。
産業経済	企業や産業そして地域経済など、現場に密着したところから、現代の経済のダイナミクスを学びます。具体的な問題を分析したり、実際に現場に出かけたりすることで、実践的な問題解決力を養います。
応用政策	財政・社会保障・貧困・環境など、幅広い視点から、様々な経済・社会問題を学び、どのような政策によってこれらの問題を改善できるのかを考えます。あわせて政策の実現のために必要不可欠な財政のあり方についても深く学びます。
経済データサイエンス	スマートフォンの普及やIT技術の発展により、膨大なデータが利用可能となり、我々はビッグデータ時代の到来を迎えています。データを収集し分析することで、社会やビジネスの課題を解決していく人材を育成します。
国際経済	経済のグローバル化が進み、人・モノ・資金が日々国境を自由に行き来し、国内と海外の経済との結びつきはかつてないほど強まっています。貿易や為替の仕組みと、それらが経済におよぼす影響などについて学び、今後の世界経済の行方を探ります。
開発経済	発展途上国の経済を対象に、貧しい国々が経済成長により発展していくメカニズムや、また国民の生活水準が著しく低い国々への支援の在り方などについて学びます。開発という視点から、先進国と開発途上国の経済関係を見つめ直します。
経済史	地域別・分野別の講義により、長期にわたる日本と世界の経済発展の歴史を体系的に学ぶとともに、経済社会の発展に伴って進歩してきた経済学（経済思想）の歩みについても学びます。

(2) プログラムの登録

第4 Semester開始時に全員が1つ以上のプログラムを登録します。第6 Semester開始時には、登録するプログラムを変更・追加することができます。演習に所属している学生は、プログラムの登録・変更について、必要に応じて演習の担当教員と相談してください。

所属学科に関係なく、最大で2つまでのプログラムに登録できます。例えば、現代経済学科に所属する学生が、経済理論プログラムと国際経済プログラムを登録することも可能です。ただし、学部共通コースに所属する学生は、プログラムを登録することはできません。

(3) プログラムの修了証明書

各プログラムが設定している修了要件を満たした学生に対して、当該プログラムの修了証明書を交付します。卒業までに、最大で2つのプログラムを修了することができます。プログラムを修了することで、経済学部で何を勉強したかということ、分かりやすく説明することができるでしょう。修了証明書は在学中でも取得できますので、就職活動などにも活用してください。なお、プログラムの修了は卒業に必須ではありません。

各プログラムの修了要件は次のとおりです。

プログラム名	修了要件
経済理論	「ミクロ経済学」「マクロ経済学」を履修すること。当該プログラムの科目を16単位以上修得すること。
産業経済	当該プログラムの科目を16単位以上修得すること。
応用政策	当該プログラムの科目を16単位以上修得すること。
経済データサイエンス	「統計学」を履修すること。当該プログラムの科目を16単位以上修得すること。
国際経済	当該プログラムの科目を16単位以上修得すること。
開発経済	当該プログラムの科目を16単位以上修得すること。
経済史	当該プログラムの科目を16単位以上修得すること。

(4) その他

基礎科目（経済学の基礎Ⅰ・Ⅱに該当する科目）のなかで、各プログラムでの学修の前提となったり、または関連性が強かったりする科目は、修了要件の中で指定されているものの他に、次のように推奨科目として指定されています。

プログラム名	推奨科目
産業経済	「日本経済論」
応用政策	「経済政策」「財政学」「ミクロ経済学」「社会経済学」
国際経済	「国際経済学」「金融論」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」
開発経済	「国際経済学」
経済史	「経済史」「経済学史」

5. フィールドワーク科目の履修

経済学部では、教室での講義や文献だけでは確認できない実社会で起きている問題について、実際に現地へ赴き、見聞・体験することを目的としたフィールドワーク科目を、カリキュラムに取り入れています。

フィールドワーク科目を通して、実態を把握する能力や、問題の分析能力、問題解決への政策提言能力などを身に付けることを目的としています。

フィールドワーク科目には、以下の科目があります。

フィールドワーク科目名	
地域産業活性化プロジェクトⅠ（4単位）	} セット科目
地域産業活性化プロジェクトⅡ（2単位）	
海外フィールド実習（4単位）	

履修制限

16単位までを卒業要件として単位認定します。16単位を超えて履修した場合は、随意科目として単位認定されます。

注意事項

- ・一部のフィールドワーク科目には、自己負担金が必要になります。
- ・フィールドワークは、学外の個人や団体との連携・協力により実施されます。龍谷大学の学生として、節度ある行動を心がけてください。

2018年度以降は、選択特別講義として「海外フィールド研修」（2単位）もフィールドワーク科目として開講しています。

6. 他学部科目受講

次の科目は経営学部専攻科目ですが、経済学部生も受講することができます。いずれの科目でも、その修得単位は、経済学部専攻科目（選択科目）として、卒業要件単位に認定されます。なお、受講者数に制限があるので注意してください。

科目名	受講対象
人的資源管理論（2単位）	3年次以上
会計監査論（2単位）	3年次以上
初級商業簿記※（2単位）	1年次以上

※「簿記論Ⅱ」を修得した者は、講義内容が同様のため「初級商業簿記」は履修できません。

7. 留学生対象科目

経済学部では、留学生のために選択特別講義として「留学生のための経済学演習Ⅰ」と「留学生のための経済学演習Ⅱ」を開講しています。

教養教育科目の言語科目も含めた履修セメスターは、次のとおりです。

学年	学期	第1学期入学生	学年	学期	第2学期入学生
1	前期	言語科目（1単位）×週4回開講 選択特別講義「留学生のための経済学演習Ⅰ」	1	後期	言語科目（1単位）×週4回開講 選択特別講義「留学生のための経済学演習Ⅱ」
	後期	言語科目（1単位）×週2回開講		前期	言語科目（1単位）×週4回開講 選択特別講義「留学生のための経済学演習Ⅰ」
2	前期	言語科目（1単位）×週2回開講	2	後期	言語科目（1単位）×週2回開講
	後期	言語科目（1単位）×週2回開講		前期	言語科目（1単位）×週2回開講

※言語科目とは、教養教育科目の「日本語」および「留学生のための英語入門A・B」を指します。詳しくは「Ⅲ-6 留学生の必修外国語科目（日本語科目等）について」を参照してください。

※選択特別講義「留学生のための経済学演習Ⅰ」「留学生のための経済学演習Ⅱ」は、現代経済学科・国際経済学科のいずれの学科に所属しても、選択科目として単位認定されます。

V 学部共通コース

1. コースの理念・目的

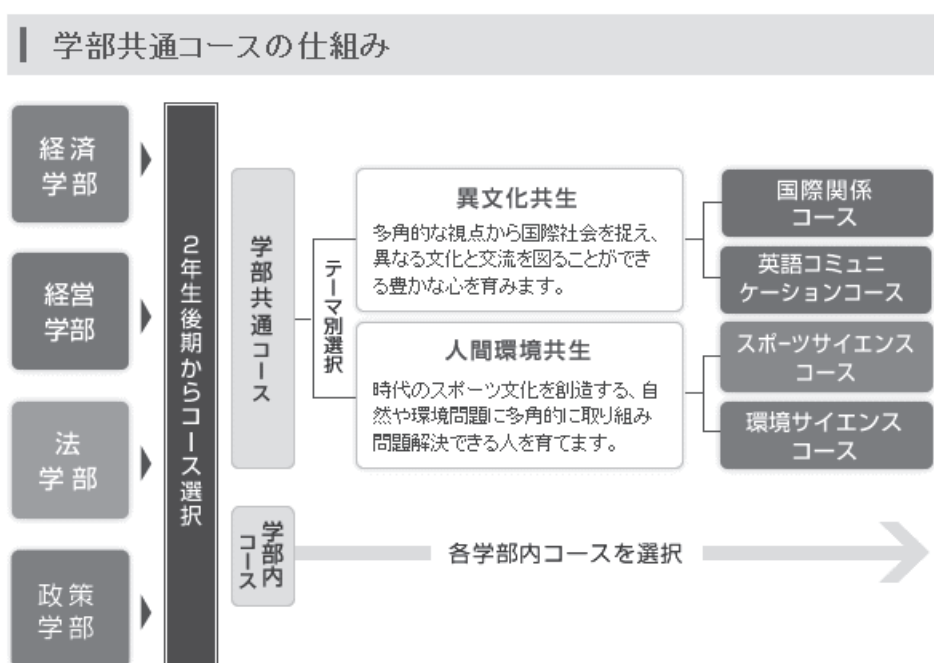
経済、経営、法、政策学部のカリキュラムを学修する一方で、学部の枠組みを越え、自らの興味・関心に基づくあるいは自分の将来の進路に照準を合わせた講義を、系統的かつ重点的に受けられるように開設されたのが「学部共通コース」です。

「学部共通コース」では、各コース独自の科目と、本学で既に開設されている科目の中から各コースの趣旨や目的に沿った科目を選び、それらを体系化・組織化して提供するものです。

学部共通コースは「国際関係コース」「英語コミュニケーションコース」「スポーツサイエンスコース」「環境サイエンスコース」の4コースを開設しています。

各自の進路と各コースの内容をよく照合し、検討したうえで、履修することが望まれます。

※学部共通コースを選択した場合、原則として、各学部の演習・ゼミに所属することはできません。



2. 募集日程

(1) 申込受付

学部共通コース履修希望者は、下記の時期に申込を受け付けます。

なお、「国際関係コース」および「英語コミュニケーションコース」を希望する場合、第3セメスター終了までにコースに進むための先修条件を満たす必要があります（詳細は次頁以降で確認してください）。

〈参考〉申込・選考結果発表の時期、場所について

申込	許可予定者発表	許可者発表
5月中旬～下旬 教学部窓口	5月下旬～6月下旬 ポータルサイトまたは学部 共通コース掲示板 ※許可予定者を発表します。	9月上旬～中旬 ポータルサイトまたは学部共通 コース掲示板 ※「国際関係コース」および「英語 コミュニケーションコース」では、 許可予定者のうち、先修条件を満 たした者を発表します。

(注1) 日程はすべて予定です。詳細な日程等については決定次第、ポータルサイトまたは学部共通コース掲示板等でお知らせします。

(注2) 選考の結果、募集定員に満たない場合、追加募集を実施することがあります。

(2) 履修登録

履修登録は、第4セメスター登録時に行います。

(3) 卒業要件

所属学部を卒業するには、学部共通コースの修了要件を満たすと同時に、所属学部の卒業要件を満たさなければなりません。コース修了認定者については「学業成績証明書」「卒業・学業成績証明書」にコース修了認定に関する記載をします。

3. コース離脱（変更）

学部共通コースのカリキュラムは、第4セメスターから第8セメスターの5セメスターにわたって編成されており、最後まで履修することが重要です。途中で履修を取りやめることは、その後の履修について不利になることがあります。

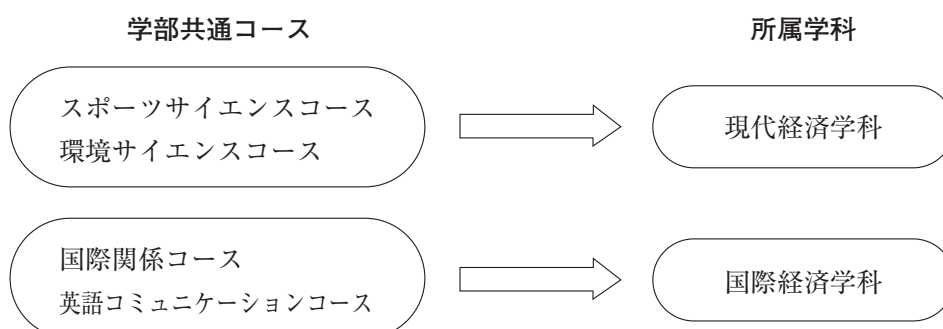
例えば、途中でコース離脱（変更）をすると、既に修得した単位が卒業要件やコース修了要件に含まれず「随意科目」扱いになる場合もあるので注意する必要があります。

※コース離脱（変更）の申し出の期限および手続き

やむを得ずコース変更をする場合は、第4セメスター終了時までにはコースを離脱する旨、教学部窓口にお申し出てください（それ以降の申し出は認められません）。コースの離脱は当該コース運営委員会の議を経て所属学部教授会において決定します。

4. 学部共通コースと所属学科

学部共通コースに所属した場合の所属学科は、次のとおりです。



5. 各コース

(1) 国際関係コース

〈コースの目的〉

国際関係コースの目的は、国際社会が直面する諸問題や世界の各地域における人々の営みを、経済・経営・法・政策学部の枠組みを越えて幅広くかつ専門的に学ぶことにあります。このコースでは、文学部を含む多様な学部学科や分野の教員が講義や演習を担当し、学生はそうした多彩な教員の指導のもとで現代世界の政治・経済・文化・社会のあり方を主体的に学習・研究していきます。国際関係コースは、本学のなかで最も古く、かつ最も学際的な学部共通コースであり、長期留学や海外語学研修などを希望する学生に対して最も強力なサポートを提供しているコースでもあります。

〈コースの内容と特色〉

コースの目的を達成するために、以下の諸点を核とするカリキュラムを編成しています。

- ① 国際社会が直面している諸問題をさまざまな角度から総合的にとらえるために以下の科目を必修とします。

「国際関係論Ⅰ」「地域研究入門」

- ② 世界の各地域の政治、経済、社会、歴史、文化等をより深く学ぶために「地域研究」をコースの重要な科目として位置づけます。

- ③ 書物で学ぶだけでなく、経験を通じて生きた知識を吸収し、自らの問題解決に活用する技を学ぶには、積極的に海外に出かけるのが一番です。こうして知識や体験を身につけたと認められる場合は、それを単位として修得できる「海外研修制度」が設けられています。

海外の教育機関等で取得した修了証、または海外での研修状況をまとめたレポート等を提出することにより、所定の基準に基づき、単位が認定されます。(この制度についての詳細な内容については、教学部窓口までお問い合わせください。)

コースカリキュラム体系表

コース科目	【必修科目】「国際関係論Ⅰ」「地域研究入門」	4単位
	【選択必修科目】 〔コース指定外国語〕 「国際関係コース開設科目および配当セメスター」参照	4単位 (注1)
	【選択A群】 〔地域研究〕〔学部共通特別講義〕〔学部提供演習〕〔国際関係コース演習〕 「国際関係コース開設科目および配当セメスター」参照	24単位 (注2)
学部提供科目	【選択B群】 〔経済学部提供科目〕〔経営学部提供科目〕〔法学部提供科目〕〔政策学部提供科目〕 「国際関係コース開設科目および配当セメスター」参照	12単位 (注3)
学部専攻科目	各学部の履修要項にしたがってください	32単位
フリーゾーン		16単位
教養教育科目	【必修科目】「仏教の思想A・B」(各2単位)、必修外国語(12単位)	16単位
	【選択必修科目】教養科目(基幹科目) ※3分野から各1科目(2単位)以上	6単位
	【選択科目】各学部の履修要項にしたがってください	10単位

(注1) 4単位を超えて修得した単位は、上限4単位までは選択A群の単位として認定します。また、8単位を超えて修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

(注2) 24単位を超えて修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

(注3) 12単位を超えて修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

選択B群の経済学部提供科目に限り、超過分の単位を、未充足の「学部専攻科目(選択)」の卒業要件単位に含めることができます。

国際関係コース 開設科目および担当セメスター

必修科目(4単位)				
セメスター	授業科目名	単位	備考	
4	国際関係論 I	2		
4	地域研究入門	2		
選択必修科目(4単位)				
セメスター	授業科目名	単位	備考	
コース指定外国語				
3	中国語セミナー I A	2	①A	<p>【登録上の注意】</p> <p>※①A～①Eおよび②～⑨の内、いずれか1つを選択し、同一グループ内から4単位履修して下さい。</p> <p>※先修条件を定めている科目がありますので、「IV授業科目の開設方法 5. 先修制」を参照して下さい。</p> <p>※第3セメスターまでに履修した場合には、コース所属後にコース指定外国語に振り替わります。</p>
4	中国語セミナー I B	2		
3	中国語セミナー I C	2		
4	中国語セミナー I D	2		
5	中国語セミナー II A	2		
6	中国語セミナー II B	2		
5	中国語セミナー II C	2		
6	中国語セミナー II D	2		
3	海外中国語研修講座	2		
3	ドイツ語セミナー I A	2	①B	
4	ドイツ語セミナー I B	2		
3	ドイツ語セミナー I C	2		
4	ドイツ語セミナー I D	2		
5	ドイツ語セミナー II A	2		
6	ドイツ語セミナー II B	2		
5	ドイツ語セミナー II C	2		
6	ドイツ語セミナー II D	2		
3	フランス語セミナー I A	2	①C	
4	フランス語セミナー I B	2		
3	フランス語セミナー I C	2		
4	フランス語セミナー I D	2		
5	フランス語セミナー II A	2		
6	フランス語セミナー II B	2		
5	フランス語セミナー II C	2		
6	フランス語セミナー II D	2		
3	スペイン語セミナー I A	2	①D	
4	スペイン語セミナー I B	2		
3	スペイン語セミナー I C	2		
4	スペイン語セミナー I D	2		
5	スペイン語セミナー II A	2		
6	スペイン語セミナー II B	2		
5	スペイン語セミナー II C	2		
6	スペイン語セミナー II D	2		

3	韓国語セミナーⅠA	2	①E		
4	韓国語セミナーⅠB	2			
3	韓国語セミナーⅠC	2			
4	韓国語セミナーⅠD	2			
5	韓国語セミナーⅡA	2			
6	韓国語セミナーⅡB	2			
5	韓国語セミナーⅡC	2	②		
6	韓国語セミナーⅡD	2			
3	ポルトガル語Ⅰ	2			
4	ポルトガル語Ⅱ	2			
5	ポルトガル語ⅢA	2	③		
6	ポルトガル語ⅢB	2			
3	ロシア語Ⅰ	2			
4	ロシア語Ⅱ	2	④		
5	英語ⅢR1	2			
6	英語ⅢR2	2			
5	英語ⅢW1	2			
6	英語ⅢW2	2			
5	英語ⅢS1	2			
6	英語ⅢS2	2			
5	英語ⅢG1	2			
6	英語ⅢG2	2			
4	英語コミュニケーションⅠ	2			
5	英語コミュニケーションⅡ	2	⑤		
5	Intercultural Discussion	2			
4	中国語コミュニケーションⅠ	2	⑥		
5	中国語コミュニケーションⅡ	2			
4	ドイツ語コミュニケーションⅠ	2	⑦		
5	ドイツ語コミュニケーションⅡ	2			
4	フランス語コミュニケーションⅠ	2	⑧		
5	フランス語コミュニケーションⅡ	2			
4	スペイン語コミュニケーションⅠ	2	⑨		
5	スペイン語コミュニケーションⅡ	2			
4	韓国語コミュニケーションⅠ	2	⑨		
5	韓国語コミュニケーションⅡ	2			

(注1) 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

開講方法（開講期・曜講時など）は時間割表やWeb履修登録画面で確認してください。

選 択 科 目 A 群 (24単位)			
Semester	授業科目名	単位	備 考
地 域 研 究			
4	ヨーロッパ研究A	2	隔年開講
5	ヨーロッパ研究B	2	
4	ヨーロッパ研究C	2	
5	ヨーロッパ研究D	2	
4	東アジア研究A	2	
5	東アジア研究B	2	
4	東南アジア研究A	2	
5	東南アジア研究B	2	
4	北米研究A	2	
5	北米研究B	2	
4	中南米研究A	2	
5	中南米研究B	2	
4	南北問題研究A	2	
5	南北問題研究B	2	
4	異文化研究A	2	
5	異文化研究B	2	
4	情報・コミュニケーションの技法	2	
4	多文化映像論A	2	
5	多文化映像論B	2	
5	フィールドワーク実習	2	
5	国際関係論Ⅱ	2	
4	現代国際関係史	2	
5	国際ジャーナリズム論	2	
学 部 共 通 特 別 講 義			
5~6	学部共通特別講義Ⅰ	4	
5~6	学部共通特別講義Ⅱ	4	
4	学部共通特別講義Ⅲ	2	
4	学部共通特別講義Ⅳ	2	
4	学部共通特別講義Ⅴ	2	
4	学部共通特別講義Ⅵ	2	
4	学部共通特別講義Ⅶ	2	
演 習			
4~5	国際関係コース演習Ⅰ〈特別演習Ⅰ〉(注2)	4	演習Ⅱと卒業研究は継続履修一体科目(両科目を修得して8単位認定)
6~7	国際関係コース演習Ⅱ〈特別演習Ⅱ〉(注2)	4	
8	卒業研究〈特別演習Ⅲ〉(注2)	4	
4~8	経済学部提供演習	12	(注3) 開講形態は各学部の開講形態に準じる
4~8	経営学部提供演習	12	
4~8	法学部提供演習	10	
4~8	政策学部提供演習	10	

(注1) 上記配当Semesterにかかわらず、開講Semesterは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

開講方法(開講期・曜講時など)は時間割表やWeb履修登録画面で確認してください。

(注2) 〈 〉内は、学則科目名。

(注3) 【経済学部提供演習】開講形態は「国際関係コース演習Ⅰ・Ⅱ」に準じます。学則名称は「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業研究」です。

【経営学部提供演習】演習は、4～8セメスターまで演習を履修し、演習論文を提出することで12単位が一括認定されます。

【法学部提供演習】「演習Ⅰ」（4単位）、「演習Ⅱ（卒業研究を含む）」（6単位）の計10単位となります。

【政策学部提供演習】「演習Ⅰ」（6単位）、「演習Ⅱ（卒業研究を含む）」（4単位）の計10単位となります。

選 択 科 目 B 群 (12単位)			
セメスター	授業科目名	単位	備 考
経 済 学 部 提 供 科 目			
4	アメリカ経済史	4	
5	国際金融論	4	
4	国際協力論	4	
3	アジア経済史	4	
4	ヨーロッパ経済史	4	
4	地域経済論	4	
4	アジア経済論	4	
4	比較経済論	4	
4	開発経済学	4	
4	ヨーロッパ経済論	4	
5	農業・資源経済学	4	
3	日本経済史	4	
3	経済地理学	4	
5	経済思想史	2	
3	社会調査の技法	2	
4	フィールドワークの技法	2	
経 営 学 部 提 供 科 目			
4	国際経営論	2	
6	多国籍企業論	2	
5	国際比較経営史	2	
5	国際経営戦略論	2	
5	国際比較社会論	2	
5	アジア企業経営論	2	
法 学 部 提 供 科 目			
4	国際法Ⅰ	4	
5	国際法Ⅱ（注2）	2	
6	国際法Ⅲ（注2）	2	
6	国際私法	4	
6	国際政治論	4	
3	アフリカ政治論A	2	
3	アフリカ政治論B	2	
5	国際取引法	2	

4	開発援助論	2
5	中東政治論	2
6	アジア政治論	4
4	中国政治論	2
4	アメリカ政治論	2
5	ヨーロッパ政治論	2
5	国際環境法	2
5	現代中国の法と社会	2
政 策 学 部 提 供 科 目		
4	文化・観光政策	2
4	比較地域政策論	2
4	アジアの地域・都市政策	2
5	欧州の地域・都市政策	2
5	米国の地域・都市政策	2

(注1) 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

開講方法（開講期・曜講時など）は時間割表やWeb履修登録画面で確認してください。

(注2) 国際法Ⅱ、Ⅲの履修については、国際法Ⅰを履修することが望ましいです。内容については、シラバスを参照ください。

〈コースの履修〉

① 募集定員 90名

② コースへ進むための先修科目

第3セメスター終了までに「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B), 3(A), 3(B)」および「初修外国語Ⅰ、Ⅱ」の内、4単位以上修得していること。ただし、外国人留学生（正規留学生）で本コースを志望する者はこの限りではありません。詳細は教学部窓口まで確認してください。

③ 演習

演習には、1)国際関係コース演習と2)学部提供演習の2種類があり、その内どちらか一方を履修することができます。

1) 国際関係コース演習

「特別演習Ⅰ」（4～5セメスター配当、4単位）、「特別演習Ⅱ」（6～7セメスター配当、4単位）および「特別演習Ⅲ（卒業研究）」（「特別演習Ⅱ」を受講した者が第8セメスターの個人指導を受けて4単位）からなります。

5セメスター終了時に「特別演習Ⅰ」受講者の評価が行われます。この評価に基づいて、「特別演習Ⅱ」および「特別演習Ⅲ（卒業研究）」を受講できる者と受講できない者とに区分されます（評価基準は以下のとおり）。

従って、「特別演習Ⅰ」受講者全員が自動的に「特別演習Ⅱ」および「特別演習Ⅲ（卒業研究）」を受講できるとは限らないので注意してください。

「特別演習Ⅱ」と「特別演習Ⅲ（卒業研究）」は継続履修一体科目であり、両方を修得することによって8単位が認定されます（「特別演習Ⅱ」の単独受講のみでは単位認定されないので注意のこと）。

「特別演習Ⅰ」の評価と「特別演習Ⅱ」および「特別演習Ⅲ（卒業研究）」の履修の可否

「特別演習Ⅰ」の評点	「特別演習Ⅰ」の評価	「特別演習Ⅰ」の認定単位	「特別演習Ⅱ」および「特別演習Ⅲ（卒業研究）」の履修の可否
70～100	合格	4	可能
60～69	合格	4	不可能
59以下	不合格	0	

2) 学部提供演習

この演習は所属学部に限らず、他学部の提供演習も履修可能です。ただし、開講形態は、演習提供学部により異なりますので、「国際関係コース開設科目および配当セメスター」の（注3）をよく読んで履修を決定してください。また、所属学部の必修科目と同一曜講時で開講されていないことも、必ず確認してください。

(2) 英語コミュニケーションコース

〈コースの目的〉

本コースでは、高度な英語力を有し、現代の国際社会の諸問題を解決することができる人材を育成することを目的としています。

そのために、本コースでは、英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを伸ばすことに加え、文化や文化の違いに関する知識を修得し理解を深めることも重視しています。また、批判的に考える力や自ら進んで物事に取り組む力を高める機会も提供しています。

本コースを修了した学生は、ビジネス、NPO、民間での国際交流、スポーツや学問、教育現場における交流、政府機関での仕事、娯楽など様々な場面における国際的なコミュニケーションに必要な力を獲得することができるでしょう。また、イギリス、アメリカ、オセアニアに関する知識だけではなく、英語を使って、日本のことや世界中の国々のことを学ぶことにより、英語で自文化について表現できるようになることを期待しています。

コースカリキュラム体系表

コース科目	【必修】（注1） Oral Communication I A（4単位） Oral Communication I B（4単位） Writing I（2単位） Oral Communication II A（4単位） Oral Communication II B（4単位） Writing II（2単位）	20単位
	【選択】（注2） 「英語コミュニケーションコース開設科目および配当セメスター」参照	28単位
学部専攻科目	各学部の履修要項にしたがってください	32単位
フリーゾーン		12単位
教養教育科目	【必修科目】「仏教の思想A・B」（各2単位）、必修外国語（12単位）	16単位
	【選択必修科目】教養科目（基幹科目）※3分野から各1科目（2単位）以上	6単位
	【選択科目】各学部の履修要項にしたがってください	10単位

（注1）コース必修科目については、指定クラス、指定セメスターで履修登録してください。

（注2）選択科目28単位を超えて修得した単位については、フリーゾーンの単位として認定します。

海外研修

海外研修の受講を希望する者は、説明会（夏期：4月中旬、春期：10月上旬に開催します）に必ず出席し、研修期間については英語コミュニケーションコース担当教員、教学部窓口またはグローバル教育推進センターに問い合わせてください。

詳細な日程については英語コミュニケーションコース掲示板を参照してください。

（※）夏期の海外研修は、サマーセッションと期間が重複する場合があります。サマーセッションは履修辞退ができないため（履修辞退対象外科目）、その場合は、サマーセッションを優先してください。

研修期間：3～5週間

夏期休業期間（8月～9月）〈(参考) 研修説明会 例年4月中旬〉

春期休業期間（2月～3月）〈(参考) 研修説明会 例年10月上旬〉

研修先：当該年度の研修先については、グローバル教育推進センターにおたずねください。説明会開催時にも発表します。

〈過去の主な研修先〉

- University of Manitoba (CANADA)
- University of Waikato (NZ)
- Enderun Colleges (PHILIPPINES)
- University College Cork (IRELAND)
- University of Sydney (AUSTRALIA)

履修登録：説明会にて配布の参加申込書を提出してください。※Web履修登録は不要です。

成績評価：研修に行った学期で認定します。

夏期休業期間：前期

春期休業期間：後期

BIE Program

英語コミュニケーションコース科目としての単位認定は、「Semester Program」のみ対象です。

BIE Program「Semester Program」の詳細は、グローバル教育推進センターで配布している「留学ガイド」やグローバル教育推進センターホームページ（URL <https://intl.ryukoku.ac.jp>）を参考にしてください。

英語コミュニケーションコース 開設科目および配当セメスター

セメスター	授業科目名	単位	開講回数	備考
必修科目 (20単位)				
4	Oral Communication I A	4	週2回	必修10単位
	Oral Communication I B	4	週2回	
	Writing I	2	週1回	
5	Oral Communication II A	4	週2回	必修10単位
	Oral Communication II B	4	週2回	
	Writing II	2	週1回	
選択科目 (28単位以上)				
4～	米国文化 I	2	週1回	2年生に強く推奨
	英国文化 I	2		

5～	米国文化Ⅱ	2	週1回	3年生に強く推奨
	英国文化Ⅱ	2		
4～	English in the World	2	週1回	
	文化比較	2		
	Intensive Reading	2		
	Reading Fluency	2		
	Communicative Grammar I	2		
5～	英米事情	2	週1回	
	Business Writing	2		
	Critical Essay	2		
	Process Writing	2		
	Public Speaking	2		
	Debate and Discussion	2		
	Dynamics of Expression	2		
	Communicative Grammar II	2		
Global Understanding in English	4			
6～	Intercultural Discussion	2	週1回	
5～	学部共通特別講義Ⅰ	4	週2回	
6～	学部共通特別講義Ⅱ	2	週1回	
	学部共通特別講義Ⅲ	2		
	学部共通特別講義Ⅳ	2		
	学部共通特別講義Ⅴ	2		
4～	海外研修（注1）	4	集中	
5～	英語資格試験セミナー（注2）	2	集中	
6	SeminarⅠ	2	週1回	
7	SeminarⅡ	2	週1回	
8	卒業研究（注3）	4	週1回	
5～	Forum（注4）	2	週1回	

注意事項

上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

開講方法（開講期・曜講時など）は時間割表やWeb履修登録画面で確認してください。

- (注1)「海外研修」については、前述の「海外研修について」を参照してください。
- (注2)「英語資格試験セミナー」を第3セメスターまでに修得した場合は、コース所属後に、自動的にコースの修了要件単位として取り扱われます。コース所属後の履修は、コース時間割登録コードで履修登録してください。
- (注3) ①3年次後期以降に留学する学生のうち希望者は、留学中に「SeminarⅠ」、「SeminarⅡ」および「卒業研究」の遠隔指導を受けることができます。遠隔指導を受けるには英語コミュニケーションコース運営委員会の許可が必要となりますので、必ず事前に教学部窓口に出してください。
- ②「卒業研究」を履修するには、原則として「SeminarⅡ」の履修登録が必須です。「SeminarⅡ」の履修登録時に「卒業研究」の履修登録も行ってください。
- ③「卒業研究」を遠隔指導で受ける場合は、以下の手続きを行ってください。

《手続き方法》

- a. 「卒業研究」の単位認定希望者は、留学前に指導教員に研究計画書を提出してください。

- b. 指導教員は研究計画書についての指導計画書を作成し、留学中も指導を行います。
- c. 学生は、中間報告書を指導教員に提出してください。
- d. 「卒業研究」を指導教員に提出してください。

(注4) 講義授業に加え、半期で2~3回程度のゲストスピーカーを招いた講演会や報告会を開催し、講演会の後に討論やレポートの提出を求めます。それも含めて、担当者が成績評価します。

〈コースの履修〉

① 募集定員 60名

※申込者に対して、事前に試験を行います。その結果については指導の参考にすると同時に、応募者多数の場合には選考基準の一部として用います。

② 先修条件

1) コースに進むための先修科目

第3 Semester終了までに、「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B), 3(A), 3(B)」の内、4単位以上修得していること。

2) 次のいずれかのスコアをもっている場合は、無条件に受け入れます。

詳細は教学部窓口まで確認してください。

○ TOEFL® ITPスコア420以上

○ TOEFL®スコア Computer-based score110以上 (Paper-based score420以上)

3) 外国人留学生 (正規留学生) で、①②を満たしていない場合でも、面接等により、受け入れる場合があります。詳細は教学部窓口まで確認してください。

③ コース修了条件

1) 必修科目 20単位 (開設科目一覧表を参照)

2) 選択科目 28単位以上 (開設科目一覧表を参照)

合計 48単位以上

コースの科目名のうち一部、成績表や成績証明書などにおいて記載を短縮しています。

学則・科目名	システム表示上名称
Oral Communication I A	Oral Com. I A
Oral Communication I B	Oral Com. I B
Oral Communication II A	Oral Com. II A
Oral Communication II B	Oral Com. II B
English in the World	Engl. in World
Intensive Reading	Intens. Reading
Communicative Grammar I	Communic. Gram. I
Communicative Grammar II	Communic. Gram. II
Debate and Discussion	Debate & Disc.
Dynamics of Expression	Dynamic. Expres.
Intercultural Discussion	Interc. Disc.
Global Understanding in English	Global Unders.

(3) スポーツサイエンスコース

〈コースの目的〉

経済、経営、法及び政策学部での社会科学あるいは学際的な学びの上に、教養教育での学びに加え、スポーツ科学における人文科学系、社会科学系および自然科学系の知識と応用力を身につけ、社会の課題を主体的に捉え解決を目指す人材を育成することを目的としています。

- (1) 様々な分野に広がり重要度を増しつつあるスポーツビジネスやスポーツ行政などにおける経営・管理能力と企画・調整能力を兼ね備えた人材の育成。
- (2) スポーツ文化に関する多方面からの調査・研究の推進と、その成果に基づく幅広く奥深い知識と教養を身に付けた人材の育成。
- (3) 幼児から高齢者にいたるまでの、ライフステージやライフスタイルに対応した健康増進のための運動プログラムの開発。
- (4) 競技力向上のための科学的で合理的なコーチングやトレーニング方法の確立。
- (5) これらの知識を現場で使いこなし、普及していくことのできるスポーツ指導者の育成。

スポーツサイエンスコースは、まさにこうした時代の要請を視野に入れつつ、講義や実験・実習をとおして幅広い教養と高度な専門的知識・技能を修得してもらうためのものです。

常日頃スポーツを実践したりスポーツに興味・関心を持つ学生諸君が、将来、さまざまなスポーツ関連諸分野における有能な働き手として活躍してもらいたいと願っています。

〈コースカリキュラム体系〉

コースカリキュラム体系表

コース科目	【選択必修科目】 ○「特別演習Ⅰ」 ○人文・社会科学系科目「現代スポーツ論」「近代スポーツ史」のどちらか1科目を必ず修得してください ○自然科学系科目「身体運動の生理学」「身体運動の機能解剖学」「身体運動の制御と学習」のいずれか1科目を必ず修得してください	4科目 10単位
	【選択】 「スポーツサイエンスコース開設科目および配当semester」を参照してください	30単位
学部専攻科目	各学部の履修要項にしたがってください	32単位
フリーゾーン		12単位
教養教育科目	【必修科目】「仏教の思想A・B」(各2単位)、必修外国語(12単位)	16単位
	【選択必修科目】教養科目(基幹科目)※3分野から各1科目(2単位)以上	6単位
	【選択科目】各学部の履修要項にしたがってください	18単位

スポーツサイエンスコース 開設科目および配当semester

semester	授業科目名	単位	グレード	備考
選 択 必 修 科 目 (4科目10単位以上)				
【自然科学系】				
4	身体運動の生理学	2	200	4科目(10単位)は必ず履修すること 1科目(2単位)は必ず履修のこと
4	身体運動の機能解剖学	2	200	
4	身体運動の制御と学習	2	200	

【人文・社会科学系】					4科目(10単位)は必ず履修すること
4	現代スポーツ論	2	200	1科目(2単位)は必ず履修のこと	
4	近代スポーツ史	2	200		
【演習】					
4・5	特別演習Ⅰ	4	200		
選 択 科 目 (30単位以上)					
4	スポーツ栄養学	2	200	2単位として開講	
4	学部共通特別講義Ⅲ	2	200		
5	スポーツと経済	2	300		
5	スポーツ競技力論	2	300		
5	スポーツマネジメント論	2	300		
5	エクササイズテクニク	2	300		
5	スポーツメディア論	2	300		
5	スポーツ医学	2	300		
5	スポーツ統計学	2	300		
5	スポーツ政策論	2	300		
5	スポーツトレーニングの原理	2	300		
5	健康スポーツ論	2	300		
5	体力学	2	300		
5	フィットネスプログラミングⅠ	2	300		
5	スポーツ心理学Ⅰ	2	300		
5	学部共通特別講義Ⅰ(プロスポーツビジネス研究)	4 or 2	300		
6	スポーツマーケティング論	2	400		
6	スポーツ法学	2	400		
6	バイオメカニクス	2	400		
6	地域スポーツ論	2	400		
6	スポーツ文化論	2	400		
6	スポーツトレーニングの方法	2	400		
6	栄養と健康	2	400		
6	スポーツ生理学	2	400		
6	フィットネスプログラミングⅡ	2	400		
6	スポーツ心理学Ⅱ	2	400		
5・6	インターンシップ実習	4	400		
6	学部共通特別講義Ⅱ(水泳)	4 or 2	400		
6	学部共通特別講義Ⅳ(スポーツ産業の現状と課題)	2	400		
6	学部共通特別講義Ⅴ	2	400		
6・7	特別演習Ⅱ	4	400		
8	特別演習Ⅲ	4	500		

(注1) 上記配当セメスターにかかわらず、開講期は年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

開講方法(開講期・曜講時など)は時間割表やWeb履修登録画面で確認してください。

(注2) 若干の科目については、サマーセッション期間に開講する場合があります。

(注3) 事前登録及び志望理由書によって受講制限を行う科目があります。シラバスを確認してください。

(注4) 選択必修科目を10単位を超えて履修した場合には、選択科目の単位として認定されます。

(注5) 選択科目30単位を超えて履修した場合には、フリーゾーンの単位として認定されます。

〈コースの履修〉

- ① 募集定員 80名程度
経済、経営、法、政策の各学部にも所属する学生を対象に、「志望理由書」の提出をもって選考します。
- ② カリキュラム
 - 1) 選択必修科目【10単位以上】
6科目14単位のうちから4科目10単位以上を修得する必要があります。
・人文・社会科学系科目の「現代スポーツ論」(2単位)または、「近代スポーツ史」(2単位)のうち、どちらか1科目を必ず修得してください。
・自然科学系科目の「身体運動の生理学」(2単位)、「身体運動の機能解剖学」(2単位)、「身体運動の制御と学習」(2単位)のうち、いずれか1科目を必ず修得してください。
・「特別演習Ⅰ」(4単位)を原則履修してください。
・選択必修科目を10単位を超えて修得した場合は、選択科目の単位として認定します。
 - 2) 選択科目【30単位以上】
・選択科目群の中から30単位以上を修得してください。
・「特別演習Ⅱ」と「特別演習Ⅲ」(併せて8単位)を履修することを勧めます。
・30単位を超えて修得した場合は、フリーゾーンの単位として認定されます。
 - 3) 「インターンシップ実習」(4単位)
スポーツ分野におけるキャリア形成科目としてインターンシップ科目を設置しています。本学インターンシッププログラムの1つである「協定型インターンシップ」のうち、本コースが指定する企業・団体等をインターンシップ先とし、合格として認定された場合、スポーツサイエンスコース選択科目「インターンシップ実習」(4単位)として単位認定がされます。
詳細は、インターンシップ支援オフィスが発行するパンフレットをご覧ください。
参考) 協定型インターンシップ
龍谷大学が企業・団体等と協定書を締結して行うインターンシップ
 - 4) 「特別演習Ⅱ」および「特別演習Ⅲ(卒業研究)」は、「特別演習Ⅰ」を修得しなければ履修できません。
また、「特別演習Ⅱ」と「特別演習Ⅲ(卒業研究)」は、両方を履修・修得することによって、第8 Semester終了時に8単位が認定されます。(「特別演習Ⅱ」の単独履修のみでは単位認定されないの
で注意してください。)
 - 5) コース修了条件
選択必修科目、選択科目あわせて40単位以上を修得しなければなりません。

〈学修上の注意〉

- ① 選択必修科目は、スポーツ科学のさまざまな分野の基礎となる科目ですので、すべて履修することを勧めます。
- ② 学部教育との連携を考慮し、経済学部所属生は「スポーツと経済」を、経営学部所属生は「スポーツマネジメント論」を、法学部所属生は「スポーツ法学」を、政策学部所属生は「スポーツ政策論」を履修することを推奨します。
- ③ 「特別演習Ⅱ」の履修を希望する学生は、「近代スポーツ史」「スポーツ政策論」「スポーツと経済」「健康スポーツ論」「体力学」「スポーツ生理学」「スポーツトレーニングの原理」「スポーツトレーニングの

方法」の中から、関係する科目を履修することを勧めます。

- ④ 「特別演習Ⅰ」（4単位）、「特別演習Ⅱ」と「特別演習Ⅲ（卒業研究）」は原則として配当セメスター以外での受講は認められません。また、「特別演習Ⅱ」と「特別演習Ⅲ（卒業研究）」（併せて8単位）は原則として連続受講してください。留学等により連続受講できない場合は、指導教員に相談の上、教育学部窓口まで申し出てください。
- ⑤ 「健康運動実践指導者」、「アシスタントマネジャー」、「トレーニング指導者」の資格を取得したい学生は、以下に記載してあるそれぞれの解説をよく読んで必要な科目を履修してください。

〈『健康運動実践指導者』『アシスタントマネジャー』『トレーニング指導者』等の資格取得希望者へ
—科目履修上の注意—〉

スポーツサイエンスコースには、『健康運動実践指導者』『アシスタントマネジャー』『トレーニング指導者』等の資格取得を希望する学生に対応したカリキュラムが用意されています。それぞれの資格取得に必要な科目をあらかじめ確認し、科目の履修登録を行ってください。

① 『健康運動実践指導者』

龍谷大学（スポーツサイエンスコース）は、（財）健康・体力づくり事業財団が資格認定する『健康運動実践指導者』の養成校（受験要件としての講習会受講免除）として、体育学部やスポーツ系学部と同様に認定されています。

健康運動実践指導者の資格試験の受験を希望する人は、受験条件となっている科目を全て計画的に履修する必要があります。

1) 健康運動実践指導者の資格認定とは

健康運動実践指導者の資格とは、医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技術等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づき、ジョギング、エアロビック・ダンス、水泳および水中運動等のエアロビック・エクササイズ、ストレッチング、筋力、筋持久力トレーニング等の補強運動の実践指導を行うことができると（財）健康・体力づくり事業財団から認められた人に与えられます。

主として、健康増進センター、保健所、市町村保健センター、民間健康増進施設（フィットネスクラブ等の施設）などにおいて、健康づくりのための運動の実践的指導で活躍している人や、将来そのような活動に携わりたいと思っている人が、この資格を取得しています。現在、（財）健康・体力づくり事業財団には、全国で20,000名の健康運動実践指導者が登録されています。

2) 健康運動実践指導者養成校とは

健康運動実践指導者の資格は、資格認定試験に合格すれば得られます。ところが、この認定試験の受験資格を得るためには『健康運動実践指導者養成講習会』（講義16単位、実習17単位の合計33単位）を受講しなければなりません。

但し、（財）健康・体力づくり事業財団が健康運動実践指導者養成講習会のカリキュラムと同等以上の科目を設置している大学等を健康運動実践指導者養成校として認定した場合は、この講習会の受講が免除されます。

本学は『健康運動実践指導者養成校』として認定されていますので、スポーツサイエンスコース生は、下記の科目を受講し単位を修得すれば、『健康運動実践指導者養成講習会』を受講しなくても資格認定試験の受験資格が与えられます。※講習会受講料が不要となります。資格認定試験には、別途受験料が必要です。

3) 資格試験の受験資格（養成講習会受講免除）を得るために必要な科目

「身体運動の生理学」、「身体運動の機能解剖学」、「健康スポーツ論」、「スポーツトレーニングの原理」、「スポーツ栄養学」、「スポーツ医学」、「エクササイズテクニク」、「フィットネスプログラミングⅠ」、「フィットネスプログラミングⅡ」、「体力学」、「スポーツ生理学」、「スポーツ心理学Ⅰ」、「スポーツ心理学Ⅱ」、「バイオメカニクス」、「学部共通特別講義Ⅱ（水泳）」

②（財）日本スポーツ協会公認『アシスタントマネジャー』、『スポーツリーダー』

スポーツサイエンスコースでは、（財）日本スポーツ協会が認定するマネジメント資格「アシスタントマネジャー」を取得するための養成講習会のカリキュラムに沿った教育が実施されている大学として、講習会免除適応コースの承認を2009年度より受けました。また、「アシスタントマネジャー」を取得するためのカリキュラムには、スポーツ指導者基礎資格「スポーツリーダー」の内容も含まれているため、「アシスタントマネジャー」受験資格と「スポーツリーダー」の2つの資格を同時に取得することになります。

1)（財）日本スポーツ協会公認「アシスタントマネジャー」とは

（財）日本スポーツ協会公認マネジメント資格には、「クラブマネジャー」と「アシスタントマネジャー」があります。「クラブマネジャー」とは、地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう、健全なクラブ経営を行うためのマネジメント能力を身につけるための資格です。「アシスタントマネジャー」は、その組織経営のための諸活動をサポートするために必要なスポーツクラブのマネジメントに関する基礎的知識を有し、協働できる能力を身につけるための資格です。本コースにおいて、定められた科目を修得することで、「アシスタントマネジャー」資格取得のための養成講習会の受講を免除されており、卒業年度の検定試験によって資格取得が可能になります。

2) 資格検定試験の受験資格（養成講習会免除）を得るために必要な科目

（財）日本スポーツ協会公認マネジメント資格「アシスタントマネジャー」を取得するためには、専門のマネジメント関連科目と「スポーツリーダー」に関する基礎関連科目を修得する必要があります。卒業年度までに、下記の科目を修得した者は、（財）日本スポーツ協会公認「アシスタントマネジャー」の35時間（集合講習14時間＋自宅学習21時間）の養成講習会の受講を免除され、受験資格を得ることができます。また、（財）日本スポーツ協会公認「スポーツリーダー」資格を同時に取得することができます。この「スポーツリーダー」資格は、（財）日本スポーツ協会の他の資格を取得する際に必要となります。

ただし、「アシスタントマネジャー」は受験資格のみであるため、卒業年度に（財）日本スポーツ協会が実施する検定を受験しなければなりません（検定試験前に特別講習会1時間を受講）。

「スポーツマネジメント論」、「スポーツと経済」、「地域スポーツ論」、「スポーツ政策論」、「スポーツ文化論」、「スポーツトレーニングの原理」、「スポーツトレーニングの方法」、「スポーツ医学」、「スポーツ栄養学」、「フィットネスプログラミングⅠ」、「現代スポーツ論」、「スポーツ法学」、「スポーツ心理学Ⅰ」、「スポーツ心理学Ⅱ」、「健康スポーツ論」

③ 『トレーニング指導者』

スポーツサイエンスコースは日本トレーニング指導者協会が認定する資格「トレーニング指導者」を取得するための養成講習会のカリキュラムに沿った教育が実施されている学校として「トレーニング指導者養成校」に2008年から認定されました。

1) 日本トレーニング指導者協会とは

主にスポーツ選手の競技力向上や一般人の健康・体力増進を目的とした体力トレーニングの指導に関わる人を対象として、効果的な活動を推進するために必要な理論と実践に関する普及・教育及び研究活動、指導者の養成及び研修、指導者間の交流及び相互扶助等に関する事業を行い、我が国のスポーツ振興や国民の健康・体力増進、トレーニング指導者の職域や雇用機会の拡大並びに社会的地位の向上に寄与することを目的として2006年4月15日に任意団体として創立されています。そして、NPO法人（特定非営利活動法人）の認証申請を経て、2006年8月21日に、正式に「特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会」として設立されました。

本協会が認定資格「トレーニング指導者」を取得するための養成講習会のカリキュラムに沿った教育が実施されている学校に対し、「トレーニング指導者養成校」として認定する事業を開始しました。

2) トレーニング指導者とは

中高年者における生活習慣病の予防と生活の質的向上や介護予防の観点から一般人の体力づくりの必要性が社会的に求められてきています。国及び地方自治体の関係諸機関や民間フィットネスクラブの経営者やパーソナル・トレーナーの間では、これらに関する科学的知識と指導技術を習得しようとする動きが急速に広まってきています。また、競技スポーツのパフォーマンス向上のためのトレーニングにおいても、これまで以上により専門的で高度な筋力強化が必要であることが共通認識になってきています。

こうした状況下で、今後、多様な目的に即した体力向上のためのプログラムを提供し指導できるフィットネス・体力づくりのインストラクターやパーソナル・トレーナー、そしてストレングス&コンディショニング・コーチやスポーツ指導者が必要とされています。トレーニング指導者とは、まさにそういったニーズに応えるものです。

3) 資格試験の受験資格（養成講習会免除）を得るために必要な科目

本学卒業者（または卒業見込み者）で下記科目を修了した者は、本協会認定資格「トレーニング指導者」の受験にあたり、養成講習会が免除されます。

「身体運動の機能解剖学」、「身体運動の制御と学習」、「身体運動の生理学」、「健康スポーツ論」、「栄養と健康」、「エクササイズテクニック」、「スポーツ医学」、「スポーツ栄養学」、「スポーツ競技力論」、「特別演習Ⅰ・Ⅱ（長谷川・村田・鈴木）」、「スポーツ心理学Ⅰ」、「スポーツ心理学Ⅱ」、「スポーツトレーニングの原理」、「スポーツトレーニングの方法」、「スポーツ法学」、「体力学」、「スポーツ生理学」、「バイオメカニクス」、「フィットネスプログラミングⅠ」、「フィットネスプログラミングⅡ」

(4) 環境サイエンスコース

〈コースの目的〉

地球温暖化や異常気象、リサイクルやエコロジー、こんな言葉を耳にしない日はないでしょう。人類が大きな変化を経験した20世紀を通して、人々が気づいたのが「環境」という言葉でした。企業や行政でも環境会計やISO14001の認証（国際環境規格14001）など環境に関する取り組みが積極的に行われてきました。資源・エネルギーの消費と豊かさ、環境と経済をどう調和させるかが、現在の問題でしょう。また、2011年には東日本大震災の津波などが原因で、福島第一原子力発電所から大量の放射性物質が漏れ、原発の安全性に対する信頼が揺らいでいます。今日では環境との調和は、生産や開発への制約条件というよりは、むしろ、人々が理想として追求する価値となっています。

人類が今なぜ、このような問題につきあっているのか？この問題の本質はどこにあるのか？これについては、「産業や経済のあり方の問題」、「天然資源やエネルギーの問題」、「科学と技術の本質にかかわる

問題」、「地球上の人口爆発の問題」、「社会システムの欠陥の問題」、「現代の消費文明と生活スタイルの問題」、「豊かさや進歩といった考え方の中に潜む根本的な問題」など、様々な角度からの見方があります。20世紀までは、あたりまえとされてきた人生観、社会観、人間観そのものがまるごと、21世紀では問い直されています。

これまで自然を単に利用するだけの対象と見て自然と社会との関係を見なかったこと、環境と経済を対立するものと考えてきたことが問題であったと指摘されています。さまざまな環境問題、さらに深く人間と自然の共生、環境と政策、制度の問題に取り組もうとするのが、環境サイエンスコースです。自然だけ、社会だけ、人間だけと区別して捉えるのではなく、それらすべてに係わる多面的な学習、調査および総合的な意見交換の場です。

このコースの学修の特徴として、自然そのものに触れる野外授業や現実問題に取り組む実習系科目を通して、印象深い学修体験を重ねていくことができます。

〈コース3つの視点〉

このコースのカリキュラムがよりどころとする基本的な理念は、次の3つの視点からなります。

① エコロジーおよび自然史の視点

100年ほど前から、人間をふくむさまざまな生物たちとその環境との「関係の学」として生態学（エコロジー）という名の学問が発展してきました。その研究を通して明らかになったことは、'空気や水、光、その他あらゆる物質が循環する地球上の物質圏と、あらゆる生命体が連鎖し循環している地球上の生物圏とが、どんな生物にとってもそれが生きていくうえで必要不可欠な条件、つまり生存のための環境となっている'ということです。

地球という惑星に住むわれわれ人類にとっては、自分たちの生存を許してきた“環境”についての理解を、しっかりと自然観・宇宙観にもとづく骨太な理論体系のなかに位置づけることが望まれます。

そのため'広大な宇宙とそのなかに浮かぶ地球、その上に発生した生命の進化というひとつの壮大な歴史をたどる'自然史的視点に立って、生物学、気象学をはじめとする自然科学関連諸分野についても広く学びます。

② 社会科学の視点

どの環境問題にも社会的側面がかかわっています。問題をひきおこしたのも、またそれを解決するのも、人間社会です。社会科学においても、これまでの歴史的反省にもとづいて、問題解決に向けての新たな方法と分野が提案されています。例えば、地球温暖化やごみ問題の顕在化により、従来の規制一辺倒から経済的な手法の必要性が言われています。また、環境問題を解決するためにさまざまな法律や政策が制定、執行され、被害者救済のための訴訟が行われています。世界、国、自治体、地域における環境問題の背景、社会的要因、環境問題解決のための法政策などを、環境政策論、環境管理論、国際環境法などの科目を通じて広く学びます。

③ 哲学・倫理学および人文科学の視点

環境問題は近代の世界観、人間観と深くかかわっています。自然界の産物である人間が、自然と共生し他者との間での公正な生き方を探求するには、あらためて近代の歴史をふり返り、その社会がもってきた人間観・自然観を再検討することが必要になります。

現代が直面する問題意識の上に、人文科学および哲学・倫理学の基本を学びます。

21世紀に入り、私達はますます生活のあらゆる場面で、何が環境と人々の幸福とを両立させるみちであり、どのような生き方が将来の世代に対して責任を負うことになるかを考え、行動しなければならなくなっています。世代間の公平、生物種間の公正という考え方が人類の普遍的な思想となることは間違いありません。環境サイエンスコースでは、所属学部も関心も異なる多様な人々が集まり、それぞれの学部における専門分野の視点と環境に関して蓄積されてきた科学的知見とを総合して、既存の学問的枠組みにおさまらない新しい学習・研究の場をつくり出すことを目指します。

コースカリキュラム体系表

コース科目	【必修科目】 環境学A（2単位）、環境学B（2単位）合計4単位	4単位
	【選択必修科目】（12単位） 選択必修A群（人文・社会科学系）・B群（自然科学系）から最低各4単位を履修してください	12単位 （注1）
	【選択科目】（32単位） 「環境サイエンスコース開設科目および配当セメスター」を参照してください	32単位 （注2）
学部専攻科目	各学部の履修要項にしたがってください	32単位
フリーゾーン		12単位
教養教育科目	【必修科目】「仏教の思想A・B」（各2単位）、必修外国語（12単位）	16単位
	【選択必修科目】教養科目（基幹科目）※3分野から各1科目（2単位）以上	6単位
	【選択科目】各学部の履修要項にしたがってください	10単位

（注1）12単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として認定します。

（注2）32単位を超えて修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

環境サイエンスコース開設科目および配当セメスター

必修科目				
セメスター	授業科目名	単位	備考	修了条件
4	環境学A	2		必修 （4単位）
5	環境学B	2		
選択必修科目				
セメスター	授業科目名	単位	備考	修了条件
※A群（人文・社会科学系）				
4	環境と倫理	2	経営学部提供科目 法学部提供科目	選択必修 （12単位）
4	環境と経済	2		
4	環境とビジネス	2		
4	環境と法	2		
5	環境管理論Ⅰ	2		
4	環境政策論Ⅰ	2		
5	コンピュータシステム論	4		
※B群（自然科学系）				
4	生態学A	2		※A群・B群より最低各4単位を履修
5	生態学B	2		
4	地球と環境	2		
5	環境地理学	2		
4	自然保護論	2		
5	化学物質と環境	2		

選 択 科 目						
Semester	授業科目名	単位	備 考	修了条件		
6	シミュレーション技法	2	演習Ⅱおよび卒業研究は演習Ⅰを修得しなければ履修できない 演習Ⅱと卒業研究は継続履修一体科目（両科目を修得して8単位認定）	選択科目 (32単位) (演習を含む)		
5	複雑系の科学	2				
6	環境史	2				
5	環境アセスメント論	2				
5	地域環境論	2				
4	気候と気象	2				
5	生物共棲論	2				
5	水界生態論	2				
5-6	環境フィールドワーク	4				
6	環境管理論Ⅱ	2				
4	学部共通特別講義A	2				
4	学部共通特別講義B	2				
4	学部共通特別講義C	2				
5・6	環境実践研究（注2）	2				
4-5	演習Ⅰ	4				
6-7	演習Ⅱ	4				
8	卒業研究	4				
経済学部提供科目						
4	開発経済学	4				
5	都市経済論	2				
経営学部提供科目						
5	産業技術論	2				
法学部提供科目						
4	国際環境法	2				
政策学部提供科目						
6	環境政策論Ⅱ	2				
4	持続可能な発展概論	2				
4	科学技術政策	2				
4	景観・まちなみ保存政策	2				
5	環境エネルギー政策	2				

（注1）上記配当 Semester にかかわらず、開講 Semester は年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

開講方法（開講期・曜講時など）は時間割表やWeb履修登録画面で確認してください。

（注2）履修要項「環境実践研究について」を参照してください。

環境実践研究

概要

講義時間以外に国内外の団体が開催するプログラムやエコツアーなどに、ある一定期間参加して単位を修得します。自らが環境保全活動や環境問題の実態を把握する研究やプログラムにおいて、実習を行い、実践活動終了後、環境サイエンスコースにおける講義で自らの体験を口頭発表し、その報告書を提出します。

実践する相手先は各自が見つ各自で手配し、その必要な経費は各自で負担してください。

実践の概要は原則として次の通りとします。

〈実践期間〉

2週間程度（実践期間が2週間に満たない場合でも、計画時の実践内容によって適宜判断します）

〈実践研究の相手先〉

- ・報酬のないもの
- ・受け入れ先が明確な企業、行政、NPO・NGO団体など

例えば、

国内・海外インターンシップ

社会活動ボランティア

国内・海外エコツアー など

〈単位認定〉

2単位

〈成績評価〉

単位修得の必要条件：実践終了後、実践研究内容をコースの講義（環境学Aまたは環境学B）等で口頭発表します。併せて発表内容のレポートを提出してください。

これに基づき、授業担当者が成績評価をします（評価が第1学期で行われれば第1学期の成績、第2学期で行われれば第2学期の成績として扱います）。

〈履修の手続き〉

実践前に必ず計画書を教学部窓口へ提出し、環境サイエンスコース運営委員会で承認を受けてから出発してください（学期始めの履修登録は不要です）。

なお、計画書提出の締切日は次のとおりですので注意してください。

- ・第1学期に成績評価を受ける場合：第1学期の履修登録期間最終日（4月）
- ・第2学期に成績評価を受ける場合：第1学期の授業期間最終日（7月）

〈コースの履修〉

① 募集定員 60名程度

② カリキュラム

1) 必修科目【4単位】

環境学A（2単位）、環境学B（2単位）

合計4単位

2) 選択必修科目【12単位】

選択必修科目として合計12単位を修得してください。但し、A群（人文・社会科学系）科目・B群（自然科学系）科目からそれぞれ4単位以上を修得してください。

12単位を超えて選択必修科目を修得した場合は、選択科目の単位として認定します。

- 3) 選択科目【32単位】(演習・卒業研究を含む)
 - ・選択科目群の中から32単位以上を修得してください。
 - ・32単位を超えて修得した場合は、フリーゾーンとして認定します。
- 4) 演習および卒業研究
 - ・環境サイエンスコースでは「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」において人文・社会科学系分野、自然科学系分野の演習をそれぞれ開設しています。
 - ・「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」間では同一分野の継続的履修が望めます。
 - ・「演習Ⅱ」を履修する場合は「演習Ⅰ」を修得しておくことが必要です。

但し、本コースでは環境について十分な知識と理解を得るために、多面的な学習を重視しており、演習Ⅱ受講時に他分野の演習Ⅰを受講することもできます。

※受講希望人数により選考する場合があります。

※演習Ⅰ受講時に他分野の演習Ⅰを受講することはできません。

 - ・「演習Ⅱ」と「卒業研究」は継続履修科目であり両方を修得することにより8単位が認定されます。
- 5) コース修了条件
 - 必修科目、選択必修科目、選択科目あわせて48単位以上を修得するものとします。

③ コースでの学修

- 1) 本コースでは社会科学系分野科目、自然科学系分野科目が設置されており、環境に対する十分な知識と理解を得るため両分野からの履修が望めます。
- 2) 本コースでは環境という視点からフィールドワークや実践研究科目が設置されており、積極的な取り組みを期待します。
- 3) 本コースでの学修を深めるために教養教育科目にある環境に係る科目の履修をすることが望めます。

④ 資格取得





本コースでの学修を通じて、eco検定(環境社会検定)や3R・低炭素社会検定などのさまざまな検定の受験に有利な知識を身につけることができます。







本コースにおける所定の単位取得者はNPO法人自然環境復元協会が実施する環境再生医・初級の認定が受けられます。学内申請方法等については、教学部窓口までお問い合わせください。

VI その他の教育課程・教育プログラム

経済学部教育課程以外にも、みなさんが受講できる多様な教育課程・教育プログラムがあります。詳細は、ホームページ、配布冊子などで確認するとともに、各担当窓口にお問い合わせください。

1. 留学/国際交流プログラム・単位互換制度・各種インターンシッププログラム

留学/国際交流プログラムについて	担当窓口・関係情報
<p>龍谷大学では、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成及び「多文化共生キャンパスの実現」を目的として、学生の海外派遣及び外国人留学生の受入を積極的に推進するため、様々な留学制度や国際交流プログラムを整備しています。交換留学や私費留学に加えて、龍谷大学の海外拠点であるRUBeC (Ryukoku University Berkeley Center) で展開されるBIE (Berkeley Intercultural English) プログラムや短期海外派遣プログラム等の多様なプログラムが展開されています。また、グローバルコモンズにおいては、英会話レッスン、英語ディスカッション等さまざまな英語学習プログラムを提供しています。</p> <p>経済、社会、文化、政治などあらゆる局面でグローバル化が急速に進む現在、海外の大学での学修、国内外での異文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。</p>	<p>(担当窓口) グローバル教育推進センター 深草学舎 和顔館1階／瀬田学舎 智光館2階 ※単位認定に関する相談は経済学部教務課 深草学舎 紫英館1階</p> <p>(関係情報) ・「留学ガイド」グローバル教育推進センターで配布 ・グローバル教育推進センター ホームページ (URL) https://intl.ryukoku.ac.jp/ (QRコード) </p> <p>・龍谷大学グローバル教育推進センター 交換留学マンスリーレポート (URL) https://mrepo.jp/ (QRコード) </p>
大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都では、京都地域の約50の大学・短期大学が協定を締結し、各大学の科目を履修できる「単位互換授業」の制度を設置しています。</p> <p>一部の科目は、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」で開講されます。</p> <p>なお、出願については、ポータルサイトの「大学コンソーシアム京都 単位互換申請」より行ってください。大学コンソーシアム京都のHPより出願しても無効となりますのでご注意ください。</p>	<p>(担当窓口) 経済学部教務課 深草学舎 紫英館1階 ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなど、まずは、経済学部教務課で確認してください。</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/ </p> <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 単位互換制度特設サイト (URL) https://www.consortium.or.jp/special/tani_gokan/index.html </p>

「放送大学科目」履修制度	担当窓口・関係情報
<p>放送大学とは、テレビ・ラジオ、またその記録媒体等を効果的に活用して、大学教育の機会を多くの人々に提供していく正規の大学で、放送大学学園法に基づき設立されています。</p> <p>本学と放送大学が単位互換に関する協定を締結したことにより、本学部が指定した「放送大学科目」を受講することによって修得した単位を卒業要件単位として認定されます。この「放送大学科目」を受講する学生は、放送大学では「特別聴講学生」として扱われます。</p>	<p>(担当窓口) 経済学部教務課 深草学舎 紫英館1階 ※受講希望者は、「特別聴講学生出願票」を経済学部教務課窓口に提出してください。 (提出期限は例年6月中旬です。)</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・放送大学 (URL) https://www.ouj.ac.jp</p>  
協定型インターンシッププログラム	担当窓口・関係情報
<p>本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学修を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。また、20講以上に及ぶ事前・事後学修では、グループワークを中心として進行し、課題発見力や主体性、発信力や傾聴力といった社会で求められる様々な能力を身につけることができます。</p>	<p>(担当窓口) インターンシップ支援オフィス 深草学舎 5号館1階/瀬田学舎 1号館1階</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「インターンシッププログラム リーフレット」 (インターンシップ支援オフィスにて配布) ・インターンシップ支援オフィス (URL) https://career.ryukoku.ac.jp/internship/internship.html</p>  
大学コンソーシアム京都 「インターンシップ・プログラム」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム(コーオペ教育)として、1998年度より全国に先駆けて開始しています。単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、社会人基礎力を育成するカリキュラムを持ったキャリア教育として、受講生からも高い満足度を得ています。</p>	<p>(担当窓口) 【単位認定に関する問い合わせ】 経済学部教務課 深草学舎 紫英館1階 【プログラムに関する問い合わせ】 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業推進室 〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル キャンパスプラザ京都内 TEL: 075-353-9106</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」 (インターンシップ支援オフィスにて配布 深草学舎5号館1階/瀬田学舎1号館1階) ・大学コンソーシアム京都 インターンシップサイト (URL) https://www.consortium.or.jp/project/intern</p>  

2. 単位認定について

(1) 特別講座

特別講座とは、学外で学修や実習を行った際に卒業要件単位として認定されるものであり、上記のうち、大学コンソーシアム京都の単位互換科目及びインターンシップ・プログラム、協定型インターシッププログラム、並びに留学／国際交流プログラムであるBIEプログラムが該当します。

単位は、下の表のとおり、学部専攻科目（選択科目）、または教養教育科目（選択科目）として認定されます。

ただし、大学コンソーシアム京都の単位互換科目については、1年次生から3年次生までの間に履修した科目のみ、卒業要件単位として認定されます（4年次生で履修した科目は随意科目として認定されます）。なお、他のプログラムについても、4年次の卒業判定の日程までに評価できない科目は、随意科目として認定されますので、ご注意ください。

科目区分	総上限 単位数	上限 単位数	区分	科目名
学部専攻科目 特別講座	24	12	単位互換	大学コンソーシアム京都 単位互換科目
		12	インターン シップ・ プログラム	大学コンソーシアム京都 インターンシップ・プログラム
				協定型インターンシップ・ プログラム
			BIEプログラム	パークレー・ボランティア
教養教育科目 特別講座	4	大学コンソーシアム京都単位互換科目		

(2) 放送大学科目

放送大学科目は、経済学部が指定した科目のみ卒業要件単位として認定されます。

単位は、学部専攻科目（選択科目）として認定されますが、上限は8単位です。

（8単位を超えた分は卒業要件単位となりませんので、ご注意ください。）

履修期間は、第2 Semester（1年次第2学期）、第4 Semester（2年次第2学期）、第6 Semester（3年次第2学期）の各1学期間（6ヶ月）です。

単位認定できる放送大学科目は、履修要項WEBサイトでお知らせします。

〈履修要項WEBサイト〉

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>







※ 単位認定対象科目以外の科目も履修は可能ですが、卒業要件単位認定対象とはなりません。

第3部 諸課程

I 諸課程	115
-------	-------	-----

1、諸課程

教職課程	担当窓口・関係情報
<p>教職課程は、教員免許状の取得を目指す学生を対象とした課程です。教科等に関する確かな専門的知識はもちろん、広く豊かな教養、人間の成長・発達への深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感を基盤とした、実践的な指導力を養成することを目的に設置しています。</p>	<p>(担当窓口) 教職センター 深草学舎 紫英館1階 大宮学舎 西翼1階 瀬田学舎 3号館1階</p> <p>(関係情報) 『教職課程ガイドブック』 教職センターHP (URL) https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyoshoku</p> 
学校図書館司書教諭課程	担当窓口・関係情報
<p>司書教諭とは、小学校・中学校・高等学校等の図書館で専門的職務に従事する教員のことをいいます。1997年の学校図書館法の改正により、2003年度から12学級以上の規模を持つすべての小中高の図書館への司書教諭の配置が義務づけられました。</p> <p>司書教諭は学校司書と同じく、学校図書館における専門的職務であり、深い人間理解に基づく、豊かな読書指導を行うことはもとより、読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を開催したり、児童・生徒の学習に対して図書館の利用に関する指導を行うこと等を職務としています。</p>	<p>(担当窓口) 経済学部教務課 深草学舎 紫英館1階</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> 
図書館司書課程	担当窓口・関係情報
<p>図書館司書とは、図書館等で資料の選択、収集、整理(分類、目録)、情報サービスなどを行う専門的職員です。公共図書館、大学図書館、専門図書館、学校図書館などで働いています。</p> <p>生涯学習社会といわれる現代において図書館司書が果たす役割は大きく、利用者に対して質の高いサービスを提供でき、多様なニーズに対応できる人材が求められています。また図書資料だけにとどまらず国際化・情報化の時代にふさわしく情報メディアの収集・管理、情報検索などについての自在な活用能力も求められています。</p>	<p>(担当窓口) 経済学部教務課 深草学舎 紫英館1階</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> 
本願寺派教師資格課程	担当窓口・関係情報
<p>浄土真宗本願寺派教師(住職)となるための資格です。本願寺派教師資格として必要な科目を履修することで取得できます。</p>	<p>(担当窓口) 経済学部教務課 深草学舎 紫英館1階</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> 

2、特別研修講座・各種講座・試験

課程・講座	目的・内容	担当部署
国際伝道者養成課程	広く国際的な素養として英語で仏教・浄土真宗を学修することや、海外の仏教事情に関心を持つ方を対象にした課程であり、また同時に、将来、浄土真宗本願寺派の海外開教区で伝道者として活躍できる人材養成を目的とした講座です。	(深草/大宮) 文学部教務課
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員や、犯罪をおかしたり非行をおこなった人たちの社会復帰を手助けする保護観察官等の専門職やボランティアを養成するために、実務に即した教育プログラムを提供しています。	矯正・保護総合センター事務部 深草学舎 至心館1階 (各学舎申し込み窓口) (深草) 法学部教務課 深草学舎 紫英館1階 (大宮) 文学部教務課 大宮学舎 西翼1階 (瀬田) 社会学部教務課 瀬田学舎 6号館1階
法職課程	各種公務員試験(国家一般職、地方上級等)の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、法律科目を体系的かつ効率的に学習できる講座や最新の試験情報などを提供することで、志望先への合格・進学を目的としています。	法学部教務課 深草学舎 紫英館1階
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座です。	教職センター 深草学舎 紫英館1階 大宮学舎 西翼1階 瀬田学舎 3号館1階
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※開講する学舎が限定されている講座があります。	将来のキャリアアップのための資格試験対策や就職活動のサポート、公務員試験対策などを目的とした各種講座を開講。信頼と実績のある専門学校等と提携し、学生の一人ひとりの目標や夢の実現をバックアップしています。 (資格系・就職対策) FP技能士講座(3級・2級AFP) / 宅地建物取引士講座 / 旅行業務取扱管理者講座 / エアライン就職対策講座 / 秘書検定講座(2級・準1級対策) / 色彩検定講座(3級・2級対策) / MOS対策講座(Excel、Word) / 社会福祉士国家試験講座 / ITパスポート試験対策講座 (語学系) TOEIC® Listening & Reading Test 対策講座 (公務員試験対策) 公務員講座	キャリアセンター 深草学舎 5号館1階 大宮学舎 東翼2階 瀬田学舎 1号館1階
生涯学習講座	(RECコミュニティカレッジ) 「RECコミュニティカレッジ」は、一般向けの公開講座で、「仏教・こころ」「文化・歴史」「文学」「自然・環境」「くらしと健康」「現代社会」「外国語」の計7コースで様々な講座を開講しており、年間延べ約9,000人の方々が学ばれています。 本学学生は、REC会員価格で受講できます。教養を深める機会として是非ともご利用ください。 (龍谷講座) 「龍谷講座」は、市民を対象にした公開講座で、現代社会の要請に応え、本学における研究の成果を地域社会に還元し、大学の社会的使命の一端を果たすことを目的としています。1977(昭和52)年から開講しており、時代のニーズに応じたテーマを取り上げ、現在、半期3～4講座を開講しています。受講料は無料ですので、気軽に受講してください。 ※新型コロナウイルスの影響を受け、2021年度(RECコミュニティカレッジ)及び(龍谷講座)については、対面式講座が実施できないなど、変更が生じる場合があります。詳しくは、RECコミュニティカレッジのホームページをご確認ください。	REC事務部 深草学舎 紫光館5階 瀬田学舎 RECホール RECコミュニティカレッジホームページ (https://rec.ryukoku.ac.jp) 

第4部 学修生活の手引き

I	窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室	119
II	授業等の休講措置に関する取扱基準 (自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について)	120
III	学籍の取り扱い	121
IV	大学院経済学研究科入学ガイド	125

I 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室

1. 窓口事務

各学部教務課の窓口事務については、履修要項WEBサイトに掲載していますので、確認してください (<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>)。

主に次の情報を掲載しています。

- (1) 窓口取扱時間
- (2) 届出書・願書および各種証明書
- (3) 各種証明書の交付について
- (4) 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて



2. 保健管理センター

保健管理センターの利用については、本学ホームページ「保健管理センター」に掲載しています (<https://www.ryukoku.ac.jp/hoken/index.php>)。

毎年、4月には学生の定期健康診断が実施されますので、日程をホームページで確認するようにしてください。その他、主に次の情報を掲載しています。

- (1) 緊急時には
- (2) 学校感染症に罹患した場合には
- (3) カウンセラーに相談したい
- (4) 保健師・看護師に相談したい
- (5) 医師の診療を受けたい
- (6) 急な怪我をした
- (7) タバコをやめたい
- (8) 健康チェックをしたい
- (9) 健康診断
- (10) 健康診断証明書・健康診断書発行について
- (11) AEDについて知りたい

第5部の「II 緊急時の対応」も参照してください。



3. 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、すべての学生が社会参加に向けて主体的に取り組むことを支援するという視点に立ち、障がいのある学生の学修や学生生活上の困難に対し、様々な相談、支援を行っています。また、障がいのある学生とサポートをする学生、その他すべての学生や教職員が互いに理解し、尊重し合える関係づくりを目指し、サポーター養成や研修会、交流会などにも取り組んでいます。詳しくは、本学ホームページ「障がい学生支援」に掲載しています (<https://www.ryukoku.ac.jp/support/index.php>)。

ホームページでは、主に次の情報を掲載しています。

- (1) 障がい学生支援室について
- (2) 支援を希望される方へ（支援の内容、支援の申し出方法、障がい学生支援室の紹介）
- (3) 支援をしたい方へ（学生スタッフ募集）
- (4) よくある質問（Q&A）



Ⅱ 授業等の休講措置に関する取扱基準 (自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について)

自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱については、「授業等の休講措置に関する取扱基準」によります。



- 授業等の休講措置に関する取扱基準：

https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/classinfo/disaster.html

「授業等の休講措置に関する取扱基準」に定める自然災害及び交通機関不通時の授業等の実施有無については、以下の4つの方法で確認することができます。

確認方法	説 明
(1) 龍谷大学ホームページ https://www.ryukoku.ac.jp/ 	トップページに「重要なお知らせ」として授業実施の有無を記載します。
(2) ポータルサイト https://portal.ryukoku.ac.jp 	ポータルサイトのログイン画面に、ホームページと同様の情報を記載します。
(3) 公式 Twitter「龍谷大学（緊急連絡用）」 https://twitter.com/Ryukoku_univ (@Ryukoku_univ) 	大学全体に関わる緊急情報の速報発信を目的として、本学公式Twitterアカウントを開設しています。ここからホームページと同様の情報を発信します。
(4) 公式 Facebook「龍谷大学」 https://www.facebook.com/RyukokuUniversity 	大学全体の特色等を発信することを目的として、本学公式Facebookページを開設しています。緊急時には本アカウントからも、ホームページと同様の情報を発信します。

※緊急時は、大学ホームページおよびポータルサイトへのアクセスが集中し、サイトを閲覧できなくなる可能性がありますので、「公式Twitter」と「公式Facebook」の利用を推奨します。

Ⅲ 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の学籍番号が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明証（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

$\begin{array}{c} \text{X} \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{c} 21 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{c} 0 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{c} 001 \\ \hline \end{array}$
L：文学部 E：経済学部 B：経営学部 J：法学部 T：理工学部 C：社会学部 W：国際文化学部 H：政策学部 U：国際学部 N：農学部 Y：先端理工学部 S：短期大学部 M：実践真宗学研究科 R：留学生別科	入学年度(西暦)の下2桁	学生区分(主たる学生区分を記す) 学部生：0～7 編転入生：8 再入学生：9 修士課程：M 博士後期課程：D 短大専攻科生：A 専門職学位課程生：F 研究生：R 特別専攻生：S 科目等特別履修生：U 科目等履修生：V 外国人特別留学生・交換留学生：Y	学部内における個人番号

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。

頭のアルファベット（学部等をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にするものとして、学籍簿（入学手続き時に各自がWeb入学手続にて登録）が編成されます。学籍簿に登録される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに経済学部教務課窓口へ届け出てください。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

経済学部では、次のとおり学生証を交付します。

- ・入学時に学科専攻が記載されていない学生証を交付します。
 - ・第4 Semester開始時に、配属する学科（現代経済学科または国際経済学科）が記載されたシールを配付します。各自、学生証の「学科専攻欄」にシールを貼付して使用してください。
- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ① 学業成績表を受領するとき。
 - ② 試験を受けるとき。
 - ③ 各種証明書の発行を受けるとき。
 - ④ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - ⑤ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - ⑥ 図書館を利用するとき。
 - ⑦ その他、本人であることを確認することが必要なとき。
 - (2) 入学時（新入生オリエンテーション時）に交付した学生証は、卒業するまで使用しますので大切に扱ってください。ただし、在籍を証明する「在籍確認シール」（学生証裏面に貼付）は毎年学年初めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら（在学生は、必ず前年度のシールをはがしたうえで）、速やかに新しいシールを貼ってください。

シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。

なお、当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は、無効として取り扱いますので注意してください。
 - (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに経済学部教務課窓口にてその内容を届け出てください。ただし、「在籍確認シール」に記載されている“通学区間情報”を変更する場合は、ポータルサイトの“連絡先・通学情報登録”画面にて変更のうえ、経済学部教務課窓口で「在籍確認シール」の交付を受けてください。
 - (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに経済学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」（紛失・破損届）に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署（交番）・生協事務室に紛失届等の提出をしてください。
 - (5) 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを経済学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。
 - (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
 - (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
 - (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに経済学部教務課窓口にて返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合としては、退学と除籍の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失（本学の学生でなくなる）することです。

依願退学は、学生の意志によるものであることから、いつでも願い出ることができますが、次の諸手続きが必要です。

- 1) 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。
- 2) 当該学期分の学費を納入していること（学費の納入と学籍の取得は対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学をする場合は、学部で個別に対応しますので相談してください）。

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることができません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを除籍として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ① 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- ② 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ③ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、休学を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ① 大学所定の書式により願い出ること。
- ② 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ③ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

① 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。

1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに経済学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。なお、受付は窓口の開室日に限ります。

② 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。

③ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) **休学中の学費**

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) **復学の願い出**

休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。復学の願い出は、学期開始日の前1ヶ月以内にしなければなりません。

(5) **休学による学年進行**

学年進行するためには、各年度末の時点で当該学年における1年以上の在学歴が必要となります。例えば1年生の時に第1学期もしくは第2学期のいずれか1学期間の休学をした場合、在籍2年目となる翌年度の一年間も1年生の扱いとなります。このことにより、在籍2年目も1年生対象の科目しか受講できないことがありますので、休学する場合は履修計画に注意してください。

6. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に、入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときに、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときに除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせてください。

7. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を経済学部教務課窓口へ速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがある。（学則第13条）
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。（学則18条の3）

8. 9月卒業

第1学期（前期）末（9月30日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、届出期間内に9月卒業の希望申込をした場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません）。詳細については経済学部教務課窓口で相談してください。

Ⅳ 大学院経済学研究科入学ガイド

入学試験の実施時期、出願条件等は2021年度までの実績です
入学試験に関する詳細な要項については経済学部教務課窓口へお尋ねください

経済学研究科は、世界と地域社会における対話と共生に基づく平和と発展に貢献することを目指して、世界に対する深い理解と創造的な理論構築あるいは応用分析の能力を備えた研究者、高邁な理想と経済学的知識に裏打ちされた高い実践能力を持つ専門職業人等を育成しています。

1. 修士課程

修士課程では、2つのプログラムを開設し、世界に対する深い理解と創造的な理論構築あるいは応用分析の能力を備えた研究者、高邁な理想と経済学的知識に裏打ちされた高い実践能力を持つ専門職業人等の人材育成をおこないます。

(1) 経済学総合研究プログラム

本プログラムでは、全員履修科目で経済学の実践的研究能力を修得するとともに、各自の研究テーマに基づき、「理論・思想・歴史」「政策・応用」「国際・民際」の3分野から主分野、副分野を選択し、体系的な科目履修を行います。

(2) アジア・アフリカ総合研究プログラム

本プログラムは、アジア・アフリカ地域研究を対象とする修士課程のプログラムで、法学研究科、経済学研究科、国際学研究科の3つの研究科が共同で運営しています。

それぞれの研究科から、アジア・アフリカ地域研究の専門家がこのプログラムに参加しているため、国家や民族、紛争と平和、世界システム、文化交流など多様な事項について学び、国家の関係からなる「国際」の視点とともに、人間の関係からなる「民際」の視点から、現代社会とりわけアジア・アフリカ地域を研究します。

◆修士課程入学試験について

本学の大学院経済学研究科修士課程の入学試験科目は、「口述試験」のみです（外国人留学生入試は「日本語による小論文」と「口述試験」です）。但し、大学院でどのような研究をしたいのか、これまでどのような研究をしてきたのかを「研究計画書」として出願時に提出する必要があります。

(1) 一般入学試験…4月入学（9月・2月）

秋期試験（9月）、春期試験（2月）があります。

※留学生は、外国人留学生入学試験（4月入学（11月）、9月入学（6月））があります。

(2) 学内推薦入学試験…4月入学（6月・9月）

翌年3月に卒業見込であり、前年度終了時のGPAが2.30以上の学生を対象とした入学試験です。本人作成による演習論文概要（2000字程度）の提出が必要となります。

(3) 社会人入学試験…4月入学（9月・2月）

近年、社会情勢の急激な変化や、国際的な相互依存関係の進展の結果、社会人の間に生涯教育や再教育への期待が高まってきました。また、就職後に改めて研究の必要性を感じる人も増加しています。今後、教育は、一層高度化することが見込まれています。

幅広い分野からの人材を求める経済学研究科では、このような期待に応えるために社会人のための特別選抜入学試験制度を導入しています。

2. 博士後期課程

博士後期課程では、修士課程において養われた学識、研究能力の基礎の上に立ち、国際的水準の創造的研究を実現できる研究者等の人材育成をおこないます。

◆博士後期課程入学試験について

博士後期課程の入学試験科目は、「外国語」「専門科目口述試験」です。入学試験は例年2月中旬に実施しています。入試に関する詳細な要項については経済学部教務課窓口へお尋ねください。

※留学生は、外国人留学生入学試験（4月入学（2月）、9月入学（6月））があります。

3. 大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）について

学内進学者（本学学部から本学大学院（修士）及び本学大学院（修士）から本学大学院（博士後期）への進学者）のうち学業成績及び人物が優秀と認められる者を対象とした給付奨学金制度です。

本制度は、大学院の入学試験出願前に申請、選考、内定を行いますので、大学院への進学を検討している方は、掲示板、ポータルサイトを確認のうえ、詳細は経済学部教務課までお問い合わせください。

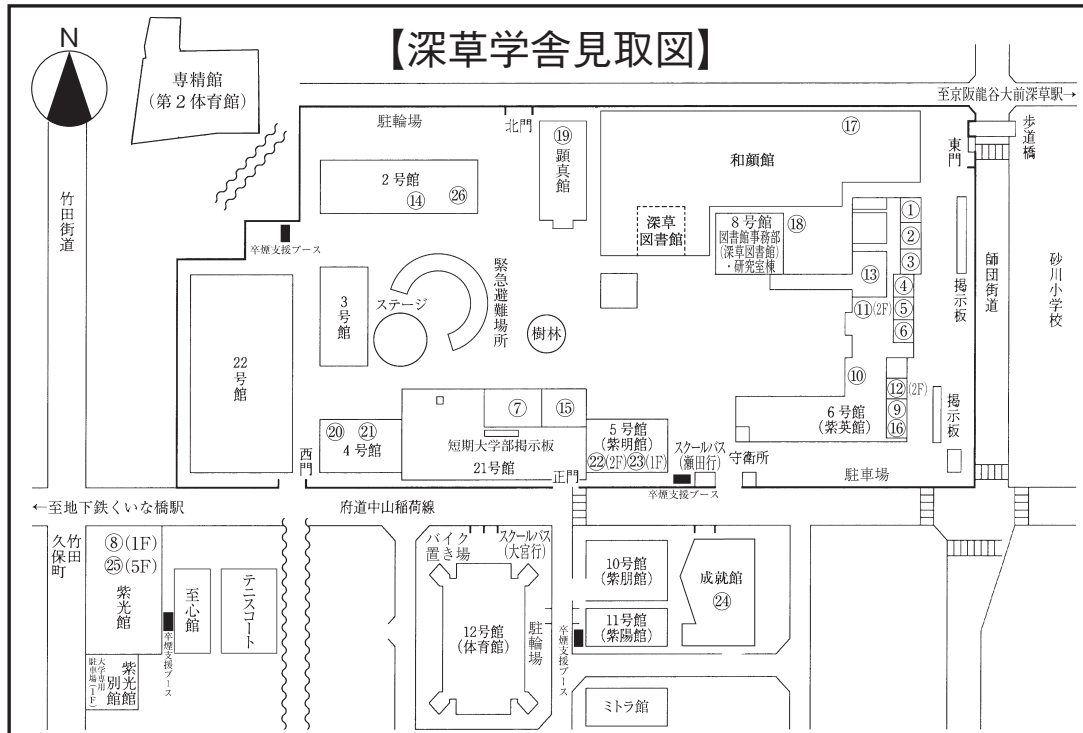
大学院経済学研究科については、以下のホームページもご参照ください。

<https://www.econ.ryukoku.ac.jp/daigakuin/>

第5部 付 録

I	学舎見取図	129
II	緊急時の対応	132

I 学舎見取図

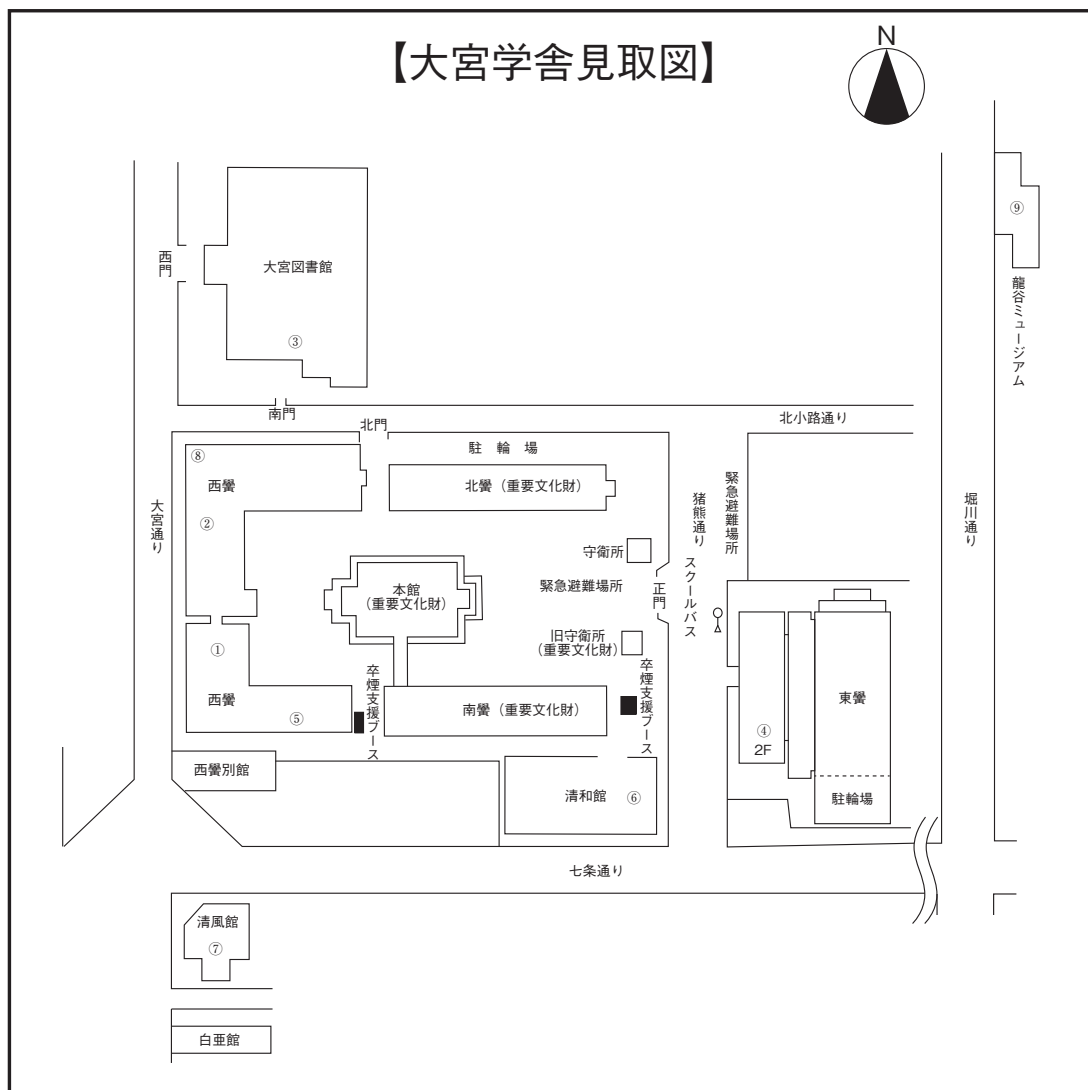


深草学舎 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL 075-642-1111 (代表)

◆主な事務室連絡先

市外局番は「075」です。

部 署 名	事 例	ダイヤルイン	FAX
① 政策学部教務課	政策学部の科目に関する事	645-2285	645-2101
② 法学部教務課	法学部の科目に関する事	645-7896	643-9901
③ 経営学部教務課	経営学部の科目に関する事	645-7895	643-9901
④ 国際学部教務課	国際学部の科目に関する事	645-5645	645-6444
⑤ 経済学部教務課	経済学部の科目に関する事	645-7894	645-6444
⑥ 文学部教務課	文学部の科目に関する事	645-7893	645-5639
⑦ 短期大学部教務課	短期大学部の科目・実習・社会活動に関する事	645-7897	645-2825
短期大学部実習指導室 短期大学部社会活動センター		645-7906	
⑧ 法学部教務課紫光館分室 (法科大学院修了生支援室)	法科大学院修了生の支援に関する事	645-2070	645-2071
⑨ 教育学部 教養教育センター事務部 教職センター	深草・大宮学舎の教養教育科目に関する事 教室に関する事 教職課程に関する事	645-7891	643-5021
⑩ 教材作成室	印刷が必要な教材作成に関する事	645-3749	643-5021
⑪ 研究部(深草) [2階]	各種研究支援に関する事	645-7891	643-5021
⑫ 総務部人事課 [2階]	人事・給与に関する事	645-7922	645-2033
⑬ 講師控室(6号館)	大学からの通知・連絡		
⑭ 講師控室(2号館)			
⑮ 障がい学生支援室	障がい学生支援に関する事	645-7874	645-8685
⑯ 学修支援・教育開発センター	教育活動の支援に関する事	645-5685	645-2825
⑰ グローバル教育 推進センター事務部	留学・国際交流に関する事	645-2163	645-2190
⑱ 図書館事務部(深草)	図書館利用に関する事	645-7898	645-2020
⑲ 宗教部	宗教教育・宗教行事に関する事	645-7885	645-8691
⑲ 学生部(深草) スポーツ・文化活動 強化センター	宗教育・宗教行事に関する事	645-7880	645-7939
⑳ 学生部(深草) スポーツ・文化活動 強化センター	学生生活に関する事	645-7889	644-2988
㉑ 保健管理センター	診察、健康診断、健康相談に関する事	645-7879	645-2825
㉒ 情報メディアセンター [2階]	情報実習室、メディア機器の利用に関する事 メディア教材作成に関する事	645-2108	645-2109
㉓ キャリアセンター	学生の就職支援及びキャリア開発に関する事	645-7878	645-5556
㉔ 龍谷大学ボランティア ・NPO活動センター	教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関する事	645-2047	645-2064
㉕ REC事務部(京都)	地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育・研究活動の推進に関する事	645-7892	645-9222
㉖ 生活協同組合	購買(書籍・文具・チケット等)	642-0213	643-7774



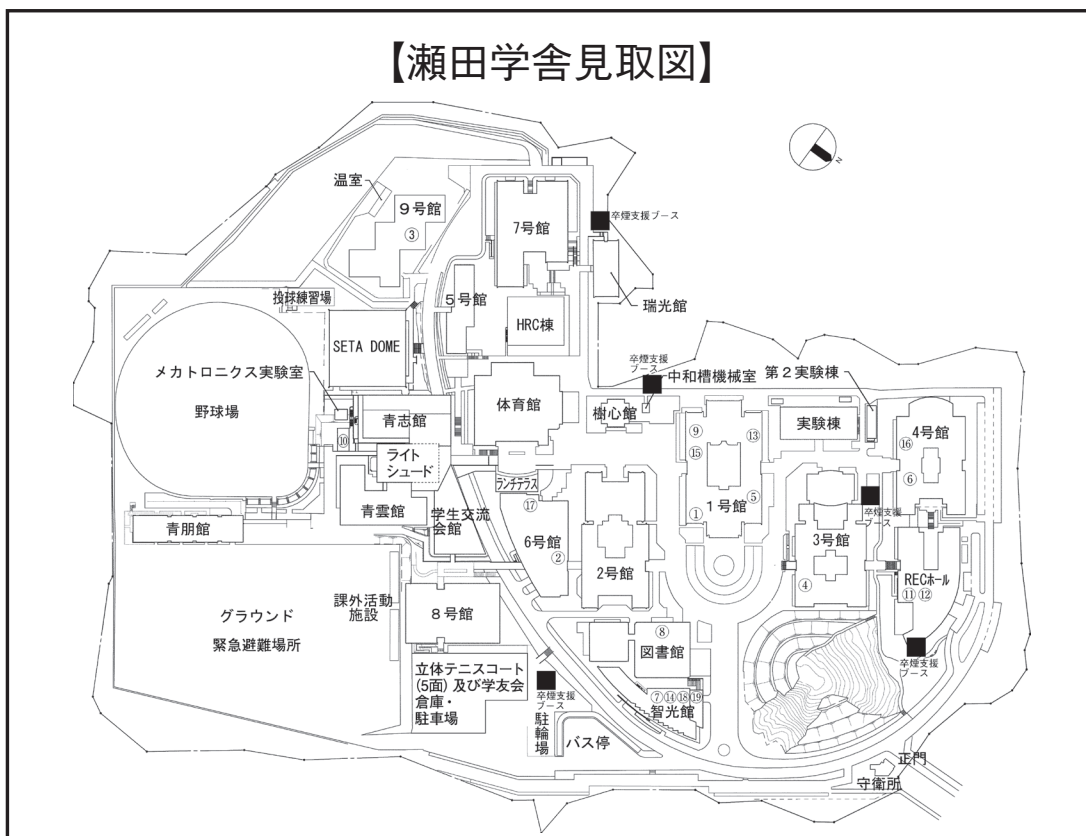
大宮学舎 〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1
TEL 075-343-3311 (代表)

◆主な事務室連絡先

市外局番は「075」です。

部 署 名	事 例	ダイヤルイン	FAX
① 文学部教務課	文学部の科目に関すること 教材作成に関すること	343-3317	343-4302
② 講師控室	大学からの通知・連絡	343-3311 (代表)	343-3319
③ 図書館事務部 (大宮図書館)	図書館の利用に関すること	343-3318	343-3345
④ キャリアセンター (大宮)	学生の就職支援及びキャリア開発に関すること	343-3484	343-3485
⑤ 保健管理センター	診察、健康診断、健康相談に関すること	343-3322	343-3490
⑥ 生活協同組合	購買(書籍、文具、チケット等)	352-3981	343-6428
⑦ 情報メディアセンター (大宮)	情報実習室、メディア機器の利用に関すること	366-0612	366-0613
⑧ 世界仏教文化 研究センター事務部		343-3458	343-4022
⑨ 龍谷ミュージアム事務部		351-2500	351-2577

【瀬田学舎見取図】



瀬田学舎 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5
TEL 077-543-5111 (代表)

◆主な事務室連絡先

市外局番は「077」です。

部 署 名	事 例	ダイヤルイン	FAX
① 先端理工学部教務課	先端理工学部・理工学部の科目に関する事	543-7730	543-7749
② 社会学部教務課	社会学部の科目に関する事	543-7760	543-7615
③ 農学部教務課	農学部の科目に関する事	599-5601	599-5608
④ 瀬田教育学部 教養教育センター事務部 教職センター(瀬田)	瀬田学舎の教養教育科目に関する事。教職に関する事。教室に関する事。教材作成に関する事	543-7739	543-7674
⑤ 講師控室	大学からの通知・連絡	543-7770	-
⑥ 学生部(瀬田)	学生生活に関する事	543-7734	543-7889
⑦ 情報メディアセンター(瀬田) (メディア教材作成室)	情報処理実習室、メディア機器の利用に関する事 メディア教材作成に関する事	544-7287	544-7289
⑧ 瀬田図書館 (図書館事務部)	図書館の利用に関する事	543-7751	543-7769
⑨ 研究部(瀬田)	各種研究支援に関する事	543-7741	544-7195
⑩ ボランティア ・NPO活動センター事務部(瀬田)	教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関する事	544-7252	544-7261
⑪ REC事務部(瀬田)	地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育・研究活動の推進に関する事	543-7743	543-7771
⑫ 知的財産センター事務部	知的財産に関する事	544-7270	544-7263
⑬ キャリアセンター(瀬田)	学生の就職支援及びキャリア開発に関する事	543-7735	543-7780
⑭ グローバル教育推進センター(瀬田)	留学・国際交流に関する事	543-7672	544-7251
⑮ 瀬田事務部	瀬田学舎全般に関する事	543-7710	543-7729
⑯ 保健管理センター(瀬田)	診察、健康診断、健康相談に関する事	543-7781	543-7783
⑰ 障がい学生支援室	障がい学生支援に関する事	544-7216	543-7236
⑱ 生活協同組合	購買(文具、チケット等)	544-4111	544-4114
⑲ 丸善	購買(書籍)	543-7777	543-5135

はじめに
履修一般
教育課程
教養教育科目
学部専攻科目
学部共通コース
留学・単位互換等
教職課程その他
学修生活
大学院経済学研究科
付 録

Ⅱ 緊急時の対応

1. 保健管理センターの利用

(1) 医師の診察を受けたい

保健管理センターには、医師の診察や投薬を受けることができる診療所が設置されています。一般の診療所と同じく保険での診療を行っていますので、保険証の提示が必要です。

体調不良、気になることがある場合やケガの簡単な手当など、遠慮なく来所してください。また、精密検査や専門的な治療を必要とする場合は、専門医を紹介します。

診察日や時間は、保健管理センターのホームページで確認してください。

(2) 急な怪我をしたり、気分が悪くなった（応急処置）

授業や課外活動中に思わぬ事故で“けが”をしたり、急に体調が悪くなったような場合は、医師の診療時間外にも看護師が応急処置に応じています。また、教室等で急病やケガ人が発生し、保健管理センターまで来所できない場合は、看護師が現場まで出向、対応します。

また、保健管理センターには休養室が設置されています。学内で体調を崩したときなどにご利用ください。

開室日や時間は、保健管理センターのホームページで確認してください。

※保健管理センターのホームページ <https://www.ryukoku.ac.jp/hoken/index.php>

2. 救急・夜間休日診療および深草・大宮学舎近隣医療機関

救急・夜間休日診療

※ 夜間・休日および年末年始の診療です。診察時間は必ず事前に電話で確認してください。

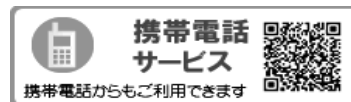
病院名	住所	電話番号	診療科目	診療受付時間
京都市急病診療所	JR二条駅すぐ 京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 (京都府医師会館1階)	354-6021	内科 眼科 耳鼻咽喉科	<内科・眼科> 土:18:00~22:00、 日・祝、8/15・16、12/29~1/3:10:00~17:00、18:00~22:00 <耳鼻咽喉科> 日・祝、8/15・16、12/29~1/3:10:00~17:00
京都市休日急病歯科中央診療所	京都市中京区西ノ京東桐尾町1番地 JR二条駅前 京都府歯科医師会口腔保健センター1階	812-8493	歯科	日・祝、8/15・16、12/29~1/4:10:00~17:00
京都府精神科救急情報センター	(電話専用相談窓口)	323-5280	精神科	平日:17:00~翌日8:30 土曜・日曜・祝及び年末年始:24時間

深草・大宮学舎近隣医療機関

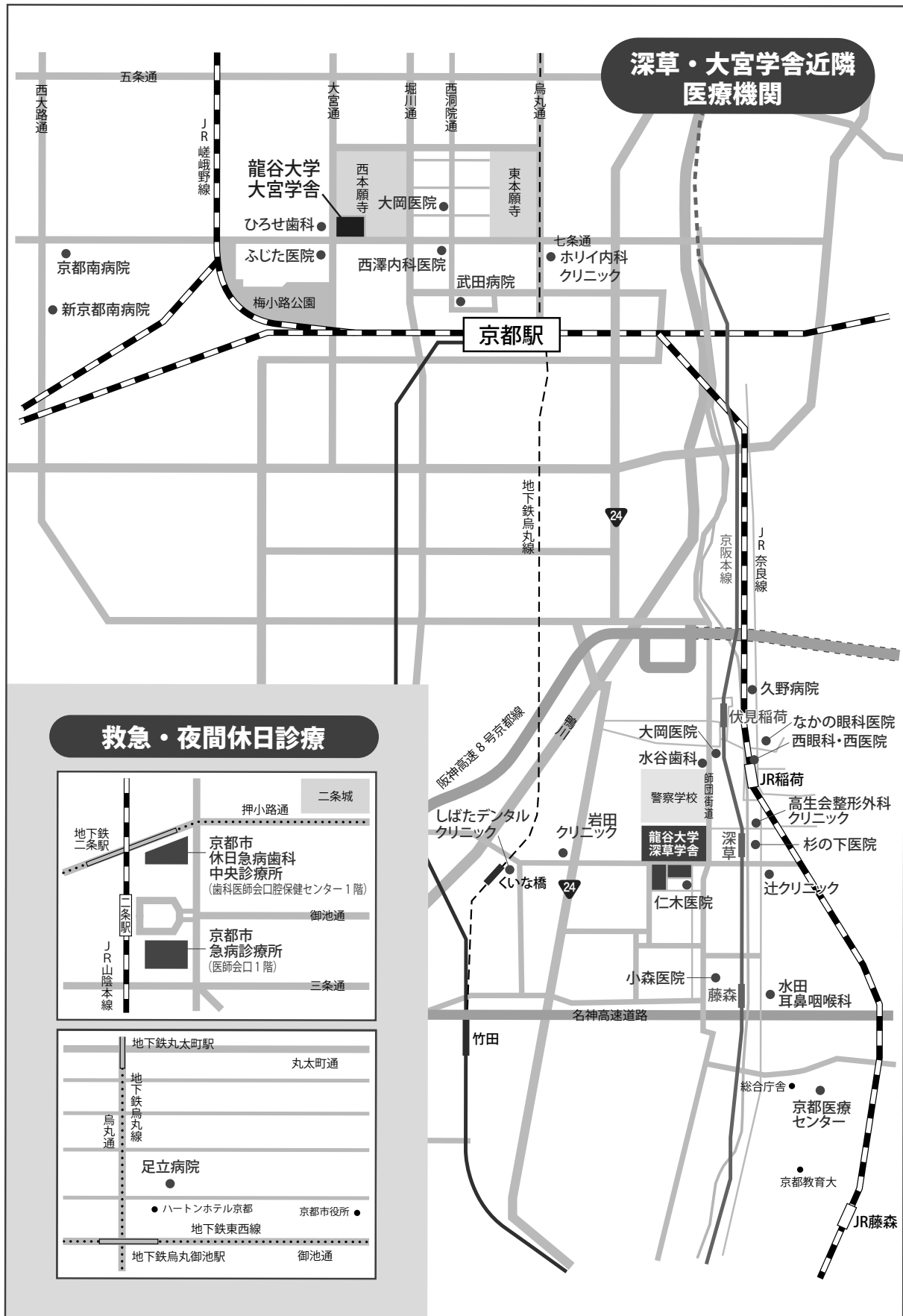
※ 診療科目・診療日・診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認してください。
※ 救急指定病院は24時間の診療体制を行っています。診療科目など詳しいことは直接電話で確認してください。

総合病院	病院名	住所	電話番号	診療受付時間	月 火 水 木 金 土							
					月	火	水	木	金	土		
総合病院	京都医療センター ※救急指定病院	深草総合庁舎横 京都市伏見区深草向畑町1-1	641-9161	8:30~11:00	○	○	○	○	○	×	休診日:土・日・祝祭日 12/29~1/3	
	京都久野病院 ※救急指定病院	JR「福荷」駅下車 北へ約500m 京都市東山区本町22-500	541-3136	8:30~12:00 17:30~20:00	○	○	○	○	○	○	休日・夜間は対応できない 診療科あり 事前電話相談 必要	
	康生会 武田病院 ※救急指定病院	JR「京都」駅烏丸口より徒歩5分 中央郵便局横 京都市下京区塩小路通西洞院東入東塩小路町 841-5	361-1351	8:00~12:00 13:00~16:00							☆診療科により 診療日異なる	急患・夜間24時間受付 075-361-1351 日・祝祭日・年末年始休診
	京都南病院	市バス「七条御前通」下車すぐ 京都市下京区西七条南中野町8	312-7361	8:30~12:00 13:30~16:30							☆診療科により 診療日異なる	時間外の受診や急患・救急 は新京都市南病院TEL連絡
	新京都市南病院 ※救急指定病院	市バス「西大路七条」下車徒歩7分 京都市下京区七条御所ノ内北町94番地	322-3344	9:00~12:00 16:30~19:30	○	○	○	○	○	○	救急外来365日24h ☆ (水)17:30~診療Dr.交代制	
内科	仁木医院	砂川東児童公園北側すぐ 京都市伏見区深草西浦町4丁目21番地	641-2411	9:00~12:00 17:30~19:30	○	○	○	×	○	○	内科・循環器科 Web初診受付あり	
	西医院	「福荷」駅下車 北へ徒歩1分 京都市伏見区深草福荷御前町90西クニビル2F	641-6251	9:00~11:30 17:30~19:30	○	○	○	○	○	○	内科・消化器科・小児科	
	ふじた医院	七条大宮西南角 京都市下京区大宮通七条下ル御器屋町67	343-4188	9:00~12:00 17:30~19:30	○	○	○	○	○	○	内科・消化器科 ※Web診療予約システムあり	
	ホリイ内科クリニック	JR「京都」(烏丸地下道)から徒歩4分3Dハシカメ前 京都市下京区不明門通七条下ル東塩小路町735-1 1 京阪京都ビル7F	353-3900	9:00~11:30 13:00~15:30 17:00~19:30	○	○	○	○	○	○	内科・専門外来(腎臓・高血 圧・脂質異常症・甲状腺・肥 満・糖尿病など)	
外科	辻クリニック	第一軍道を東へ 京都市伏見区深草直達橋9-184-2	641-3073	9:00~12:30 16:30~19:30	○	○	○	○	○	○	外科・消化器科・整形外科・ 内科・皮膚科・泌尿器科 Web初診受付あり	
	岩田クリニック	竹田街道キリン堂薬局前 京都市伏見区竹田久保町19-1 サンウイリア1F	646-2880	8:40~12:00 17:10~20:00	○	○	○	○	○	○	外科・胃腸科・内科・皮膚科 ・肛門科(時に臨時休診あり)	
整形外科	高生会整形外科クリニック	京阪「龍谷大前深草」駅 東へ徒歩1分 京都市伏見区直達橋10-157-2	647-2828	9:00~12:00 16:30~19:00	○	○	○	○	○	○	(土)午前:代診	
眼科	西眼科クリニック	JR「福荷」駅下車 北へすぐ 京都市伏見区深草福荷御前町90 西クニビル1F	646-1900	9:00~12:00 16:00~19:00	○	○	○	×	○	○	☆ (土)9:00~13:00	
	なかの眼科	JR「福荷」駅下車 北へ徒歩2分 京都市伏見区深草福荷中町45	645-1572	9:00~12:00 17:00~19:00	○	○	○	○	○	○		
耳鼻科	大岡医院(福荷診療所)	JR「福荷」徒歩5分 京阪「伏見福荷」徒歩2分 伏見区深草区深草祇川町21 ファインルーム伏見福荷 1F	642-3387	9:00~12:00 16:30~19:30	○	○	○	×	○	○	☆ (土)診療12:30まで 以下 要予約 手術・検査 火土土:12時~ 睡眠検査 火土:夜 マウスピース外来あり	
	大岡医院(七条診療所)	市バス「西洞院正面」停留所から1分 京都市下京区西洞院通七条上る鍛冶屋町435-1	371-3387	9:00~12:30 17:00~19:30	○	○	※	○	○	○	※手術・検査のみ(要予約) Web予約あり 睡眠時無呼吸相談可能	
婦人科	京都駅前婦人科まきりクリニック	京都駅八条東口より徒歩2分 京都市南区東九条上殿田町40-6 上殿田ビル2階 (京都駅八条口郵便局2階)	574-7681	8:45~16:30 16:30~20:30	○	○	○	○	○	○	(日)8:45~16:30診察あり 電話予約は受付時間内に (火木以外は16:30受付終了) 24時間WEB予約あり	
	第二足立病院	九条通り バス停東寺南門前から北方すぐ 京都市南区四ツ塚町1	681-7316	9:00~12:00 17:30~20:00	○	○	○	○	○	○	産科・婦人科・思春期相談 電話問い合わせ:受付時間 内Webメール問い合わせ可	
歯科	くいしばし デンタルクリニック	地下鉄「くいな橋」駅1番出口すぐ 京都市伏見区竹田中島町206番地 地下鉄くいな橋駅前ビル1階	643-3545	10:00~13:00 15:00~20:00	○	○	○	○	○	○	▲ 第2.4木曜午後休診 (土)10:00~15:00 電話予約10:00~20:00 初診受付19:30まで 24hWeb予約 あり	
	水谷歯科	師団街道警察学校の北側(伏見福荷駅から徒歩3分) 京都市伏見区深草祇川町24-1	641-0675	9:00~11:30 15:00~18:30	○	○	○	×	○	○		
	ひろせ歯科医院	平安高校となり 京都市下京区大宮七条上る御器屋町43	361-6480	9:00~13:00 14:30~18:00	○	○	○	○	○	○	【予約制】 急患随時受付 臨時休診有り	
皮膚科	杉の下医院	京阪「龍谷大前深草」駅東側 京都市伏見区深草直達橋10丁目171	641-0371	9:00~12:00	○	○	○	×	○	○	内科・皮膚科(時に診察日変更あり) (土)内科のみ	

現在診療中の医療機関を探したいとき 【京都健康医療 よろずネット】
075-694-5499(自動音声・FAXサービス)
<http://www.mfis.pref.kyoto.lg.jp>



はじめに
履修一般
教育課程
教養教育科目
学部専攻科目
学部共通コース
留学単位互換等
教職課程その他
学修生活
大学院経済学研究科
付録



2021年3月31日 印刷

2021年4月1日 発行

発行 龍谷大学経済学部

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

代表 ☎ (075) 642-1111

編集 経済学部教務委員会

印刷所 (株) 言行堂印刷
